

三和工業団地 I 遺跡(2)

— 縄文・古墳・奈良・平安時代他編 —

三和工業団地造成事業に伴う三和工業団地 I 遺跡
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

1999

群馬県企業局
群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	(財)群馬県埋蔵文化財	01-353
	調査事業団保管	697
No. ⁹⁹⁻ 1776	平成11年 7月 (日)	1(5)

SAN WA KOU GYOU DAN CHI
三和工業団地 I 遺跡(2)

— 縄文・古墳・奈良・平安時代他編 —

三和工業団地造成事業に伴う三和工業団地 I 遺跡
埋蔵文化財発掘調査報告書第 2 集

1 9 9 9

群 馬 県 企 業 局
群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



▲ 周囲に溝の巡る竪穴住居 (古墳時代前期, 26・31頁参照)

幅70cm、深さ70cmの溝が12号住居(写真右上)の周囲を半円形に巡り、下流で9号住居(写真左下)の溝と合流して東側の低地部にかけて70mほど延びている。一方、途中で分岐した溝が12号住居と底面でトンネル状に接続する。

東海地方の東部に特有なこの溝の存在は、酷似したその形態から文化の伝播と言うよりも、同地方からの直接的な移住を暗示している。



▲ 遺跡中央部の竪穴住居分布状況



▲ 遺跡西端部の竪穴住居分布状況



▲ 低地部遺景(北から望む)

集落と湧水点

三和工業団地1遺跡が立地する大間々扇状地1面には、標高90mの等高線に沿うようにいくつかの湧水点が点在し、これを谷頭とするいく筋かの開析谷がローム台地を刻んでいる。現在、水田はこの開析谷だけに営まれ、周囲の台地上は広い畑となっている。これは、扇状地では降水が地下の深部に浸透する扇状地特有の現象から、河川のないこの地域に広範囲な水田を造成することが不可能なためだ。

この遺跡では、湧水点とその周囲の台地が調査の対象となった。台地上に累々と築かれた古墳時代前期の竪穴住居は、低地に確認した谷頭湧水点の掘削痕と有機的に関連し、これらはこの地域における湧水点を利用した初期の農耕集落が、古墳時代前期にまで遡ることを示している。

すなわち、この地域の水田農耕は、この広い大地から湧水点の存在した部分のみを選択して開始され、それが湧水点とともに今なお生き続けているのである。



遺跡遺景(南から望む)▶



▲ 谷A湧水点調査風景



▲ 谷A湧水点(242頁参照)

浅間B軽石の直下から現れた平安時代の湧水点。軽石を除去すると、あたかも900年の眠りから覚めたかのように、細かな気泡とともに清水が噴出した。ここから下流に掘削された導水路の存在は、少なくともこの湧水点の利用が12世紀まで遡ることを示す。調査は真冬の1月にあったが湧水の温度は14℃もあり、気温5℃のなかで長靴を通してその暖かさが伝わった。



▲ 谷B谷頭(248頁参照)



▲ ありし日の「男井戸」湧水(昭和52年冬、星野正明氏撮影)



◀ ありし日の「男井戸」湧水
(昭和46年春、星野正明氏撮影)



▲ 祭祀跡出土遺物(古墳時代前期, 254頁参照)

集落と出土遺物

竪穴住居から頻りに出土する土器群は、住居にテフラの一次堆積層がないために残念ながらテフラとの新旧関係がほとんど不明で、浅間C軽石(As-C)に直接覆われた状態で出土した、低地部の祭祀跡の土器群とは対照的だ。

一方、古墳時代前期の土器の一部には、S字状口縁台付甕に代表される東海地方などの外来系のものが含まれる。これらは、東海地方東部からの直接的な移住を示す竪穴住居の存在と併せて、この年代における人や物の移動とその意味を考える上で貴重な資料を提供している。



▲ 12号住居出土遺物(古墳時代前期, 34頁参照)



▲ 80号住居出土遺物(古墳時代前期, 97頁参照)



▲ 104号住居出土遺物(古墳時代後期, 165頁参照)



▲ 24号住居出土遺物(平安時代, 197頁参照)

序

三和工業団地Ⅰ遺跡は、群馬県企業局による三和工業団地造成に先立ち調査されました。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査は、平成7年度と8年度に実施されました。その調査からは、後期旧石器時代から現代におよぶ遺構・遺物が発見され、当遺跡が歴史的に重要な場所に営まれていることが判明しました。

本報告書には、そのなかで縄文時代から現代にあたる内容をおさめました。本遺跡からは、縄文時代、古墳時代前期・奈良・平安時代の集落が確認されています。特に、これらの集落は低地に存在する湧水点と深く関わり、この湧水点との関係が現代でも共通して、当時の生活を解明する上で貴重な資料になるものと確信しております。

発掘調査から報告書の作成に至るまで、群馬県企業局、群馬県教育委員会、伊勢崎市教育委員会、(株)シン技術コンサル、地元関係者の方々から種々ご指導、ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史を解明する上で、広く活用されることを願い序とします。

平成 11 年 3 月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 菅野 清

例 言

- 1 本書は三和工業団地造成工事に伴う、三和工業団地Ⅰ遺跡の発掘調査報告書である。三和工業団地遺跡はⅠ～Ⅳ遺跡に分かれるが、このうちのⅠ遺跡を(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が、Ⅱ～Ⅳ遺跡を伊勢崎三和工業団地埋蔵文化財発掘調査団がそれぞれ担当した(図Ⅰ参照)。なお、平成10年8月14日以前の刊行物における「三和工業団地遺跡」は、三和工業団地Ⅰ遺跡に変更する。
- 2 三和工業団地Ⅰ遺跡は旧石器時代から現代に至る複合遺跡であるが、本巻では縄文時代以降を対象として収録した。旧石器時代については三和工業団地Ⅰ遺跡(Ⅰ)－旧石器時代編－を参照されたい。
- 3 本遺跡は群馬県伊勢崎市三和町1701番地他に所在する。
- 4 事業主体 群馬県企業局
- 5 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 6 調査期間 平成7年4月1日～平成8年3月31日(平成7年度)
平成8年4月1日～平成8年11月30日(平成8年度)
- 7 調査組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
常務理事 中村英一(平成7年度) 菅野 清(平成8年度)
事務局長 原田恒弘
管理部長 蜂巣 実
調査研究部長 神保侑史
総務課長 小淵 淳
調査研究部課長 佐藤明人
事務担当 國定 均 笠原秀樹 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 高橋定義 宮崎忠司
大澤友治 吉田恵子 松井美智代 内山佳子 星野美智子 羽鳥京子
菅原淑子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 山口陽子
調査担当 平成7年度 坂口 一(専門員) 桜岡正信(専門員)
津島秀章(調査研究員)
平成8年度 坂口 一(主幹兼専門員) 津島秀章(調査研究員)
須田貞崇(調査研究員)
- 8 整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 9 整理期間 平成9年10月1日～平成11年3月31日
- 10 整理組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
常務理事 菅野 清(平成9年度～10年度4～6月) 赤山容造(平成10年度7月以降)
事務局長 原田恒弘(平成9年度) 赤山容造(平成10年度)
管理部長 渡辺 健
調査研究部長 赤山容造
総務課長 小淵 淳(平成9年度) 坂本敏夫(平成10年度)
調査研究部課長 佐藤明人(平成9年度) 平野進一(平成10年度)
事務担当 笠原秀樹 井上 剛 小山健夫 須田朋子 宮崎忠司 吉田有光 柳岡良宏
岡嶋伸昌 大澤友治 吉田恵子 内山佳子 若田 誠 星野美智子

羽鳥京子 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 安藤友美 狩野真子
 整理担当 坂口 一(主幹兼専門員)
 整理班員 伊藤淳子 富永セン 岡田美知江 佐子昭子 増田政子 阿久澤明子
 根井美智子 羽鳥望東子 高橋フジ子 星野春子 新平美津子 市田武子
 吉原清乃 湯浅美枝子 船津博子

- 11 本書作成の担当者は次のとおりである。

編集 坂口 一

執筆 II章及び縄文土器観察表 桜岡正信(群馬県埋蔵文化財調査事業団 専門員)

陶磁器観察表 大西雅広(群馬県埋蔵文化財調査事業団 専門員)

自然科学分析は本文中に執筆者名を記載。

上記以外 坂口 一

遺構・遺物図面整理、図版作成等

伊藤淳子 富永セン 岡田美知江 佐子昭子 増田政子 阿久澤明子 根井美智子 星野春子

羽鳥望東子 高橋フジ子 新平美津子 市田武子 吉原清乃 湯浅美枝子 船津博子

遺物写真 佐藤元彦

保存科学 関 邦一 小材浩一 土橋まり子 萩原妙子 高橋初美

- 12 出土遺物と三和工業団地I遺跡の記録資料の一切は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

- 13 本書の作成にあたっては次の方々には有益な指導と助言を賜った。記して感謝の意を表す次第である。

赤塚次郎 飯島幹男 飯島義雄 石井克己 井上昌美 白居直之 江浦 洋 小笠原良人 金原正明

小泉範明 小林正春 定森秀夫 澤田 敦 鈴木敏則 鈴木裕明 須永光一 早田 勉 田中清美

田辺昭三 寺沢 薫 野原大輔 橋本澄朗 橋本裕行 早川隆弘 平田貴正 星野正明 前原 豊

三浦京子 三田村美彦 宮本長二郎 村田喜久夫 柳沼賢治 山内紀嗣 若狭 徹 Julie Park(敬称略)

凡 例

- 1 調査区域には、国家座標に基づいて10m間隔のグリッドを設定した。グリッド枠の北西隅(57E-04)は日本平面直角座標系第IX系のX=39,340km、Y=-54,740kmで、これは付図「遺跡全体図」に記載した。

- 2 住居の方位は、炉の付設された住居が住居の長軸線、竈が付設された住居は竈が付設された壁、あるいは竈が付設されていたと推定される壁に直行する軸線の、真北からの時計回りの角度とした。

- 3 遺物観察表の記載方法は次のとおりである。

(1) 胎土中の砂粒の大きさによる分類は、土壌物理研究会による基準に従い、細砂粒(<0.5mm)、粗砂粒(0.5~2.0mm)、細礫(2.0~5.0mm)、中礫(5.0mm >)とした。

(2) 色調は農林省水産技術会議事務局監修、(財)日本色彩研究所色標監修の新版標準土色帖に従った。

(3) 遺物の出土レベルは、遺構の床面から遺物までの垂直距離を示した。

- 4 竈穴住居の面積は、1/40図上でプランメーターによる3回の計測平均値を採り、住居確認面の掘り込みから内側を測定した。

- 5 本文中で使用したテフラの記号は以下の通りである。

浅間B軽石(As-B)…………… 1108(天仁元)年 榛名ニッ岳伊香保テフラ(Hr-FP)…… 6世紀中葉
 榛名ニッ岳浅川テフラ(Hr-FA) …… 6世紀初頭 浅間C軽石(As-C) …………… 4世紀初頭

報 告 書 抄 録

ふりがな	さんわこうぎょうだんちいちいせき じょうもん・こふん・なら・へいあんじだいほかへん							
書名	三和工業団地Ⅰ遺跡(2)―縄文・古墳・奈良・平安時代他編―							
副書名	三和工業団地造成事業に伴う三和工業団地Ⅰ遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書第2集							
巻次	第2集							
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告							
シリーズ番号	第251集							
編著者名	坂口 一 桜岡正信 大西雅広							
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団							
編集機関所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2 TEL 0279-52-2511							
発行年月日	西暦1999年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		(㎡)	
さんわこうぎょうだんちいちいせき 三和工業団地Ⅰ遺跡	いせさきしさん わまち 伊勢崎市三和町	10204		36° 21′ 05″	139° 13′ 35″	19950401～ 19961130	49,000	工業団地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
三和工業団地Ⅰ遺跡	集落	縄文	竪穴住居	3軒	縄文土器、石器			
			埋甕	2基				
			土坑	10基				
	古墳	陥穴	2基					
		竪穴住居	126軒	土師器、須恵器、鉄器、石製品				
		掘立柱建物	8棟					
平地式建物	1棟							
奈良・平安	祭祀跡	1箇所						
	竪穴住居	20軒	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦塔、瓦堂、鉄器					
	掘立柱建物	7棟						
井戸	7基							
田・畑	古墳	畑	数箇所					
墓	古墳	壺棺墓	1基	土師器				
その他	古墳・平安近・現代	湧水点掘削痕	各1箇所	湧水点	陶器、磁器			

目 次

<p>口絵 序 例言 凡例 報告書抄録</p>	<p>I 発掘調査と遺跡の概要 …………… 1</p> <p>1 調査に至る経緯と経過 …………… 1</p> <p>2 遺跡の位置と地形 …………… 2</p> <p>3 周辺の遺跡 …………… 5</p> <p>4 遺跡の基本層序 …………… 8</p> <p>II 縄文時代の遺構と遺物 …………… 9</p> <p>1 概要 …………… 9</p> <p>2 竪穴住居 …………… 10</p> <p>3 埋甕 …………… 14</p> <p>4 土坑 …………… 15</p> <p>5 陥穴 …………… 20</p> <p>6 遺構外出土遺物 …………… 21</p> <p>III 古墳時代の遺構と遺物 …………… 22</p> <p>1 概要 …………… 22</p> <p>2 古墳時代前期の竪穴住居 …………… 23</p> <p>3 古墳時代後期の竪穴住居 …………… 162</p> <p>4 掘立柱建物 …………… 166</p> <p>5 平地式建物 …………… 172</p> <p>6 畑 …………… 173</p> <p>7 土坑 …………… 176</p> <p>8 壺棺 …………… 183</p>	<p>IV 平安時代の遺構と遺物 …………… 184</p> <p>1 概要 …………… 184</p> <p>2 竪穴住居 …………… 185</p> <p>3 掘立柱建物 …………… 215</p> <p>4 井戸 …………… 220</p> <p>5 溝 …………… 222</p> <p>6 遺構外出土遺物 …………… 237</p> <p>V 低地部の遺構と遺物 …………… 238</p> <p>1 概要 …………… 238</p> <p>2 現代 …………… 239</p> <p>3 平安時代 …………… 241</p> <p>4 古墳時代後期 …………… 246</p> <p>5 古墳時代前期 …………… 247</p> <p>VI 調査の成果 …………… 258</p> <p>1 三和工業団地 I 遺跡における集落 と湧水点について …………… 258</p> <p>2 周溝の巡る住居について …………… 262</p> <p>付 編 …………… 266</p> <p>1 三和工業団地 I 遺跡の自然科学分析 …… 266</p> <p>2 三和工業団地 I 遺跡出土土器の胎土分析 274</p> <p>主要遺構索引 …………… 290</p> <p>写真図版</p> <p>別 冊 遺物観察表</p> <p>付 図 遺構全体図 (1/500)</p>
---	--	---

I 発掘調査と遺跡の概要

1 調査に至る経緯と経過

三和工業団地 I 遺跡の発掘調査は、群馬県企業局による三和工業団地造成事業に伴う発掘調査である。三和工業団地造成予定地の周辺地域には周知の遺跡が数多く存在することから、当地においても遺跡が存在することが予想された。このため、造成予定地の試掘調査が県企業局の主導により実施された。その結果、堅穴住居をはじめとする遺構が濃密に分布していることが確認され、発掘調査の必要性が認識されるに至った。

その後、県企業局と県文化財保護課との埋蔵文化財発掘調査に関わる調整作業を経て、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が、その発掘調査の一部を担当することとなった。三和工業団地造成予定地内における、発掘調査を必要とする面積は37万㎡であった。これを造成の工事区に沿ってⅠ～Ⅳの地区に分割し、このうち、Ⅰ地区に当たる約49,000㎡について、当事業団が担当した。Ⅱ～Ⅳ地区については、伊勢

崎三和工業団地埋蔵文化財発掘調査団が担当した。

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査は、平成7年4月1日から開始した。調査開始当初は、古墳時代と奈良・平安時代の集落を中心とした調査を実施した。その一方で、当遺跡の周辺には書上本山遺跡、上植木光仙房遺跡、堀下八幡遺跡などの旧石器時代の遺跡が数多くあることから、この調査区域においても旧石器時代の遺跡が存在する可能性が考えられた。

縄文時代以降の調査が終了した地点から、旧石器時代を対象とした試掘調査を実施した。その結果、ローム層中から石器が多量に出土することを確認するとともに、それが非常に広範囲に分布していることが確認された。そこで、群馬県企業局、県文化財保護課、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の三者で協議を重ねた結果、旧石器時代を対象とした調査を平成8年11月30日まで実施することとなった。



図1 三和工業団地遺跡全域図

2 遺跡の位置と地形

三和工業団地Ⅰ遺跡は、群馬県南部の伊勢崎市三和町に所在する。伊勢崎市街地の北東約4kmに位置し、市域の北東部にあたる。遺跡の北側は佐波郡赤堀町に接し、南方には国道17号バイパスの上武道路が東西に走る。工業団地の中央部には東西に北関東自動車道が通過し、調査区の西側に接して伊勢崎インターチェンジが建設される予定で、この部分は北関東自動車道の舞台遺跡である。

三和工業団地Ⅰ遺跡は、赤城山の南麓に接する大間々扇状地のⅠ面に立地し、標高は約90mである。赤城山は周囲に裾野を緩やかに伸ばし、南麓地域では多くの小河川が南方に台地を刻んでいる。これらの小河川により開析された低地は樹枝状に発達し、山麓ではローム台地と低地が入り組んだ地形を形成している。

この遺跡が立地する大間々扇状地は、赤城山の裾野を開析するかたちで、足尾山地を流れ下った渡良瀬川によって形成された扇状地である。この扇状地は大間々町を扇頂部として南に開け、南北約18km、扇端部の東西約13kmの規模をもつ関東地方で3番目に大きな扇状地である。

この扇状地は、大きく形成時期の異なる新旧二つの扇状地から構成されている。Ⅰ面(桐原面)は現在の粕川と早川に挟まれた範囲で、Ⅱ面(藪塚面)は早川と渡良瀬川に挟まれた範囲である。これらは、扇状地稜層の上位に堆積したテフラの年代から、Ⅰ面が約5万年前に、Ⅱ面は2万数千年前にそれぞれ段丘化したと考えられており、主として沖積低地の開析の状況に大きな違いが認められている。三和工業団地Ⅰ遺跡は、扇状地の西側部分にあたるⅠ面に立地しており、遺跡の西方約1kmにはこの扇状地の西端を流れる粕川が南流している。

大間々扇状地稜層の上位には、ローム層が厚く堆積している。扇状地上では降水が地下の深部に浸透し、また扇状地内には河川が存在しないことから、この地域は過水性の土地質を示している。扇状地Ⅱ

面では、地下水の一部が扇端部で湧水となって地上に噴出し、ここでは標高約60mの等高線に沿うように数多くの湧水点が存在している。現存する「矢太神沼」、「団蔵坊」などの湧水点は、これらの代表的なものである。

扇端部の南側は、これらの湧水点を源とする小河川が南流し、その開析作用によって低地が広がっており、「木崎台地」、「由良台地」などの開析作用を免れた島状のローム台地と低地とが混在している。

一方、三和工業団地Ⅰ遺跡が立地する扇状地Ⅰ面では、湧水点の噴出する地点がⅡ面とは異なっており、扇中央部に湧水点が点在している。かつては、「あまが池」、「男井戸」、「角弥清水」、「谷地清水」と呼ばれる湧水点が標高約90mの等高線に沿うように存在していた。しかし、昭和50年代初頭の農地区画整備事業によって、これらの湧水点の多くは水田域として利用するために埋め戻され、「あまが池」を除いて消滅した。これらの湧水点の下流は、湧水点を谷頭とする小河川によって開析されており、ローム台地に行く筋かの低地が存在している。現在、この低地部は水田として、ローム台地は畑としてそれぞれ利用されている。

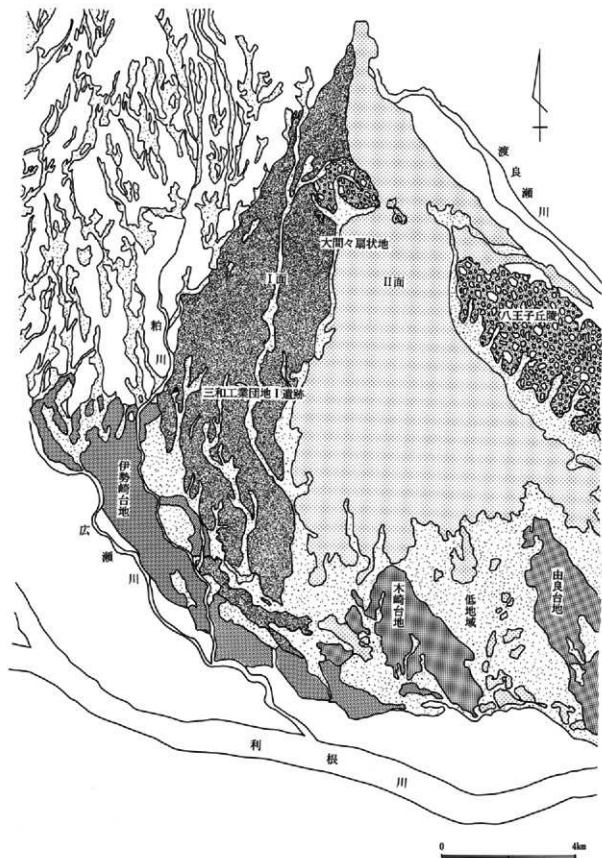
三和工業団地Ⅰ遺跡の発掘区域は、「男井戸」湧水点に伴う低地と、「角弥清水」湧水点に伴う低地との間に位置している。遺跡の東端部は「男井戸」湧水点に伴う低地で、舌状に南側に伸びたローム台地を経て、「角弥清水」湧水点に伴う低地への移行部が調査範囲である。ローム台地の頂部と低地部分との比高差は現状で約3mであり、全体的には平坦地との印象を受ける地形である。遺跡内での地形の傾斜は、遺跡の東側に位置する「男井戸」湧水点を含む低地部分、低地部分からローム台地へ緩やかに移行する緩斜面部分、ローム台地頂部の平坦部分、「角弥清水」の低地に移行する西側に傾斜する緩斜面部分で構成されており、堅穴住居は低地部を除くほぼ全域に分布している。

参考文献

- 『群馬県史』通史編Ⅰ 1990
- 『新田町誌』通史編Ⅰ 1990



三和工業団地 | 遺跡位置図



遠跡周辺地質図

3 周辺の遺跡

ここでは、主として縄文時代から平安時代の周辺の遺跡について概略を述べることにする。なお、旧石器時代の周辺の遺跡については、『三和工業団地Ⅰ遺跡(1)』-旧石器時代編-を参照されたい。

縄文時代の遺跡は、伊勢崎台地の西端に位置する広瀬川低地帯においては発見されず、その東西両側に分布が見られる。広瀬川低地帯の西側に当たる前橋台地上では、後期後半のものが点在している。一方、東側に当たる赤城山の南麓、大間々扇状地、伊勢崎台地上には、広い範囲にわたって多くの遺跡が分布している。なかでも大間々扇状地には多くの湧水点が点在し、この湧水点付近や浸食谷の縁辺部、赤城山南麓の小丘(流れ山)の周辺部、伊勢崎台地の縁辺部などに遺跡の集中が見られる。主な集落遺跡としては前期を主体とする約130軒の竪穴住居が調査された、草創期後半～後期の三和工業団地Ⅱ～Ⅳ遺跡(No2)、果園芸試験場遺跡がある。

弥生時代の遺跡は、広瀬川低地帯に臨む伊勢崎台地の西縁辺部に所在する中期後半の西太田遺跡、中組遺跡がある。しかし、集落としては小規模で、大規模な該期の集落は見られない。

古墳時代から平安時代の集落遺跡の分布は、広瀬川以東の地域に集中しており、なかでも伊勢崎市の北部地域に当たる厩塚・三郷地区は特に分布密度が高い地域である。この集落遺跡の集中傾向は、古墳の分布、上植木庵寺(No17)や東山道(No18)の存在などを併せて考えたとき、伊勢崎市とその周辺地域でも中心的な位置を占めていたことを示している。なお、上植木庵寺は7世紀後半に造立され、県内では最も古い寺院の一つである。

あまが池から伸びる沖積低地の右岸台地上には、天ヶ埜遺跡、果園芸試験場第二遺跡、下吉祥寺遺跡、八寸B遺跡、原之城遺跡(No16)などが存在する。原之城遺跡は古墳時代後期の大規模な豪族居館と推定されており、この地域で中心的な位置を占めていたものと考えられる。また、これら遺跡群のさらに南

側にあたる佐波郡境町には、佐位郡衙である可能性の高い十三宝塚遺跡が存在する。

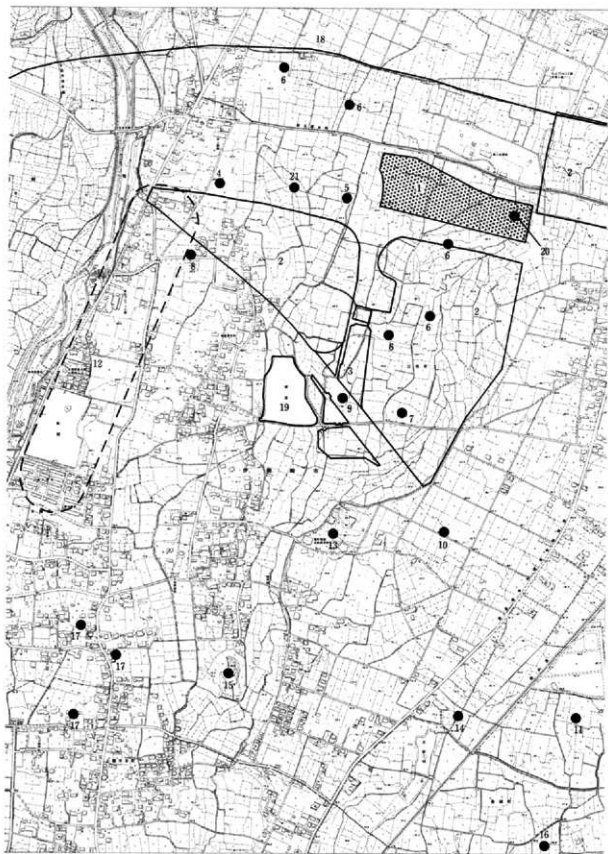
男井戸および鯉沼から伸びる低地に面した左岸台地上には、北関東自動車道の舞台遺跡(No5)、舞台遺跡(No6)、鯉沼東遺跡(No7)、下植木町田遺跡(No3)、上植木町田遺跡(No9)、恵下遺跡などがある。舞台遺跡、鯉沼東遺跡は、今回の三和工業団地遺跡の調査範囲に入る遺跡で、確認されている遺構・遺物の年代もほぼ三和工業団地遺跡と同様である。男井戸および鯉沼から伸びる低地の左岸台地上には、書上本山遺跡(No10)、書上上原之城遺跡(No11)、天野沼遺跡(No14)がある。その他、粕川左岸には光仙房遺跡(No4)、上植木光仙房遺跡(No8)がある。

古墳時代の墳墓では、粕川の左岸台地上に関山古墳群(No12)が立地し、鯉沼から伸びる低地に面して高山古墳群(No13)、丸塚山古墳(No15)が立地している。前期の伊勢崎市域では初現期の一つとされる華藏寺裏山古墳があり、5世紀の中葉の前方後円墳で、長持形石棺をもつ御富士山古墳が存在する。

以上のことから、三和工業団地Ⅰ遺跡の周辺地域では、湧水点の周囲を中心にして旧石器時代から遺跡が分布し、縄文時代には一部で大規模な集落が営まれる。やがて、古墳時代前期には前方後方形の方形周溝墓を伴う集落が湧水点から下流の低地に面して立地するが、その後の後期にかけて継続する大規模な集落はなく、首長墓も存在しない。さらに、奈良・平安時代にもこの傾向は続くが、方形区画遺構や須恵器窯などの特殊な遺構が立地する。

なお、三和工業団地Ⅰ遺跡の北側は伊勢崎市の書上浄水場となっており、現在もこの地点で地下水の汲み上げが行われている。この浄水場の建設に際しては埋蔵文化財の試掘調査が実施されているが、この調査で遺構・遺物は全く確認されなかったとのことである。したがって、三和工業団地Ⅰ遺跡で確認した遺構の分布が、遺跡の北側に伸びる可能性は少ないものと考えられる。

参考文献
『伊勢崎市史』通史編1 原始古代中世 1987



周辺の遺跡

0 1 : 10,000 500m

No	遺跡名	概 要	文 献 等
1	三和工業団地Ⅰ遺跡	本報告書	
2	三和工業団地Ⅱ～Ⅳ遺跡	旧石器時代、縄文時代前期竪穴住居、古墳時代前期竪穴住居・方形周溝墓、古墳時代後期竪穴住居、奈良・平安時代竪穴住居、平安時代須恵器窯跡・溝・方形区画溝、中世馬房などを検出。	『年報15・16』群埋文 1996・1997、伊勢崎三和工業団地遺跡埋蔵文化財発掘調査団
3	下植木宅町田遺跡	旧石器時代、古墳時代前・後期竪穴住居、奈良・平安時代竪穴住居・鍛冶遺構・水田、中世館跡・掘立柱建物・柱穴列・方形竪穴建物・土坑墓・火葬墓・井戸、近世集水遺構などを検出。	『年報15・16』群埋文 1996・1997
4	光仙所遺跡	古墳時代後期を主体とする粘土探部坑多数を検出。一本平鍵曲柄平鍵が出土。	『年報17』群埋文 1998
5	舞台遺跡	北関東自動車道に伴う発掘調査で、縄文時代竪穴住居、古墳時代前期竪穴住居・前方後方形方形周溝墓・方形周溝墓、古墳時代中・後期竪穴住居、奈良・平安時代竪穴住居・須恵器窯跡などを検出。	『年報16』群埋文 1997
6	舞台遺跡	古墳時代前期～奈良時代の竪穴住居、溝、中世の井戸を検出。	『熊沼東遺跡・舞台遺跡』伊勢崎市教育委員会 1977
7	熊沼東遺跡	古墳時代～平安時代の竪穴住居、土坑、火葬跡などを検出。	『熊沼東遺跡・舞台遺跡』伊勢崎市教育委員会 1977
8	上植木光仙所遺跡	5世紀末～7世紀の古墳、平安時代の小鍛冶跡などを検出。	『上植木光仙所遺跡』群埋文 1989
9	上植木宅町田遺跡	縄文時代中～平安時代の竪穴住居、中世の井戸・板碑を検出。	『書上下吉祥寺遺跡・書上上原之城遺跡・上植木宅町田遺跡』群埋文 1988
10	書上本山遺跡	旧石器時代のユニット2、古墳時代の竪穴住居、平安時代の溝、掘立柱建物跡などを検出。この他瓦塔片、石積骨蔵器等が出土。	『書上本山遺跡』群埋文 1985
11	書上上原之城遺跡	掘立柱建物跡、墓土器などを検出。	『書上下吉祥寺遺跡・書上上原之城遺跡・上植木宅町田遺跡』群埋文 1988
12	関山古墳群	船川の左岸台地上に立地する7世紀～8世紀初頭にかかる古墳群。	『関山古墳群』『伊勢崎市史 通史編1』1987
13	高山古墳群	独立丘陵の裾部に構築された7世紀代を中心とする古墳群で、竪穴式石室をもつ墳墓、横穴式石室をもつ墳墓を検出。斬形埴輪が出土。	『高山遺跡・天ヶ塊遺跡・天野沼遺跡・下書上遺跡』伊勢崎市教育委員会 1977
14	天野沼遺跡	古墳時代後期の竪穴住居を検出。	『高山遺跡・天ヶ塊遺跡・天野沼遺跡・下書上遺跡』伊勢崎市教育委員会 1977
15	丸塚山古墳	5世紀後半で全長81mの帆立貝式前方後円墳。後円部墳頂に箱式棺状の竪穴式石室を検出。	『丸塚山古墳』『伊勢崎市史 通史編1』伊勢崎市 1987
16	原之城遺跡	古墳時代後期の環壕屋館跡。大規模な長方形区画溝の内部に竪穴住居・掘立柱建物・祭祀跡・内部区画の溝を検出。須恵器等が出土。	『原之城遺跡発掘調査報告書』伊勢崎市教育委員会 1988
17	上植木兜寺	7世紀後半に創建されたと推定される、県内では最も古い段階の寺院跡。	『上植木兜寺一昭和62年度発掘調査概報一』伊勢崎市教育委員会 1988
18	東山道(あずま道)	上植木城内の酒盛・火生石・舞台付近は佐位駅の所在地に比定される。	『東山道と佐位駅』『伊勢崎市史 通史編1』伊勢崎市 1987、『歴史の道調査報告書 東山道』群馬県教育委員会 1983
19	鵜沼	慶長18年(1613)伊勢崎藩主堀尾長茂によって築造されたと伝えられるため、水源は「男井戸」湧水。	『鵜沼』『伊勢崎市史 通史編2』伊勢崎市 1983
20	男井戸	三和工業団地Ⅰ遺跡東端部の湧水点。水源としての利用は少なくとも平安時代まで遡り、昭和50年代初頭の農地区画整備事業によって埋め戻されたが、発掘調査時にも湧水が認められた。	『伊勢崎の地名由来』『群馬地名だより』7号 群馬地名研究会 1990
21	角登湧水	北関東自動車道の舞台遺跡内の湧水点。昭和50年代初頭の農地区画整備事業によって埋め戻された。舞台遺跡の平安時代須恵器窯は、この湧水点を谷間とする谷の斜面に構築されている。	同上、『年報16』群埋文1997

周辺の遺跡一覧表

4 遺跡の基本層序

この遺跡は、ローム台地と湧水点を谷頭とする沖積低地から形成されている。台地部と低地部では標準的な土層が大きく異なるため、台地部と低地部に分けてその層序を記述する。なお、ここで記述する層序は、『三和工業団地Ⅰ遺跡(Ⅰ)』—旧石器時代編—で記載された基本層序に一致し、このうち関係する部分を抜粋した。したがって、層序は通し番号にはなっておらず、全体の層序については同報告書を参照されたい。

台地部

台地部では、大間々扇状地礫層の上にローム層が厚く堆積し、その上位は表土である現在の畑耕作土となっている。ローム層中には浅間山、榛名山、赤城山を供給源とするテフラなどが認められた。

I層：表土(現畑耕作土)。

Ⅲ層：黄褐色ローム層(As-YP含む)。

低地部

調査区東側の低地部に存在する谷の内部には、浅間山、榛名山起源のテフラが一次堆積している。上位から浅間B軽石(As-B)、榛名二ツ岳浅川テフラ(Hr-FA)、浅間C軽石(As-C)である。その他、部分的にAs-Bの上位に粕川テフラ(As-Kk)、Hr-FAの上位に榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)が認められる部分もある。

1：表土。

5：As-B。

6：黒色粘土・シルト層(Hr-FA、As-C含む)。

7：Hr-FA。

8：黒色粘土層(As-C含む)。

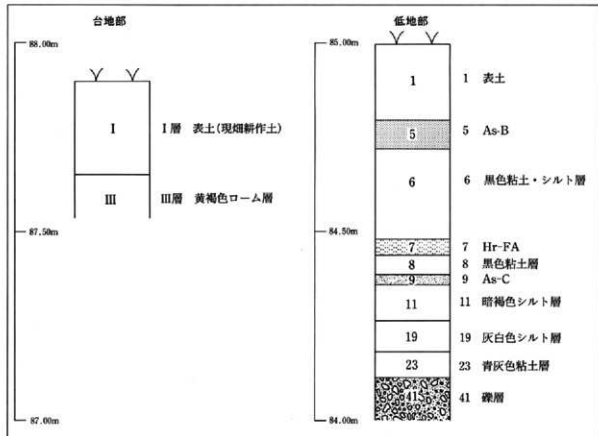
9：As-C。

11：暗褐色シルト層(いわゆる淡色黒ボク土)。

19：灰白色シルト層。

23：青灰色粘土層(いわゆる水成ローム)。

41：礫層。



三和工業団地Ⅰ遺跡 基本層序図

II 縄文時代の遺構と遺物

1 概要

この遺跡では、縄文時代と考えられる遺構として、竪穴住居3軒、土坑10基、陥穴2基、屋外埋壘2基を検出した他、3地点で包含層を調査した。

竪穴住居は3軒ともに前期に属する。これらの住居を検出した場所は、遺跡の南東部にあたる地点であり、北東方向の至近距離に湧水点が存在する。住居はこの湧水が開析した低地を東から南東方向に望む台地上に、距離を置いて散在するような配置をとる。この遺跡では中期の竪穴住居は検出していないが、遺跡の東方約700mに位置する「あまが池」の周辺部では、これを取り巻くように中期の集落が大規模に展開し、この分布状況と対照的な景観である。

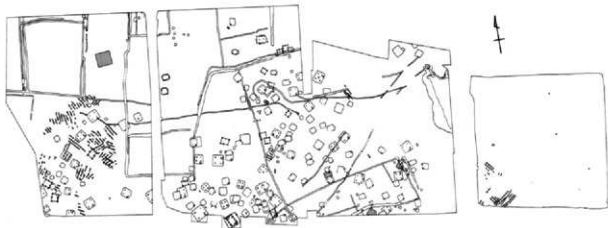
土坑は、伴出遺物のないものもあり時期の特定が難しいが、充填土の共通性などからほぼ前期に属するものと考えている。平面形は円形プランのものが多く、断面は下半が膨らみゆるゆる袋状を呈する傾向がある。一部では竪穴住居と重複する例があるものの、ほとんどのものは重複せずに住居の周辺に散在していることから、これらの住居と同時存在していたものと思われる。

陥穴は、遺跡の中央部から2基を検出した。長軸の方位は同一ではないが、等高線に直行するような位置に掘削されているようである。伴出遺物がな

めに時期を特定することはできなかったが、確実な遺構こそ伴わないものの、この遺跡からは草創期や早期の遺物も出土していることを勘案すると、こうした時期に属する可能性が高い。

屋外埋壘は、2基ともに遺跡東側の低地部から検出した。遺跡の東側は湧水点とこれを取り巻く台地とで構成された地域であり、2号埋壘は湧水点を見下ろす北側の台地上から、3号埋壘は低地東側の比較的低い地点でそれぞれ検出した。2号埋壘が後期前半、3号埋壘が中期末であり、この遺跡で検出されている竪穴住居などは時間的な隔たりが顕著である。

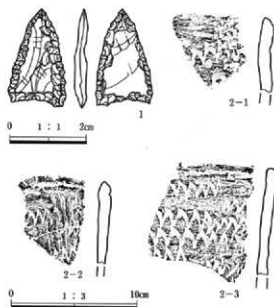
包含層は遺跡の西側で1箇所、中央部で2箇所を調査した。遺跡の西側では北寄りの中央部のローム漸移層中に土器片の集中部分を検出した。一定の範囲内に前期の土器が集中しており、当初竪穴住居かと考えたが、最終的に掘り込み、柱穴等を検出することはできずに包含層として扱った。遺跡中央部の包含層としたものは、ごく少量の土器片・石器を検出したものであるが、時間的に燃系文や条痕文系などの古い段階の土器片を出土していることから包含層として捉えた。この古い段階の資料としては、表面採集資料の中にスタンプ型石器なども混じっていることから、付近に遺構の存在も想定できる。



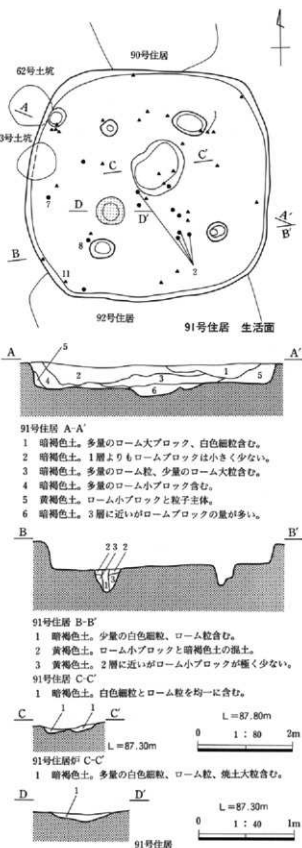
2 竪穴住居

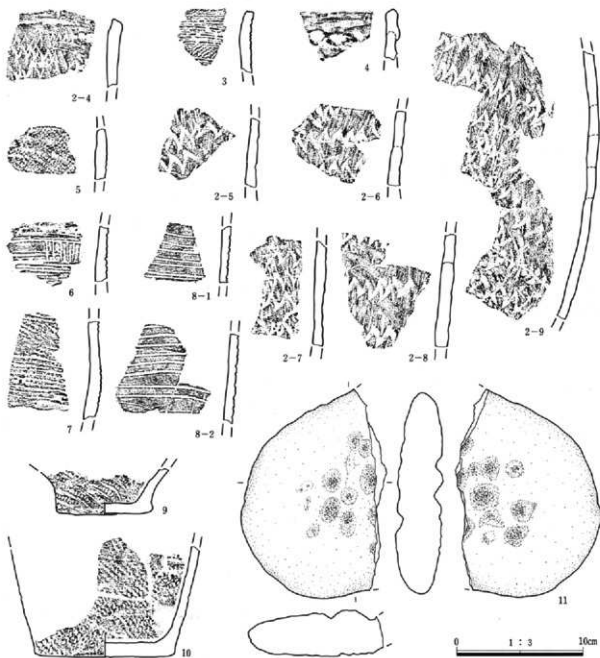
91号住居 (PL.91・観察表26頁)

形状 長軸5.1m、短軸4.8mの隅丸の正方形を呈する。覆土 基盤のローム層にごく近い色調の土で埋没し、上層ほどロームブロックが多い。床面 基盤のローム層を40cmほど掘り込んだローム層中に構築。貼床は認められないが、住居ほぼ中央北寄りの位置に長軸120cm、短軸103cm、深さ10cmほどの楕円形の掘り込みを検出。柱穴 住居の対角線上に4個を検出。規模は直径30~70cm、深さ20~50cmで、円形と楕円形の2種の掘り方がある。南西側の柱穴では、直径13cmほどの柱痕を検出。炉 西側の柱穴間の南寄りに偏って検出。直径60cm、深さ10cmほどの円形で、皿状の掘り込みである。底面は全く焼土化してはおらず、充填土中に焼土の大粒が多量に認められたことから炉と判断。壁溝 なし。貯蔵穴 無し。遺物 土器は全て破片の状態で、床面直上のもは皆無である。石炭・多孔石が出土。重複 西壁で2基の同時期の土坑と重複。新旧関係を判定する資料を欠く。方位 90° 面積 22.14㎡。所見 縄文時代前期諸磯b式期と考えられるが、浮島系の土器が目立つのが特徴である。



91号住居出土遺物(1)



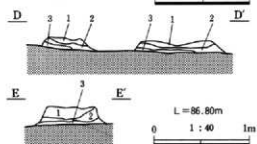
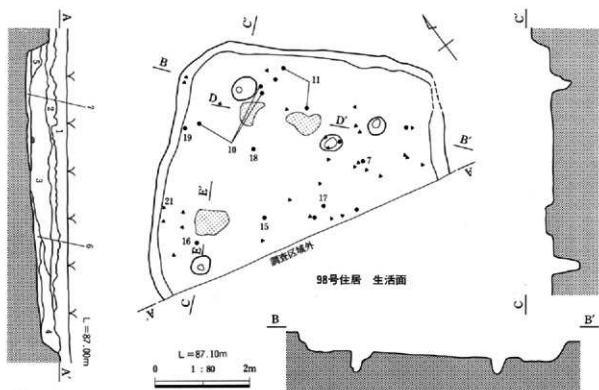


91号住居出土遺物(2)

98号住居(PL.96・観察表27頁)

形状 一辺5.9mほどの隅丸の正方形を呈すると思われる。覆土 床面近くの層中にローム粒を多く含む他は、全体に黒みの強い粘性のある土で埋没。床面 基盤のローム層を50cmほど掘り込んだローム層中に構築。貼床はなく、硬化面も検出できない。柱穴 住居の隅寄りに3個を検出。規模は直径40~50cm、深さ30~50cmの円形を呈する。炉 床面

から10cmほど浮いた状態で、3箇所焼土の広がりを見出したが、炉とは考えられず、未調査区側にあるものと判断。壁溝 なし。貯蔵穴 なし。遺物 すべて破片の状態、床面から若干浮いた位置から出土。重複 調査範囲内ではなし。方位 135°面積 32.50㎡(推定)。所見 燃糸文や条痕文の土器片が目立つが、諸磯c式の土器も出土していることから諸磯c式期の住居と考えられる。



98号住居 D-D'、E-E'

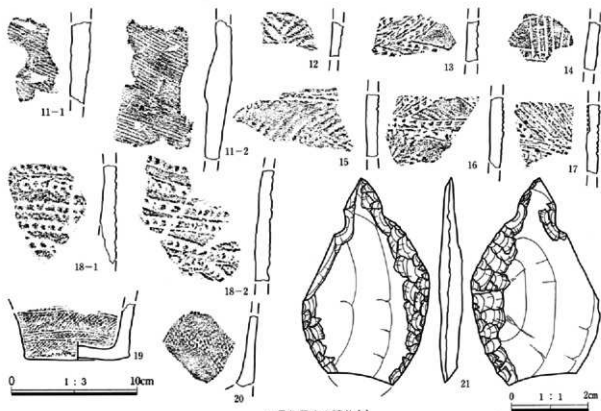
- 1 赤褐色土。焼土ブロックと暗褐色土の混土。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒と白色細粒含む。
- 3 暗褐色土。ローム粒と小ブロック含む。



98号住居出土遺物(1)

98号住居 A-A'

- 1 表土。
- 2 暗褐色土。表土の砂質土を非常に多く含む。
- 3 黒褐色土。粘性が有り、黒味が強い。
- 4 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 5 黒褐色土。3層に類似するがより粘性が有り、黒味が強い。
- 6 暗褐色土。多量のローム小ブロック、ローム粒含む。
- 7 暗褐色土。多量のローム粒含む。100号住居覆土の可能性有り。

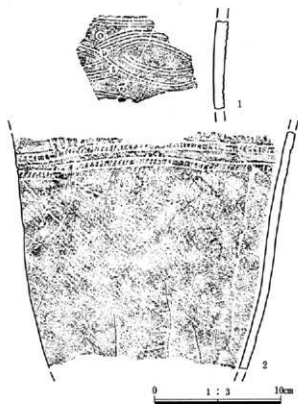


98号住居出土土遺物(2)

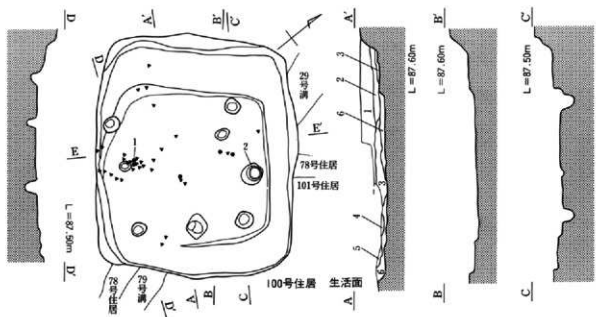
100号住居 (PL.98・観察表28頁)

形状 長軸5.1m、短軸4.3mの隅丸長方形を呈する。
 覆土 全体に黒みの強い土で、下層ほどロームブロックの含有量が多い。床面 基盤のローム層を40cmほど掘り込んだローム層中に構築。床面の精査時にロームと暗褐色土ブロック主体の土層の広がりを確認したため掘り下げたところ、一辺3.5m、深さ20cmほどの方形の掘り込みとなったため、これを掘り方の範囲として捉えた。柱穴 住居平面プランとは若干ずれているが、対角線方向に4個を検出した。規模は直径30~40cm、掘り方底面からの深さ10~25cmの円形を呈する。2対の柱穴間に直径25~30cm、深さ20cmほどの2個のビットを検出したが、柱穴とは判断せず。炉 不明。壁溝 なし。貯蔵穴 なし。遺物 土器片や礫が南西壁側から流れ込んだような状態で出土。北東壁寄りの床面に深鉢胴部中位の埋壺を検出。埋壺の掘り方は、直径45cm、深さ15cmほどの略円形を呈する。重複 なし。方位 130° 面積 19.91㎡。所見 埋壺から時期

を判断すると縄文時代前期諸磯a式期と考えられる。



100号住居出土土遺物



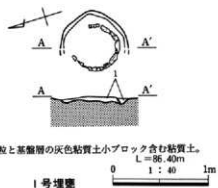
100号住居

- 1 暗褐色土。白色細粒を均一に、少量のロームブロック含む。
- 2 暗褐色土。1層に近似するがロームブロックの量が多い。
- 3 黒褐色土。白色細粒を多く均一に含む。
- 4 黒褐色土。ロームと黒褐色土をブロック状に含む。
- 5 暗褐色土。多量のローム粒を含む。
- 6 暗褐色土。多量のローム粒とブロック含む。

3 埋 壺

1号埋壺 (PL.180・観察表47頁)

深鉢口縁部を逆位に埋設。土地改良で上層が削平されたため、埋設時点における深鉢の残存率は不明。掘り方は直径145cm、確認面からの深さ5cmほどの円形を呈す。掘り方および土器内には周囲の確認面と同様の灰色粘質土で埋設。所見 縄文時代後期、堀之内1式期。



1号埋壺

- 1 黒色土。白色粒と基盤層の灰色粘質土小ブロック含む粘質土。

L=86.40m
1 : 40
1m

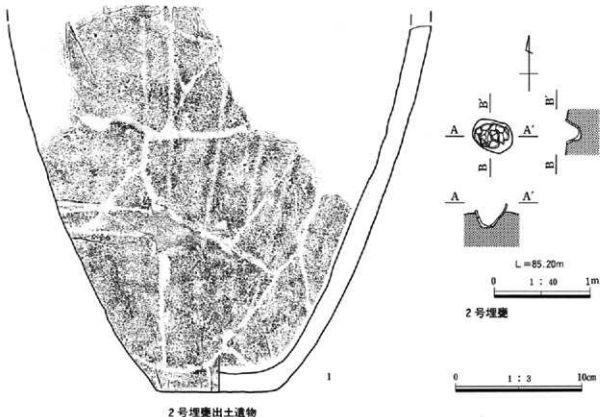


1号埋壺出土遺物

2号埋壘(PL.180・観察表47頁)

深鉢の底部付近を正位に埋設。低地部に近い位置か

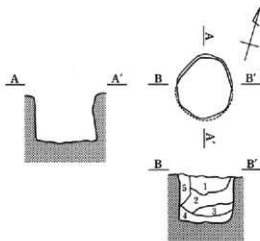
らの検出で、残存状態は良くない。掘り方及び埋没土は不明。 所見 縄文時代中期、加曾利E3式期。



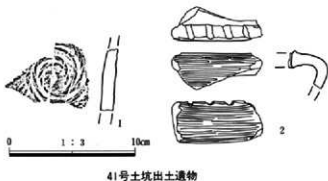
4 土 坑

41号土坑(PL.141・観察表42頁)

形状 上端径90cm、深さ77cmのほぼ円形を呈し、上端径よりも下端径が僅かに大きいいわゆる袋状の断面形を呈する。 覆土 やや濁りのあるロームブロック主体の土で、ローム層中での確認は容易ではなかった。 遺物 深鉢および浅鉢の小破片が僅かに覆土中から出土した。 重複 なし。 所見 土器片の文様から諸磯b式段階の土坑と考えられる。

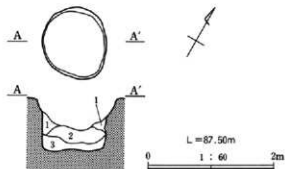


- 41号土坑
- 1 黒褐色土。白色細粒とローム粒を均一に含む。
 - 2 黒褐色土。1層に近いがロームブロックを均一に含む。
 - 3 黒褐色土。ローム粒、ロームブロック含まない。
 - 4 黄褐色土。黒褐色土とローム粒の混土。
 - 5 黄褐色土。ローム主体で黒褐色土とローム粒の混土。



57号土坑 (PL.142)

形状 上端径1.0m、下端径96cm、深さ90cmで、平面形は円形、断面形は袋状を呈する。覆土 上層はローム粒主体の土層で、下層はロームブロックを僅かに含む。遺物 覆土中層から石が1点出土した。重複 新しい段階の29号溝と重複する。所見 遺物出土がないため時期を特定することはできないが、土層の状況などから縄文時代前期の土坑の可能性が高い。



57号土坑

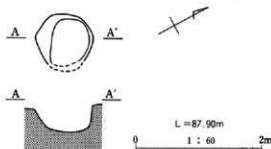
- 1 暗褐色土。多量の白色細粒とローム粒含む。
- 2 黒褐色土。白色細粒とローム粒を均一に含む。
- 3 黒褐色土。2層に近似するが微量のロームブロック含む。

57号土坑

の特定はできないが、充填土の状況や周囲の住居との関連から縄文時代前期の所産と考えられる。

62号土坑 (PL.143)

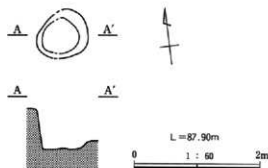
形状 上端径90cm、下端径60cm、深さ45cmで、平面形は円形、断面形は円筒状を呈する。覆土 ローム粒とブロック主体であり、ロームよりも僅かに濁った色調を呈するだけのため、確認面での検出は難しい。遺物 時期の判断ができるような遺物はない。重複 91号住居と重複する。確認は住居調査時点で壁面で検出したものであり、新旧関係は捉えられなかった。所見 遺物出土がないために時期



62号土坑

63号土坑 (PL.143)

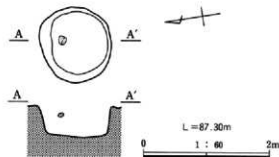
形状 上端径80cm、下端径60cm、深さ65cmで、平面形は円形、断面形は円筒状を呈する。覆土 ローム主体で、ロームよりは全体に濁った色調を呈する。遺物 なし。重複 91号住居と重複するが、新旧関係は判断できなかった。所見 62号土坑と至近の位置にあり、充填土など共通性が多いことから判断して、ほぼ同時期の所産と考えられる。



63号土坑

64号土坑 (PL.143・観察表42頁)

形状 上端径1.2m、下端径1.0m、深さ50cmで、平面形は円形、断面形は円筒形を呈する。覆土 ロームよりは全体に濁った色調の土層で、ローム粒・ブロックを含む。遺物 中層から礫が1点と土器片が僅かに出土した。重複 なし。所見 出土遺物から縄文時代前期諸磯式期の土坑と考えられる。



64号土坑



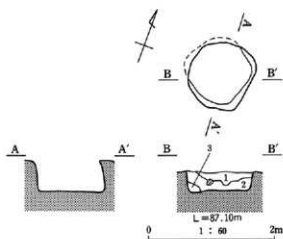
64号土坑出土遺物

67号土坑(PL.144)

形状 上端径1.1m、下端径95cm、深さ35cmで、平面形はやや不整な円形、断面形は北側にオーバーハングする袋状を呈する。覆土 褐色の細粒とローム小ブロックを含み、硬くしまった土層。遺物 なし。重複 なし。所見 遺物出土がないため、時期の特定はできないが、充填土などの状況から縄文時代前期の所産と考えられる。

67号土坑

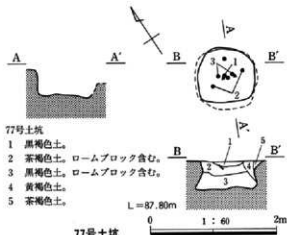
- 1 暗褐色土。多量の白色及び褐色細粒、少量のローム小ブロック含む。
- 2 黄褐色土。ローム粒・ブロック主体。
- 3 暗褐色土。1層に近似。ロームブロックを含まない。



67号土坑

77号土坑(PL.145・観票表43頁)

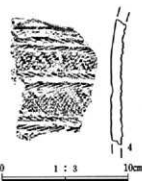
形状 上端径90cm、下端径1.0m、深さ43cmで、平面形はやや方形ぎみの円形、断面形は比較的オーバーハングの強い袋状を呈する。覆土 ロームブロックを含む黒褐色土で、粒子が細かい。遺物 土坑中央の覆土中に土器片が集中して出土した。重複 128号住居と重複するが、当土坑が明らかに古い時期のものである。所見 遺物から縄文時代前期諸磯b式期の土坑と考えられる。



77号土坑

- 1 黒褐色土。
- 2 茶褐色土。ロームブロック含む。
- 3 黒褐色土。ロームブロック含む。
- 4 黄褐色土。
- 5 茶褐色土。

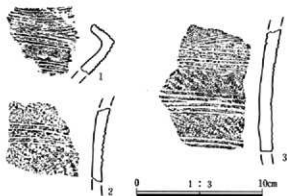
77号土坑



77号土坑出土遺物

93号土坑 (PL.147・観察表43頁)

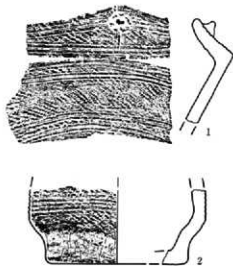
形状 上端径1.2m、下端径1.6m、深さ50cmで、平面形は円形、断面形は全体に明瞭なオーバーハングのある典型的な袋状を呈する。覆土 ローム主体の充填土で、全体に濁った色調を呈する。遺物 中央部底面より僅かに上位から小礫と土器片が集中して出土した。重複 なし。所見 遺物から縄文時代前期諸磯b式期の所産と考えられる。



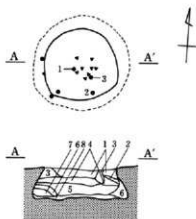
93号土坑出土遺物

94号土坑 (PL.148・観察表43頁)

形状 上端径1.1m、下端径96cm、深さ35cmで、平面形は円形、断面形は円筒形を呈する。覆土 暗褐色の均一な土層。遺物 覆土中から礫を主体として出土。重複 なし。所見 遺物から縄文時代前期諸磯b式期の所産と考えられる。



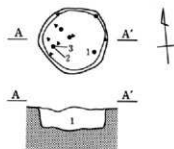
94号土坑出土遺物



93号土坑

- 1 明黄褐色土。少量の炭化物含む。
- 2 黄褐色土。ロームにより構成。壁か？
- 3 暗黄褐色土。少量の炭化物含む。
- 4 明灰白色。炭化物、ロームを5層よりやや多く含む。
- 5 暗灰白色。炭化物含む。
- 6 明灰白色。ロームをやや多く含む。
- 7 明灰白色。6層と同じであるが、ロームが多い。
- 8 暗褐色土。ロームと黒色土の混土。

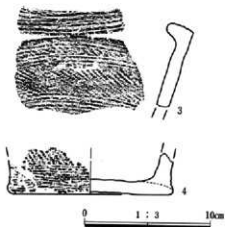
L=87.60m
93号土坑 0 1:60 2m



94号土坑

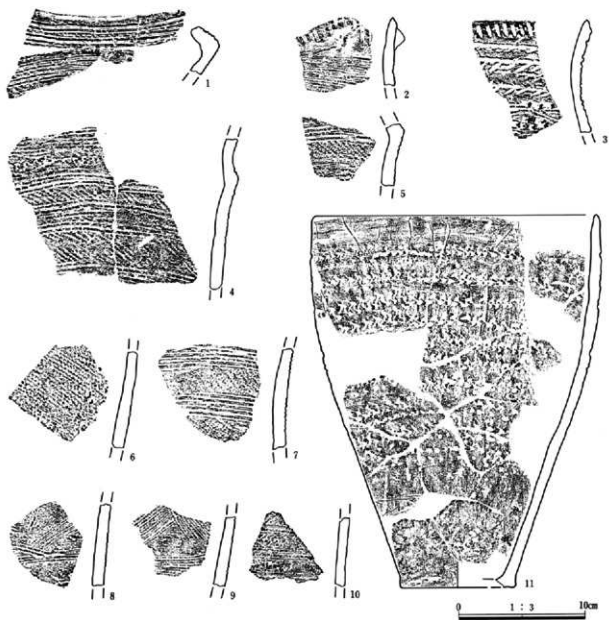
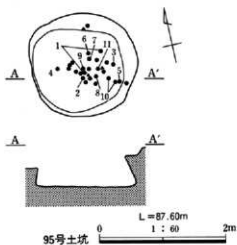
- 1 暗褐色土。

94号土坑



95号土坑(PL.148・観察表44頁)

形状 上端径1.5m、下端径1.7m、深さ42cmで、平面形は不整円形、断面形は典型的な袋状を呈する。覆土 ローム粒を均一にふくむしまりのある土層。遺物 中央部底面からわずかに上位に大型破片を含めて土器片が集中して出土した。重複 なし。所見 遺物から縄文時代前期諸磯b式期の所産と考えられる。



95号土坑出土遺物

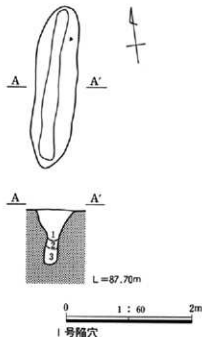
5 陥穴

1号陥穴(PL.163)

形状 長軸2.5m、短軸64cm、深さ85cmで、平面形は長楕円形、短軸断面形は葉研状を呈する。覆土 やや濡ったソフトローム主体の土層で、周囲のローム層との区別が難しい。遺物 なし。重複 なし。所見 遺物出土が皆無のため時期の特定はできないが、周囲から縄文時代草創期末頃から早期の遺物が散見されることから、こうした時期の所産の可能性はある。

1号陥穴

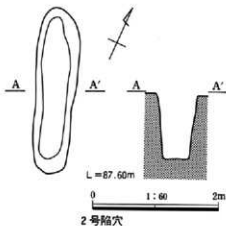
- 1 暗褐色土。暗褐色土とロームを均一に含む。
- 2 黄褐色土。ソフトローム。
- 3 黄褐色土。ソフトロームでやや暗いブロック含む。



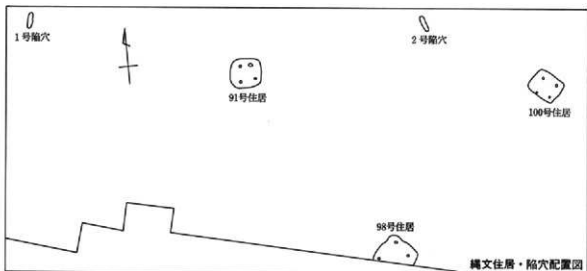
1号陥穴

2号陥穴

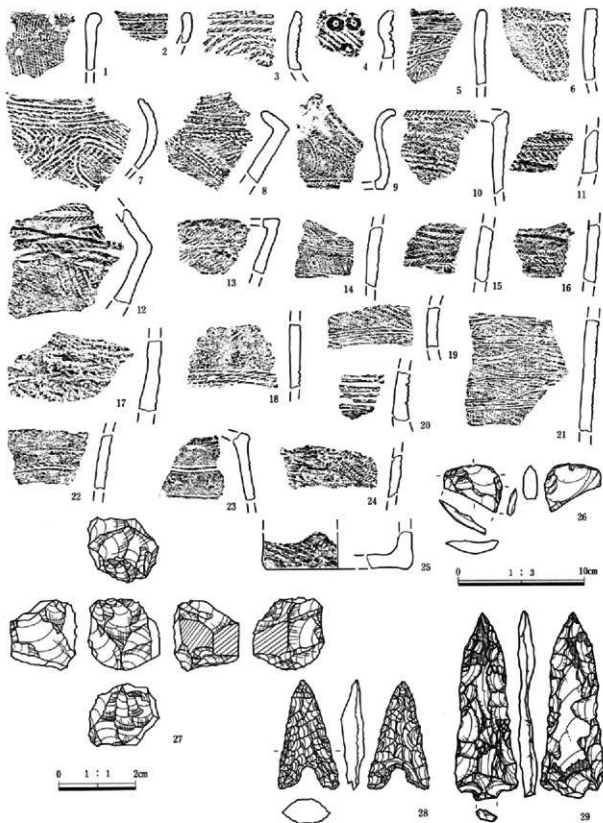
形状 長軸2.6m、短軸66cm、深さ1.0mで、平面形は長楕円形、短軸断面形は葉研状を呈する。覆土 ローム主体の均一な土層。遺物 なし。重複 なし。所見 1号陥穴と同様に伴出遺物が皆無のため特定できないが、縄文時代草創期末から早期段階の所産が想定される。



2号陥穴



6 遺構外出土遺物



III 古墳時代の遺構と遺物

1 概要

この遺跡では台地部と低地部から遺構を確認しているが、古墳時代は台地部で竪穴住居126軒、掘立柱建物8棟、平地式建物1棟、畑、土坑、壺棺などを検出した。一方、低地部からは湧水点の谷頭を掘削した痕跡や、その導水路及び祭祀跡を検出した。

竪穴住居は126軒のうち124軒が古墳時代前期に属し、残る2軒は古墳時代後期である。古墳時代前期の住居は低地の西側に位置する台地上に広く展開し、大きくは遺跡の西側にまとまりをもつ群と、遺跡の中央部に広く分布する群とに分けられる。

特に注目される遺構としては、住居の周囲に溝が巡る12号住居と、住居の隅から溝が延びた9号住居である。これらは遺跡の中央部に位置し、両方の住居から延びた溝は下流で合流して、東側の低地部にかけて70mほど延びている。この遺跡での類例はこの2軒のみであるが、北関東自動車道を挟んだ南側の伊勢崎三和工業団地埋蔵文化財発掘調査団の調査区でも、台地から低地にかけて延びる同様な溝が確認されている。

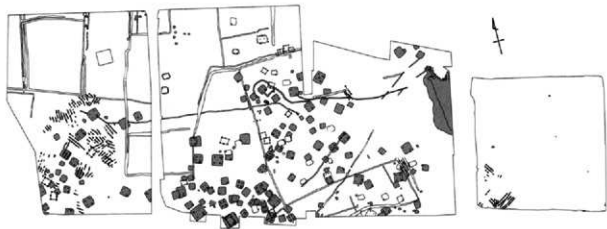
一方、低地部には下位から浅間C軽石(As-C)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)、一部に榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)の一次堆積層を確認した。しかし、Hr-FAとHr-FPについては堆積状況が悪く、土

層断面で明らかな遺構の確認ができなかったため、谷頭の一部を除いて面的調査はAs-Cの下面に限定した。この結果、As-Cの上・下層で谷頭を掘削した痕跡や、その導水路、祭祀跡及び多量の古式土師器を確認した(V章参照)。

これらの遺物は、台地部に広く展開する竪穴住居の伴出土器の型式に一致し、両者が対応関係にあることを示している。また、台地部と低地部から出土した最古段階の土器の型式も一致していることから、台地部に展開する竪穴住居の生産基盤は、水田遺構そのものは確認できないもののこの低地に求められ、この年代はAs-Cの降下以前に遡ると判断できる。

古墳時代後期の住居は、低地に近接した南東部に立地している。調査範囲内では2軒のみの確認であるが、その分布は古墳時代前期の住居とともにおそらく南側の調査区域外に広がるものと考えられる。

台地部で確認した古墳時代後期の遺構は、これら2軒の竪穴住居のみである。一方、低地部では古墳時代前期と同様に谷頭を掘削した痕跡や、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)の直下から土師器と須恵器を確認しており(V章参照)、2軒の竪穴住居の伴出土器の型式は、この土師器と須恵器に一致し、両者が対応関係にあることを示している。

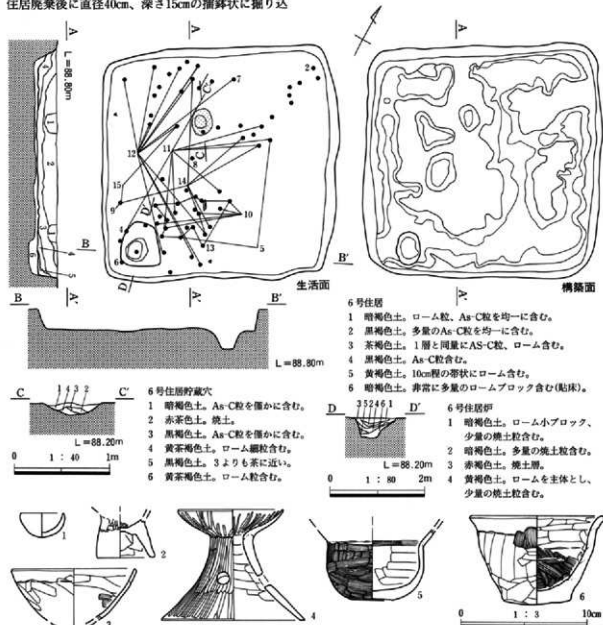


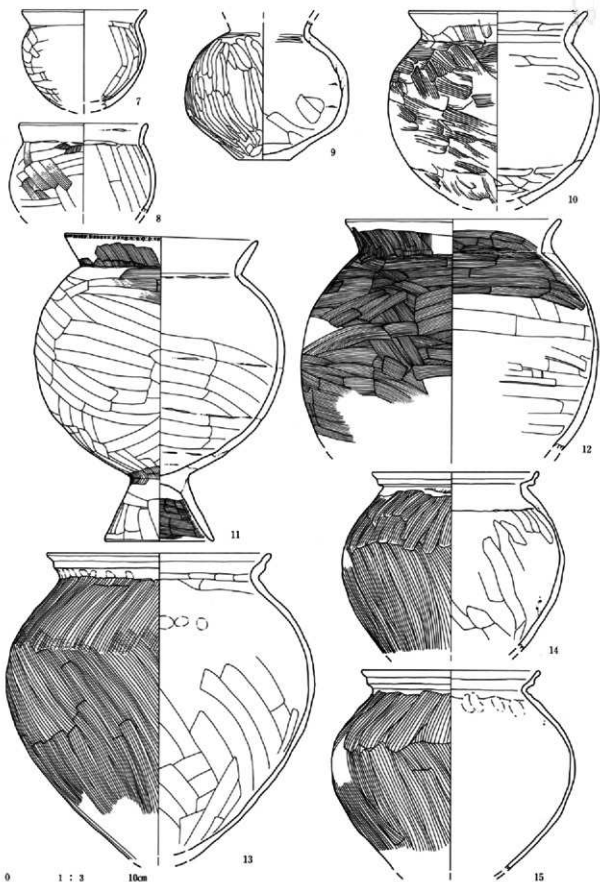
2 古墳時代前期の竪穴住居

6号住居 (PL.11・観察表2頁)

形状 長軸5.0m、短軸4.8mのほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を45cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅1mほどが住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面とする。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央からやや北西側に偏して設置。住居廃棄後に直径40cm、深さ15cmの掘鉢状に掘り込

まれた痕跡がある。一方、貯蔵穴の覆土上位には焼土がレンズ状に堆積しており、この焼土は炉の焼土の可能性もある。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南西隅に設置。長軸90cm、短軸80cm、深さ40cmの不整形を呈す。遺物 土師器の甕・台付甕・壺・器台・高坏・鉢・埴等が出土。重複 単独で占地。方位 60° 面積 23.50m²。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



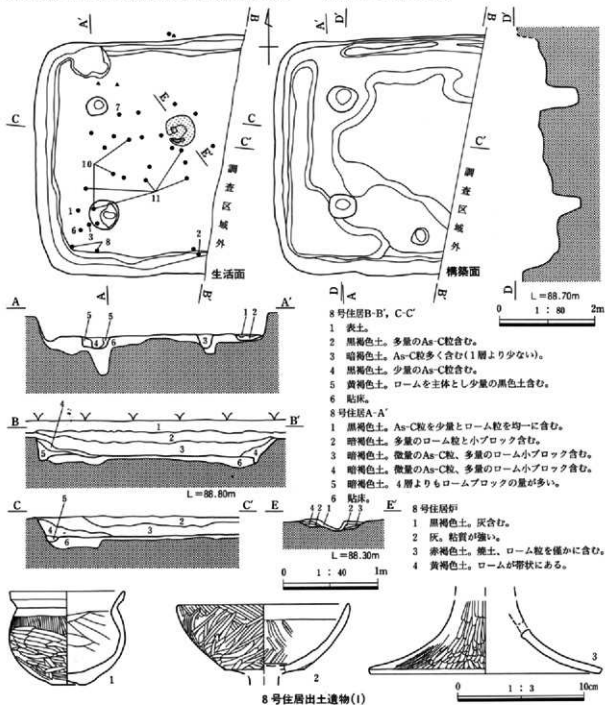


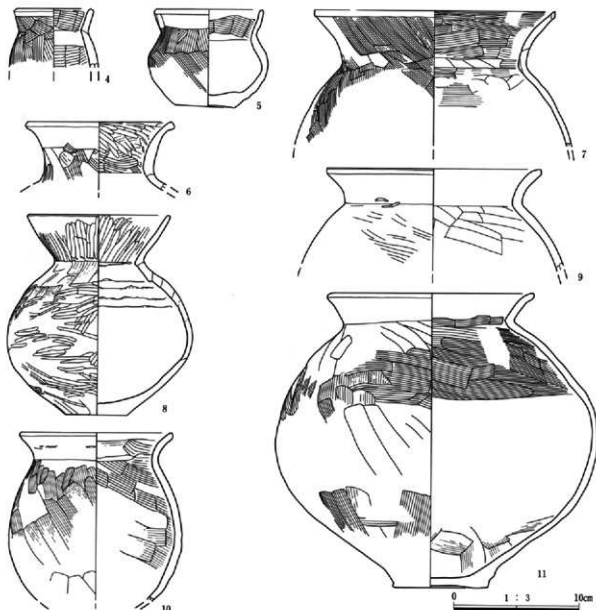
6号住居出土遺物(2)

8号住居(PL.14・観察表3頁)

形状 住居の東側が調査区域外のため、外形を確定できない。確認した南北軸は5.0m。床面 基盤のローム層を50cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅1mほどが住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で整っている。柱穴 住居の西側に2個を確認した。残る2個は調査区域外。

直径40~60cm、深さ80cmの単純円形掘り方を呈す。炉 住居中央からやや北側に偏して確認。直径60cmの範囲を僅かに掘り窪めて粘土を貼った地床炉。壁溝 幅20cm、深さ15cmで確認した全壁下に巡る。貯蔵穴 不明。遺物 土師器の甕・壺・高坏・小形甕・埴等が出土。重複 単独で占地。方位 89°面積 測定不可能。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。





8号住居出土遺物(2)

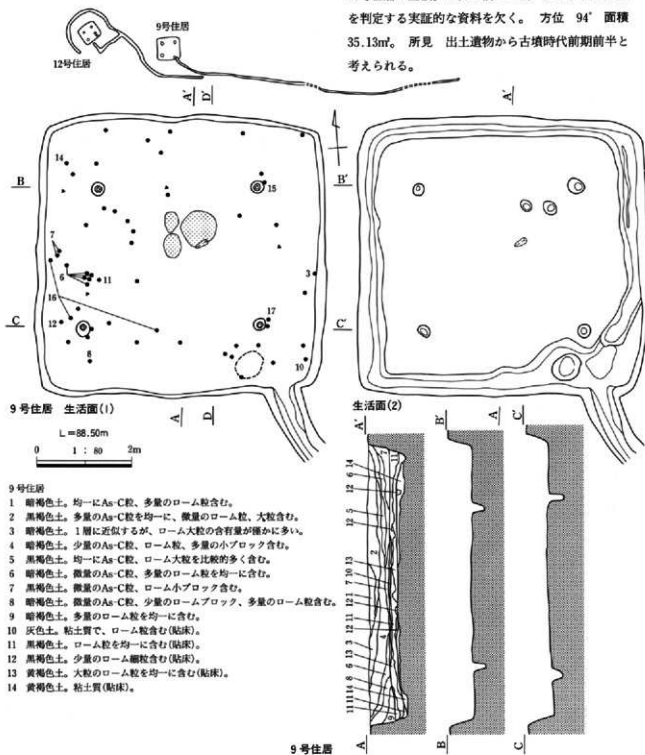
9号住居(PL.15・観察表4頁)

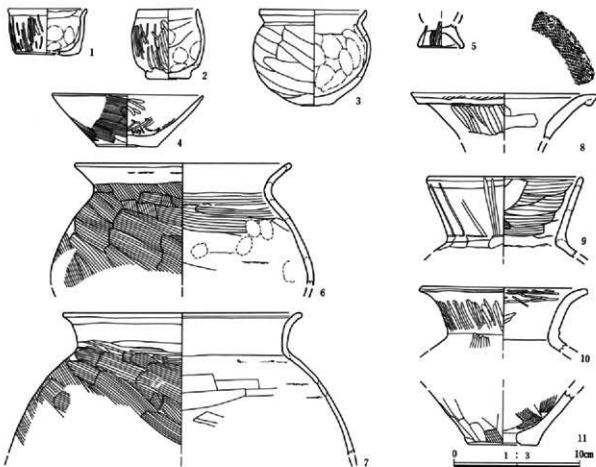
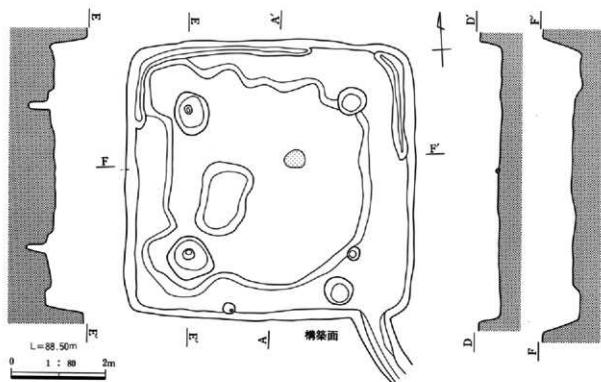
形状 長軸6.2m、短軸5.9mの整ったほぼ正方形を呈し、大形正方形に分類。付帯溝 この住居は住居の南東隅から上幅70cm、下幅20cm、深さ60cmの溝が掘られ、この溝は東側の低地部にかけほぼ直線的に60mほど延びる。さらに住居の東側約10mの地点で、12号住居から掘られた溝と接続するが、その状況は両方の溝が直接的に接続するのではなく、溝の上端は約50cmを残して止まり、底面で幅20cm、高さ50cmのトンネル状に掘り抜いて接続する。同様なトンネル状の接続の構造は、12号住居とそれに付帯す

る溝との接続部にも認められる(31頁参照)。溝の底面は住居の構築面と全く同一レベルで、住居との接続部と60m東側の確認した溝の東端部とは僅かに約10cmの比高差しかなく、約0.2%の下り勾配にすぎない。両住居の溝が接続することから、9住と12住は同時存在した可能性が高い。床面 基盤のローム層を60cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅1mほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に貼床を施して平坦な生活面を造るが、貼床は部分的なものも含めて2回の貼り直し認められ、合計で3面の生活面を検出。柱穴 住

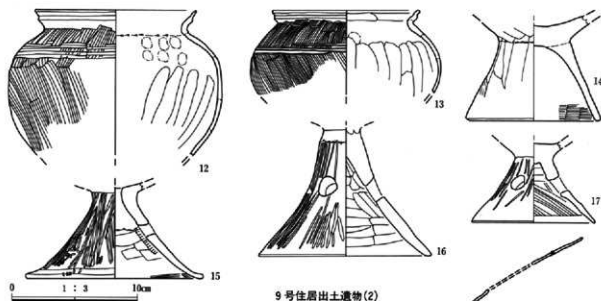
居のほぼ対角線上に直径10cmの柱痕4個を確認。貼床が柱痕の際まで及んでいることから、立柱後に貼床を施す。炉 住居中央から北側に偏して3箇所に焼土を確認。最も大きなものは直径80cmで、南縁に川原石を据える。壁溝 当初の生活面には幅25cm、

深さ10cmでほぼ全周するが、最終使用面では認められない。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した直径50cm、深さ70cmの円形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の甕・壺・高坏・台付甕・鉢・甕・器台・埴が出土。重複10号住居と重複。10住の覆土が浅いため、新旧関係を判定する実証的な資料を欠く。方位 94° 面積 35.13㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。

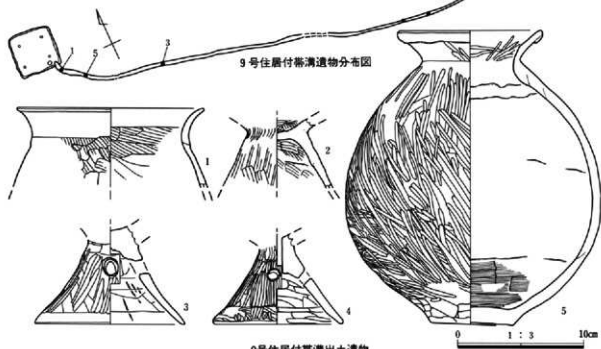




9号住居出土遺物(1)



9号住居出土遺物(2)

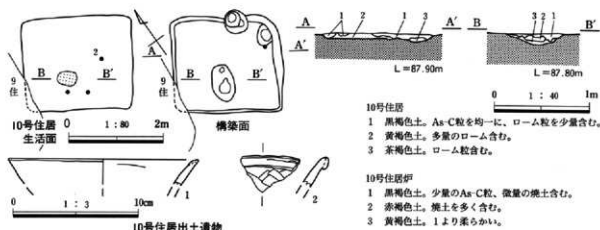


9号住居付帯溝出土遺物

10号住居(PL.18・観察表5頁)

形状 長軸2.4m、短軸2.0mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、超小形長方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とし、この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。したがって、生活面として図示した平面図は、生活面と構築面の中間、つまり貼床の中位のもの。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居

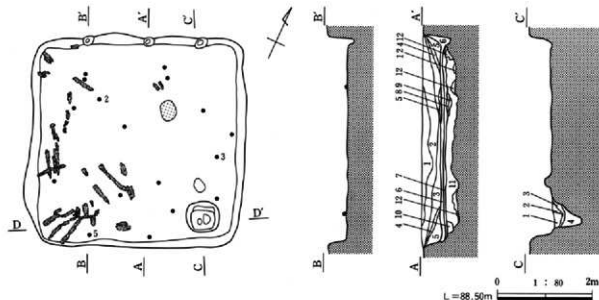
中央から南西側に偏して直径30cmほどの円形状に焼土を検出。構築面で住居中央から南西側に確認した長軸80cm、短軸60cm、深さ10cmの掘り込みは、炉の構築面と考えられる。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の壺・甕が出土。重複 9号住居と重複。10住の覆土が浅いため、新旧関係を判定する実証的な資料を欠く。方位 121° 面積 4.55㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



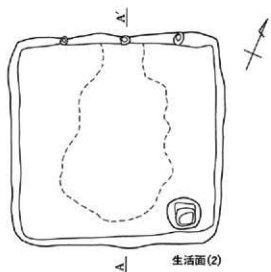
11号住居 (PL.19・観察表5頁)

形状 長軸4.6m、短軸4.5mのほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を70cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅30cmほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に貼床を施して平坦な生活面を造るが、貼床は2回の貼り直しが認められ、合計で3面の生活面を検出。焼失 この住居は焼失住居で、住居の南西部を中心に多量の炭化材を検出。これらの出土レベルは、住居壁際のものほど床面からの位置が高く、中央部になるにしたがって床面に近い。また、床面を確認する前段階で、覆土の中位に火を受けて焼土化した面を検出したがこの面も摺鉢状を示し、焼土化した面の下位の埋没土に人為的に埋めた痕跡

がない。したがって、火災は住居の使用時ではなく、埋没過程のある時点のものと考えられる。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できないが、北壁に3個の壁柱穴を確認。これらは北壁をほぼ4等分する位置に穿たれ、直径20cm、生活面からの深さ20cmで、壁を半円形状に掘り込む。炉 最終使用面のみ確認で、住居中央から北東側に偏して直径40cmの焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸50cm、短軸40cm、深さ60cmの長方形を呈す。遺物 土師器の壺・台付壺・壺が出土。重複 単独で占地。方位 66° 面積 19.74㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



11号住居 生活面(1)



生活面(2)

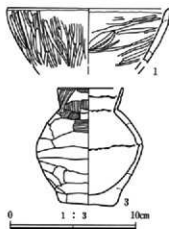


11号住居 C-C'

- 1 黒褐色土。2より固い。
- 2 褐色土。多量の赤褐色土含む。
- 3 暗褐色土。直径4cm程度のローム粒含む。
- 4 暗褐色土。直径2cm程度のローム粒含む。

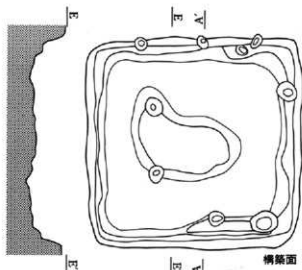
L=88.50m

0 1 : 80 2m



12号住居 (PL.20・観察表5頁)

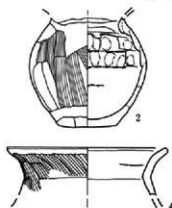
形状 長軸5.5m、短軸4.8mで長軸を東西にもつ整った長方形を呈し、大形長方形に分類。付帯溝 この住居は住居の北側を半円形状に上幅70cm、下幅20cm、深き70cmの溝が走り、この溝は住居の南東側に延びて、9号住居から掘られた溝と接続する(26頁参照)。一方、住居南壁の西側から南側へ直線的に約3m延びた溝が、東側に直角に折れて住居の周囲を巡



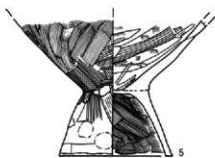
構築面

11号住居 A-A'

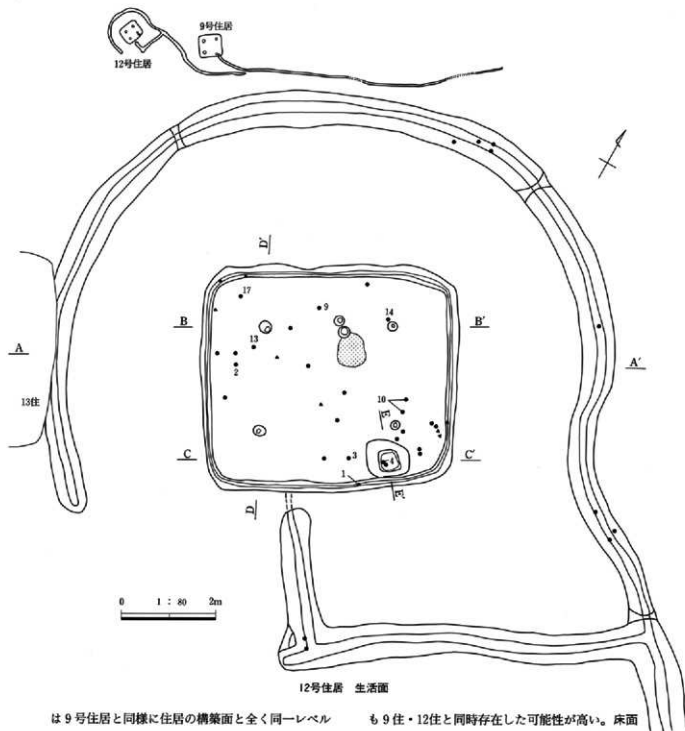
- 1 黒褐色土。As-C粒を均一に含む。
- 2 褐色土。ローム粒を均一に、微量のAs-C粒含む。
- 3 黒褐色土。ローム粒含む。
- 4 暗褐色土。赤石土含む。
- 5 暗褐色土。少量のローム粒含む。
- 6 黄褐色土。ローム小ブロック多く含む(貼床)。
- 7 黄褐色土。ローム小ブロック多く含む(貼床)。
- 8 黄色土。ロームブロック(貼床)。
- 9 黒褐色土。多量の焼土粒含む(貼床)。
- 10 暗褐色土。多量のロームブロック含む(貼床)。
- 11 暗褐色土。多量のロームブロック、ローム粒含む(貼床)。
- 12 黄色土。ローム主体で、少量の黒色土粒含む(貼床)。



11号住居出土遺物



る溝に接続する。住居との接続部及び溝と溝との接続部はいずれも直接的に接続するのではなく、溝の上端は約30~50cmを残して寸前で止まり、底面でトンネル状に掘り抜いて接続する。このトンネル状の構造は半円形に住居の周囲を巡る部分の溝にも認められ、半円形の部分で3箇所の上端に残して底面でトンネル状に掘り抜かれたブリッジ状の箇所がある。住居との接続部において、溝の底面のレベル



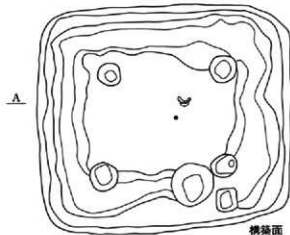
12号住居 生活面

は9号住居と同様に住居の構築面と全く同一レベルで、住居との接続部と80m東側の確認した溝の東端部とは僅かに約25cmの比高差しかなく、約0.3%の下り勾配にすぎない。なお、この住居の南側に位置する9号溝は、覆土の状況からこの住居に近接した年代と考えられる。この溝は東西に走行をもつが、11号住居の南側で12号住居の周囲を巡る溝に沿って走行を南東側に変えており、覆土の状況と併せて少なくとも

も9住・12住と同時存在した可能性が高い。床面基盤のローム層を70cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅1mほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に貼床を施して平坦な生活面を造るが、貼床は1回の貼り直しが認められ、合計で2面の生活面を検出。柱穴 住居のほぼ対角線上に直径10cmの柱痕4個を確認。貼床が柱痕の際まで及んでいることから、立柱後に貼床を施す。

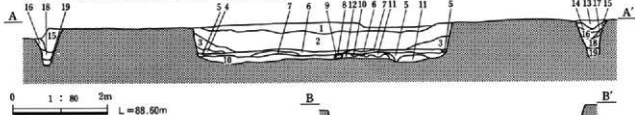
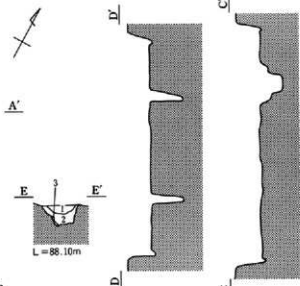
炉 住居中央から北東側に偏して長軸80cm、短軸60cmの楕円形状に粘土を検出し、この中央部に強く焼けた焼土を検出。壁溝 最終使用面で幅10cm、深さ10cmで全周する壁溝を確認。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸90cm、短軸80cm、深さ40cmのほぼ正方形を呈す。遺物 土師器の壺・台付壺・壺・高坏・器台、砥石が出土。重複 住居を巡る溝の

西側で13号住居と、東側で8号掘立柱建物とそれぞれ重複。13住が住居を巡る溝を切って構築する土層断面の所見を得たが、8掘立については溝と柱穴との直接的な重複がないため、新旧関係を判定する資料がない。方位 60° 面積 24.77㎡。所見出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



12号住居貯蔵穴

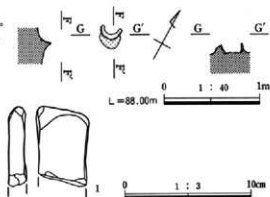
- 1 黒褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土。非常に多量のローム粒、多量のローム小ブロック含む。
- 3 暗褐色土。2層に類似するがより多くローム粒を多く含む。



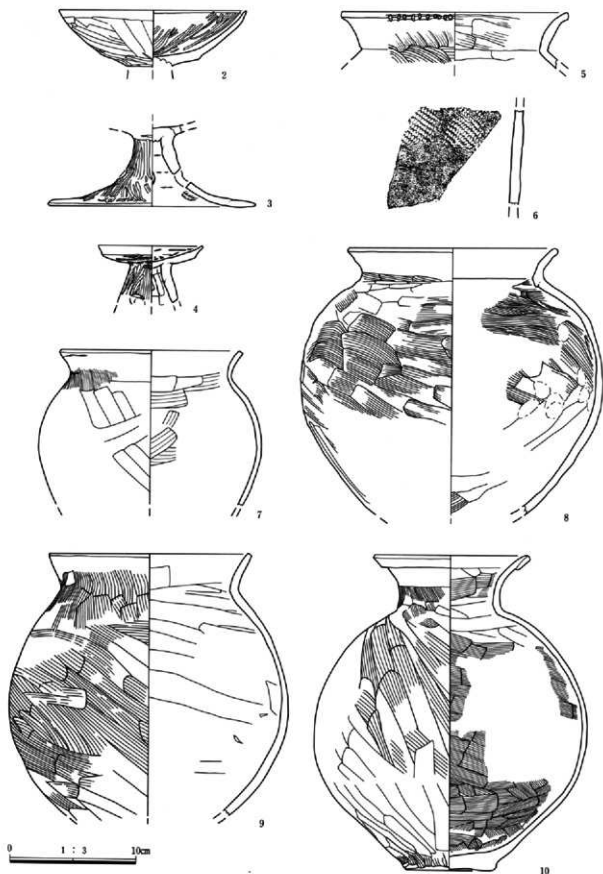
12号住居

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 2 暗褐色土。As-C粒は1層より多い。
- 3 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 4 暗褐色土。多量のローム粒、ローム小ブロック含む。
- 5 褐色土。ロームと黒色土との混土。
- 6 黒褐色土。As-C粒含む、ローム大、小ブロックと黒褐色土の混土(貼床)。
- 7 暗褐色土。ローム大、小ブロックとローム粒混の暗褐色土の混土(貼床)。
- 8 暗褐色土。多量のローム粒、少量の焼土粒含む(貼床)。
- 9 赤褐色焼土。炉。
- 10 暗褐色土。2層に類似するがロームブロックの粒子が均一(貼床)。
- 11 黒褐色土。1層土に類似するがロームブロックが大きい(貼床)。
- 12 黄褐色土。ローム(掘り過ぎ?)。
- 13 暗褐色土。多量のローム粒、微量の小ブロック、As-C粒含む。
- 14 黒褐色土。ローム粒、微量のAs-C粒含む。
- 15 暗褐色土。13層に近似し、小ブロック含まない。
- 16 暗褐色土。黒褐色土、多量のロームブロック含む。
- 17 暗褐色土。15層に近似。
- 18 暗褐色土。少量のローム粒含む。
- 19 暗褐色土。多量のロームブロック含む。

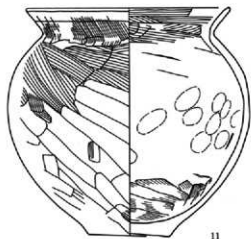
12号住居



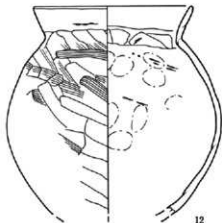
12号住居出土遺物(1)



12号住居出土遺物(2)



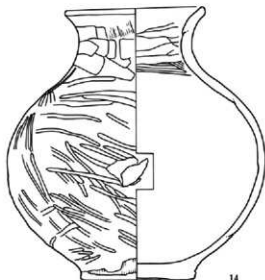
11



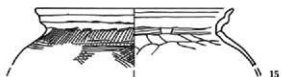
12



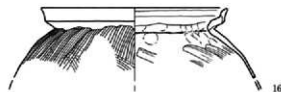
13



14

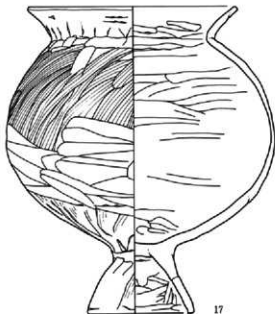


15



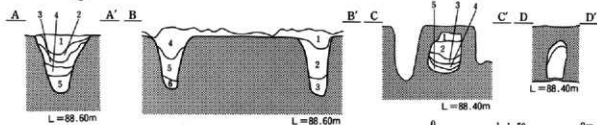
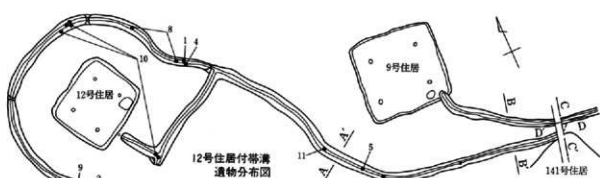
16

0 1 : 3 10cm



17

12号住居出土遺物(3)



12号住居付帯溝

A-A'

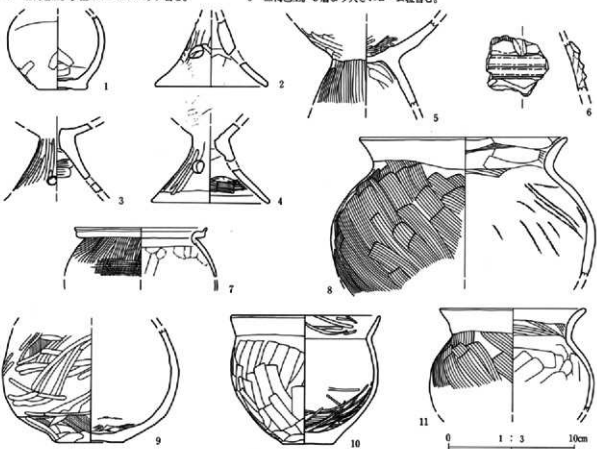
- 1 暗褐色土。少量のローム粒。微量のロームブロックとAs-C粒含む。
- 2 黒褐色土。ローム粒。微量のAs-C粒含む。
- 3 暗褐色土。少量の黒褐色土とロームブロック含む。
- 4 暗褐色土。少量のローム粒を均一に含む。
- 5 暗褐色土。少量のロームブロック含む。

B-B'

- 1 茶褐色土。少量のローム粒含む。
- 2 黒褐色土。均一に細粒含む。
- 3 黒褐色土。下部にローム粒含む。
- 4 黒褐色土。中央部にローム粒含む。
- 5 茶褐色土。均一にローム粒含む。
- 6 黒褐色土。5層より大きいローム粒含む。

C-C'

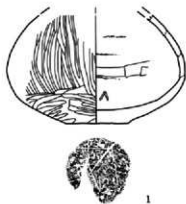
- 1 暗褐色土。As-C粒含む。
- 2 褐色土。As-C粒含む。
- 3 黄褐色土。As-C粒含む。
- 4 黄褐色土。少量のAs-C粒含む。
- 5 黒褐色土。As-C粒含む。



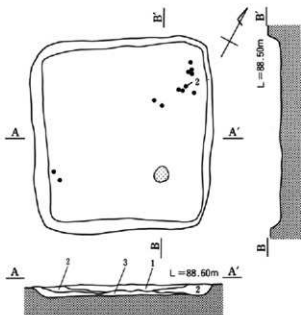
12号住居付帯溝出土遺物

13号住居(PL.26・観察表7頁)

形状 長軸4.1m、短軸3.8mの整ったほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで生活面とする。生活面は全体に平坦で整っており、貼床はない。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から南東側に偏して直径30cmの焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の壺が出土。重複 住居の東側で12号住居を巡る溝と重複。13住が12住を巡る溝を切って構築する土層断面の所見を得た。方位 151° 面積 14.91㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



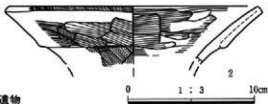
13号住居出土遺物



13号住居

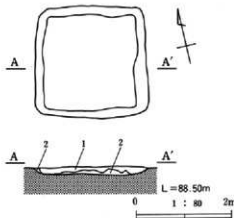
- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒を含む。
- 2 暗褐色土。多量のAs-C粒を含む。
- 3 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のロームブロック含む。

13号住居 生活面



14号住居(PL.26)

形状 長軸2.4m、短軸2.3mの整ったほぼ正方形を呈し、超小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んで構築面とし、この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。したがって、生活面として図示した平面図は、生活面と構築面の中間、つまり貼床の中間のもの。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 生活面が確認できないため、検出できない。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 単独で占地。方位 102° 面積 5.35㎡。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



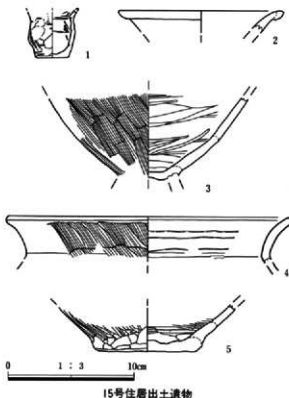
14号住居

- 1 黒褐色土。As-C粒を均一に含む。
- 2 黄褐色土。1層よりも柔らかい。

14号住居

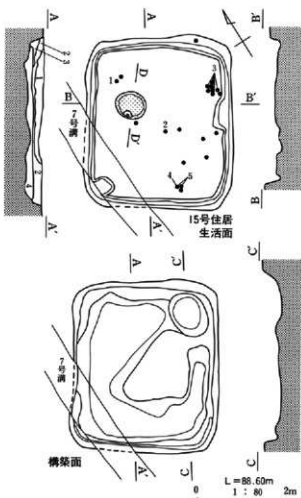
15号住居 (PL.27・観察表7頁)

形状 長軸3.6m、短軸3.1mで長軸を南北にもつ長方形を呈し、小形長方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が周囲よりやや高く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北西側に偏して直径60cmの範囲に焼土を検出。壁溝 幅10cm、深さ5cmで全周。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・台付甕・壺が出土。重複 単独で占地。方位 24° 面積 10.88㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



16号住居 (PL.28・観察表7頁)

形状 長軸3.8m、短軸3.5mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅60cmほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も

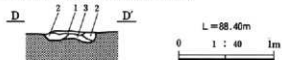


15号住居

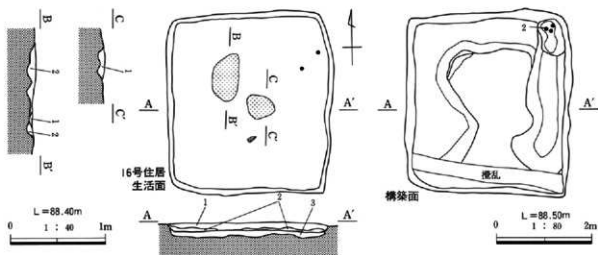
- 1 黄褐色土。ロームと黒褐色土との混土で多量のAs-C粒含む。
- 2 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム粒含む。
- 3 黄褐色土。1層に類似するがAs-C粒の量が少ない。
- 4 暗褐色土。少量のAs-C粒、非常に多量のロームブロック含む(貼床)。

15号住居炉

- 1 赤褐色土。焼土を主体で少量の黒色土をブロック状に含む。
- 2 黒褐色土。少量のローム小ブロック含む。
- 3 黄褐色土。ロームを主体で少量の焼土粒含む。

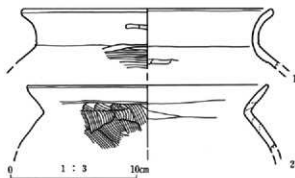


確認できない。炉 住居中央部と中央から北西側に偏して直径50cmほど、長軸1.0m、短軸60cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕が出土。重複 単独で占地。方位 1° 面積 12.95㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



16号住居
生活面

構築面



16号住居

- 1 暗褐色土。砂質で少量のAs-C粒含む。
2 暗褐色土。少量のAs-C粒、ローム小ブロック含む。
3 暗褐色土。多量のローム粒、ロームブロック含む(貼床)。

16号住居炉B-B'

- 1 赤褐色土。多量の焼土粒含む。
2 暗褐色土。多量のローム粒含む。

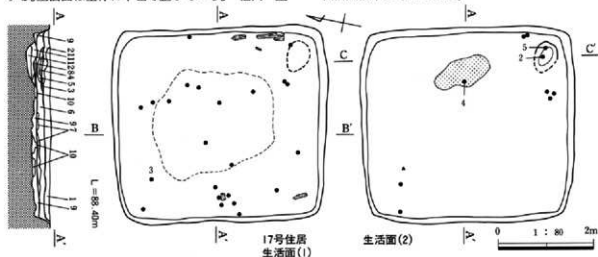
16号住居炉C-C'

- 1 黒褐色土。少量の焼土粒、ローム粒含む。

17号住居 (PL.29・観察表7頁)

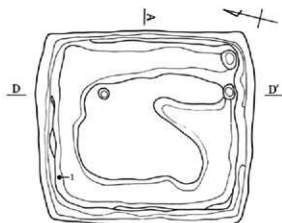
形状 長軸4.6m、短軸4.1mで長軸を南北にもつ整った長方形を呈し、中形長方形に分類。床面 基盤のローム層を25cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅70cmほどの範囲が住居の中央部よりやや深く掘り込まれ、特に東壁に沿った部分は溝状になる。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で整っている。柱穴 壁

内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から東側に偏して長軸1.2m、短軸60cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸70cm、短軸50cm、深さ30cmの不整円形を呈す。遺物 土師器の壺・壺・小形壺・器台が出土。重複 単独で占地。方位 168° 面積 18.11㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



17号住居
生活面(1)

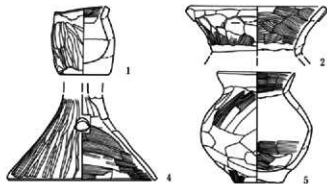
生活面(2)



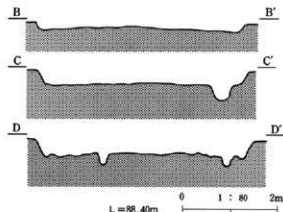
17号住居

構築面

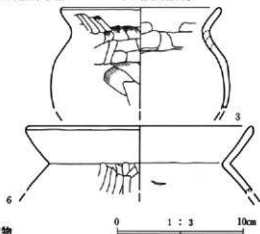
- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒を均一に、微量のローム大粒含む。
- 2 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒含む。
- 3 暗褐色土。微量のAs-C粒、多量の焼土大粒含む。
- 4 黄褐色土。少量のAs-C粒含む(貼床)。
- 5 黒褐色土。As-C粒を一部に含む(貼床)。
- 6 黒褐色土。As-C粒、ローム粒を均一に含む(貼床)。



17号住居出土遺物



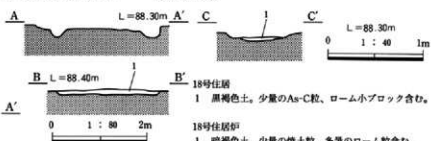
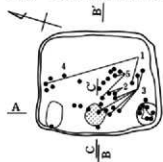
- 7 黄褐色土。ローム粒を均一に含む(貼床)。
- 8 赤褐色土。焼土。
- 9 暗褐色土。ロームブロックと暗褐色土の混土(貼床)。
- 10 黄褐色土。ロームブロック主体(貼床)。
- 11 暗褐色土。微量のAs-C粒、少量の焼土粒含む(貼床)。
- 12 黄褐色土。多量のロームブロック含む(貼床)。



18号住居(PL.30・観察表7頁)

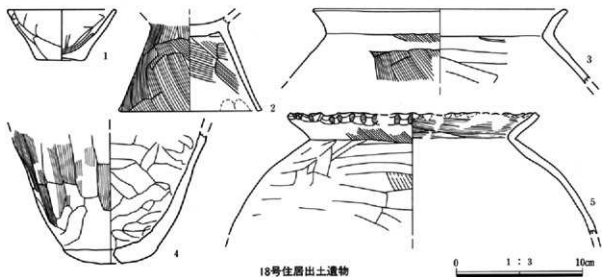
形状 長軸2.6m、短軸2.2mで長軸を南北にもつ長方形を呈し、超小形長方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とし、この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。したがって、生活面として図示した平面図は、生活面と構築面の中間、つまり貼床の中位のもの。住居南西隅のピツ

トは構築面の段階で掘られ、住居北西隅のピツは攪乱。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から西側に偏して直径40cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・台付甕・鉢・甕が出土。重複 単独で占地。方位 164° 面積 5.32m²。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



18号住居

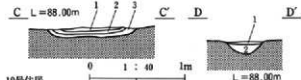
- 1 黒褐色土。少量のAs-C粒、ローム小ブロック含む。
- 18号住居B'
- 1 暗褐色土。少量の焼土粒、多量のローム粒含む。



18号住居出土遺物

19号住居 (PL.31・観察表8頁)

形状 長軸4.5m、短軸4.0mで長軸を南北にもつ整った長方形を呈し、中形長方形に分類。床面 基盤のローム層を45cm掘り込んで構築面とする。構築面は北壁に沿った西側が部分的に深く掘り込まれる他は、ほぼ平坦。この面に厚さ20cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で整っている。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。 炉 住居中央から東側と南側に偏した2箇所焼土を検出。東側のものは長軸90cm、短軸50cmの楕円形状で、南側のものは直径40cmの円形を呈す。 壁溝 無し。 貯蔵穴 無し。 遺物 土師器の甕・台付甕・壺・埴・鉢・高坏・器台が出土。重複単独で占地。 方位 138° 面積 17.12㎡。 所見出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



19号住居

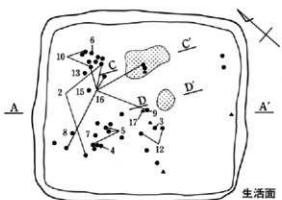
- 1 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒含む。
- 2 黒褐色土。少量のAs-C粒、ローム粒、ロームブロック含む。
- 3 黒褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム小ブロック含む(貼床)。
- 4 黄褐色土。ロームを主体で多量の黒色土粒含む(貼床)。

19号住居原伊 C-C'

- 1 赤褐色土。焼土と黒色土も混入。
- 2 朱色土。焼土。僅かに黒土粒を含む。
- 3 黒褐色土。黒土と僅かなローム粒の混入。

19号住居原伊 D-D'

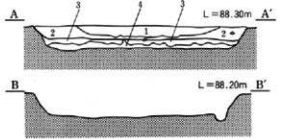
- 1 黒赤色土。多量の黒土粒含む焼土。
- 2 茶褐色土。少量のローム粒含む。



生活面

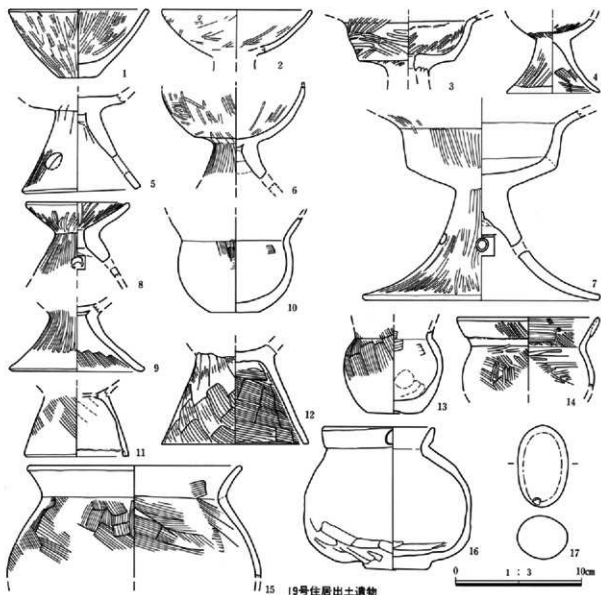


構築面



0 1 : 80 2m

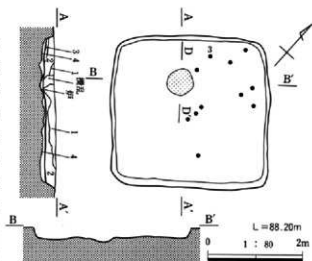
19号住居



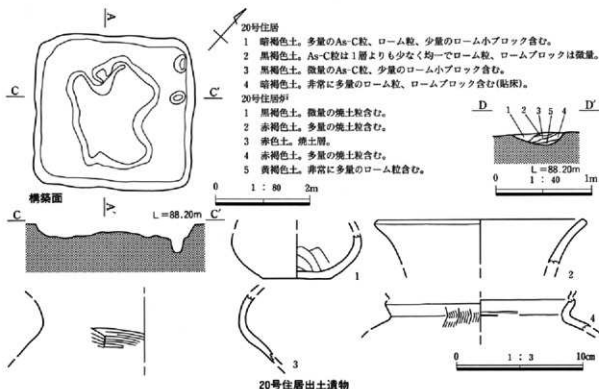
15 19号住居出土遺物

20号住居 (PL. 32・観察表 8頁)

形状 長軸3.4m、短軸3.2mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が周囲よりやや高く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北西側に偏して直径50cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・台付甕・埴が出土。重複 単独で占地。方位 50° 面積 10.27㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



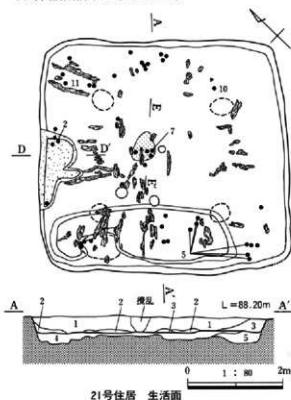
20号住居 生活面

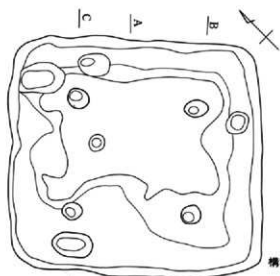


21号住居 (PL.33・観察表9頁)

形状 長軸5.3m、短軸5.0mのほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を40cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅70cmほどの範囲が住居の中央部よりやや深く掘り込まれ、特に東壁に沿った部分は溝状になる。この面に厚さ15cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で整っている。焼失 この住居は焼失住居で、住居の北半部を中心に多量の炭化材と焼土を検出。これらの出土レベルは全体に床面に近いが、住居壁際のものほど床面からの位置が高く、壁際では焼土層の下位に自然堆積した住居の一次埋没土が認められる。したがって、火災は住居の使用時ではなく、埋没過程のある時点のものと考えられる。柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の対角線上に確認した4個のピットを柱穴と判断。炉 住居中央から北側に偏して長軸70cm、短軸50cmの範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の北西隅に確認した長軸90cm、短軸50cm、深さ30cmの方形ピット

トを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の壺・台付壺・壺・高環・鎌?が出土。重複 単独で占地。方位 136° 面積 25.00㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



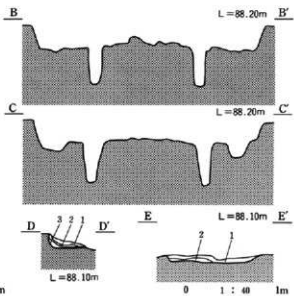


構築面



21号住居 A-A'

- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム粒含む。
- 2 黒褐色土。多量の炭化物含む。
- 3 暗褐色土。多量の焼土粒、少量のローム粒含む。
- 4 粘床。
- 5 黒褐色土。多量のローム粒含む(粘床)。

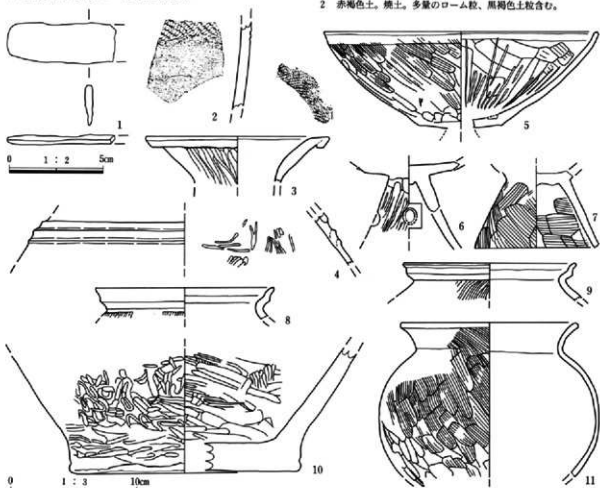


21号住居焼けた屋根 D-D'

- 1 赤褐色土。焼土化したローム。多量の黒色土小ブロック含む。
- 2 黒褐色土。少量の焼土小ブロック含む。
- 3 黒褐色土。2層に類似するが焼土ブロックの量が少ない。

21号住居伊

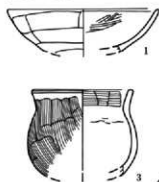
- 1 暗褐色土。少量のローム小ブロック、焼土小ブロック含む。
- 2 赤褐色土。焼土。多量のローム粒、黒褐色土粒含む。



21号住居出土遺物

23号住居 (PL.35・観察表10頁)

形状 住居の南西部が他の住居と重複するため全形は確認できないが、長軸3.5m、短軸3.4mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を25cm平坦に掘り込んでそのまま生活面とし、貼床はない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北西側に偏して直径60cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の台付甕・小形甕・高坏、砥石が出土。重複 住居の南西部で22号住居と重複。22住が23住を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 49° 面積 10.96㎡ (推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



23号住居出土遺物



- 23号住居炉
 1 黒色土。少量のAs-C粒含む。
 2 朱色土。
 3 赤褐色土。黒色土、ローム、焼土の混土。
 4 ローム。少量の焼土含む。

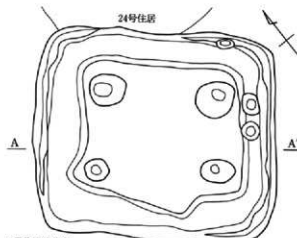
25号住居 (PL.38・観察表11頁)

形状 長軸5.2m、短軸4.4mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、中形長方形に分類。床面 基盤のローム層を45cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅70cmほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。焼失 この住居は焼失住居で、住居の北半部を中心に炭化材を検出。これらの出土レベルは全体に床面に近く、壁際のものも同様。柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の対角線上に確認した4個のビットを柱穴と判断。炉 住居中央から北西側に偏して直径50cmの範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の北東隅に設置。直径40cm、深さ60cmの円形を呈す。遺物 土師器の甕・台付甕・壺・埴・高坏が

出土。重複 住居の北西部で24号住居と重複。24住が25住を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 130° 面積 21.10㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



25号住居 生活面

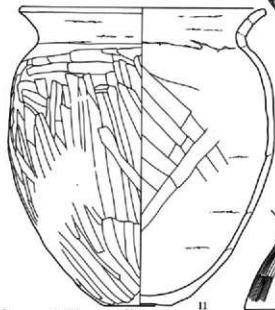
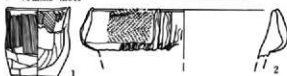


25号住居貯蔵穴

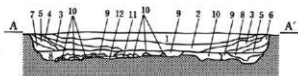
- 1 黒色土。多量のローム粒、少量のAs-C粒含む。
 2 黒褐色土。1よりも大粒のロームを多く含む。
 3 黒褐色土。2と同程度のAs-C粒含む。
 4 茶褐色土。ローム層中に黒色土と褐色土、少量のAs-C含む。
 5 褐色土。ローム粒数個含む。 L=88.00m
 6 褐色土。粘質。

L=88.00m

1 : 40

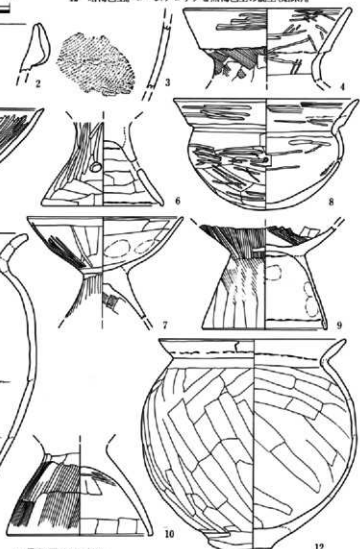
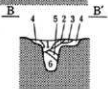


0 1 : 3 10cm



25号住居

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒均一に含む。
 2 黒褐色土。多量のAs-C粒を均一に、少量のローム大粒と小ブロック含む。
 3 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒含む。
 4 暗褐色土。3層に近似するがやや暗褐色土の量が多い。
 5 暗褐色土。3層に近似するがローム小ブロック含む。
 6 黒褐色土。2層に近似するが炭化物を多く含む。
 7 黒褐色土。黒褐色土(As-C粒含む)ブロックとロームブロックの混土。
 8 黄褐色土。ローム小ブロックと黒褐色土の混土(粘床)。
 9 黒褐色土。黒褐色土(As-C粒含む)主体で、少量のロームブロック含む(粘床)。
 10 黄褐色土。ロームブロック(粘床)。
 11 暗褐色土。ローム粒と黒褐色土の混土(粘床)。
 12 暗褐色土。ロームブロックと黒褐色土の混土(粘床)。

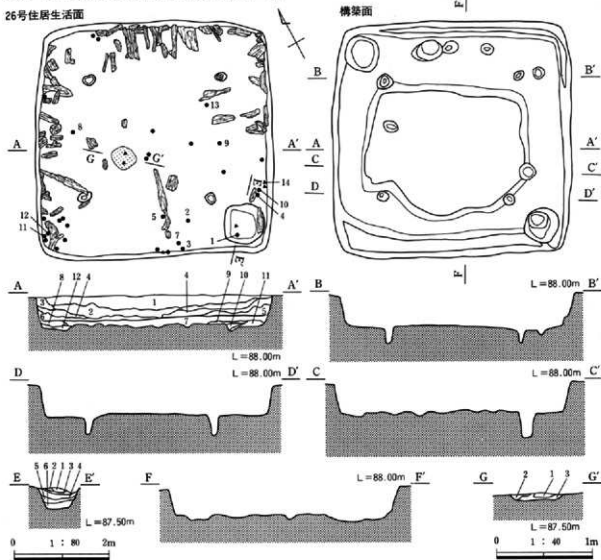


25号住居出土遺物

26号住居 (PL.39・観察表11頁)

形状 長軸5.1m、短軸4.9mの壁たほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を65cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅70cmほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。焼失 この住居は焼失住居で、住居の北壁と西壁を中心に多量の垂木と考えられる炭化材と焼土を検出。これらの出土レベルは、住居中央部のものは床面に密着しているが壁際では床面からの位置が高く、炭化材の下位には自然堆積した住居の一次埋没土が認められる。一方、貯蔵穴の覆土には、上位に炭化材と焼土を含む層が堆積し、これ

は住居の炭化材と焼土の層に相当する。したがって、火災は住居の使用時ではなく、住居及び貯蔵穴の埋没過程のある時点のものと考えられる。柱穴 住居のほぼ対角線上に直径20cmの柱穴4個を確認。貼床が柱穴の際まで及んでいることから、立柱後に貼床を施す。炉 住居中央から北西側に偏して直径50cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。一辺80cm、深さ50cmの正方形を呈す。遺物 土師器の甕・台付甕・壺・埴・高坏、砥石、土製紡錘車が出土。重複 単独で占地。方位 119° 面積 24.01㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



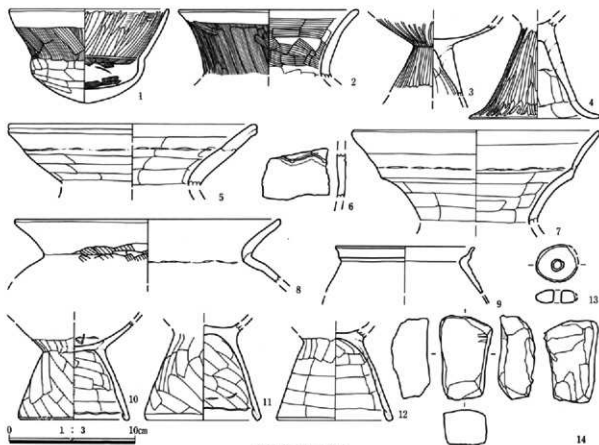
26号住居

26号住居

- 1 灰褐色土。多量のAs-C粒、微量のローム粒含む。
- 2 暗褐色土。微量のAs-C粒、少量のローム粒と小ブロック含む。
- 3 暗褐色土。2層よりもロームブロックの量が多い。
- 4 黄褐色土。多量のローム粒とロームブロック含む。一部に焼土ブロック含む(土層根柢?)。
- 5 黄褐色土。ローム粒主体で、少量の焼土粒と炭化物含む。
- 6 暗褐色土。ローム粒、ロームブロック、焼土粒、炭化物、灰含む。
- 7 暗褐色土。ローム小ブロック、多量のローム粒含む(貼床)。
- 8 黄褐色土。ローム主体で、少量の黒色土粒含む(貼床)。
- 9 暗褐色土。少量のローム粒含む(貼床)。
- 10 黄褐色土。ローム主体で、多量の黒色土粒含む(貼床)。
- 11 暗褐色土。多量のローム小ブロック含む(貼床)。
- 12 暗褐色土。ローム小ブロック、多量のローム粒含む(貼床)。

26号住居貯蔵穴

- 1 赤褐色土。焼土を主体とし少量の黒色土含む。
 - 2 黒褐色土。少量のローム粒、焼土粒含む。
 - 3 褐色土。少量の黒色土粒含む。
- 26号住居貯蔵穴
- 1 黄褐色土。粘質でロームブロック含む。
 - 2 黄褐色土。細かいロームブロック含む。
 - 3 黒褐色土。焼土ブロック、炭化物含む。
 - 4 暗灰褐色土。細かいロームブロック含む。
 - 5 灰褐色土。細かいロームブロック含む。
 - 6 灰黄褐色土。

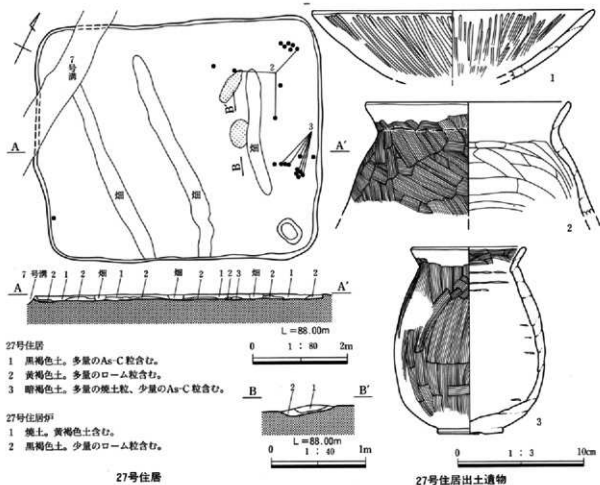


26号住居出土遺物

27号住居(PL.40・観察表12頁)

形状 長軸6.1m、短軸5.0mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とし、この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。したがって、生活面として図示した平面図は、生活面と構築面の中間、つまり貼床の中位のもの。柱穴 壁内に主

柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から東側に偏して長軸60cm、短軸40cmの楕円形範囲に焼土を検出したがこれは炉の底面部分で、上面は確認できない。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・高環が出土。重複 住居との重複はないが、畑のサクがこの住居を切る土層断面の所見を得た。方位 61° 面積 29.56㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



27号住居

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 2 黄褐色土。多量のローム粒含む。
- 3 暗褐色土。多量の焼土粒、少量のAs-C粒含む。

27号住居炉

- 1 焼土。黄褐色土含む。
- 2 黒褐色土。少量のローム粒含む。

27号住居

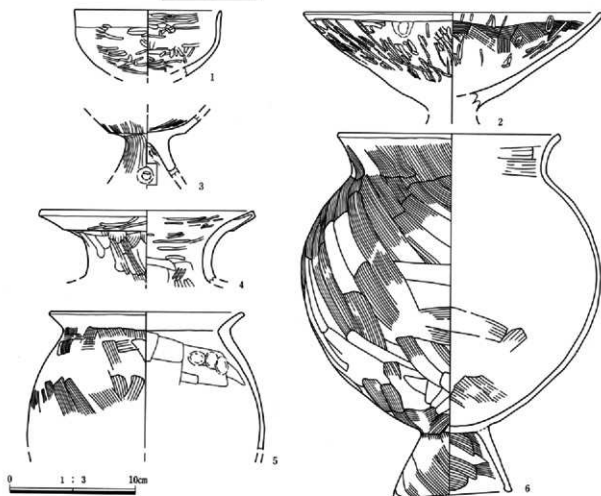
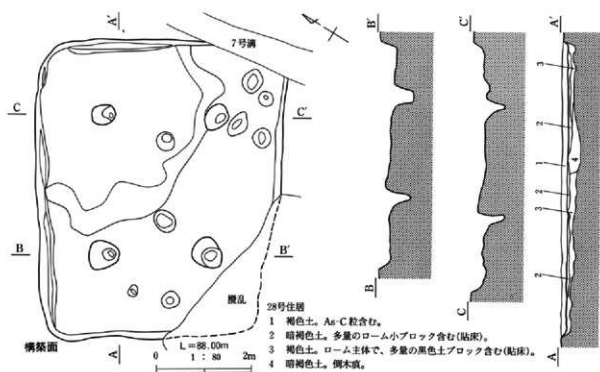
27号住居出土遺物

28号住居 (PL.40・観察表12頁)

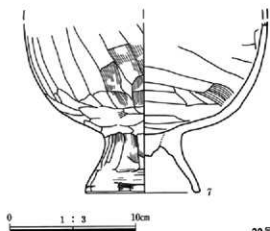
形状 住居の南西隅は擾乱のため確認できないが、長軸6.3m、短軸5.2mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体にほぼ平坦である。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。 焼失 この住居は焼失住居で、住居の東半部を中心に炭化材と焼土を検出。これらの出土レベルは全体に床面に近く、壁際のものも同様。 柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の対角線上に確認した4個のピットを柱穴と判断。 炉 住居中央から東側に偏して長軸90cm、短軸50cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。 壁溝 無し。 貯蔵穴 無し。 遺物 土師器の壺・台付壺・壺・高坏・鉢が出土。重複 単独で占地。 方位 61° 面積 31.03m²(推定)。 所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



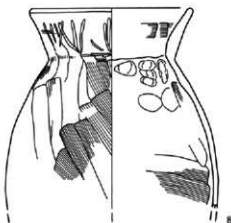
28号住居 生活面



28号住居出土遺物(i)



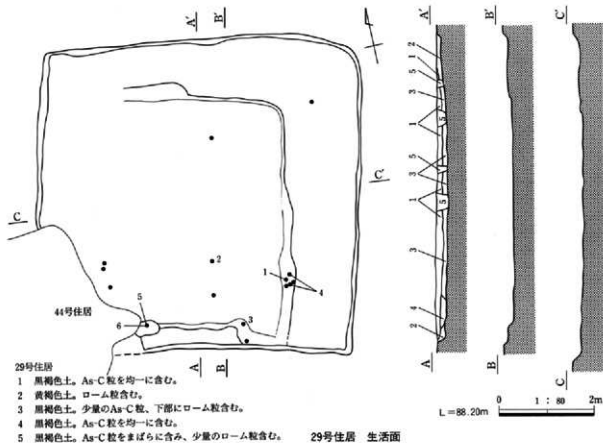
28号住居出土遺物(2)

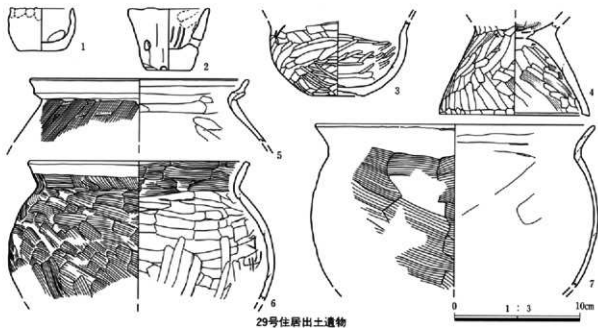


29号住居 (PL.41・観察表12頁)

形状 長軸6.9m、短軸6.5mのほぼ正方形を呈し、超大型正方形に分類。この外形の内側に、西壁と南壁を共有するほぼ一辺5.5mの段差を確認。壁を共有することと外形と相似形であることから、住居を拡張したものか壁沿いのベッド状遺構と考えられる。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで生活面とする。北壁と東壁に沿った幅1.0~1.5mの範囲は、中

央部より10cmほど高い。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 確認できない。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の壺・台付甕・埴が出土。重複 住居の南西部で44号住居と重複。44住が29住を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 13° 面積 44.41m²(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。

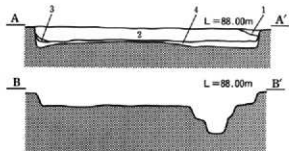




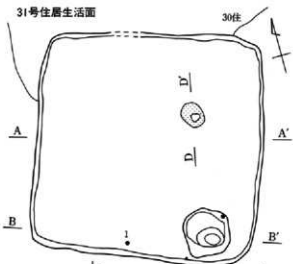
29号住居出土遺物

31号住居(PL.43・観察表13頁)

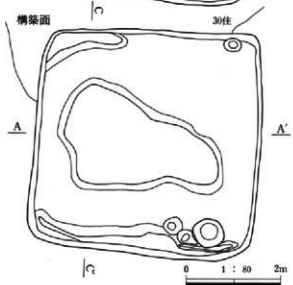
形状 長軸4.8m、短軸4.7mの整ったほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を25cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が島状に高く掘り残される。この面に厚さ5cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で整っている。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して直径50cmの円形の範囲に粘土を検出し、この中央部に強く焼けた痕跡を確認。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。一辺100cm、深さ55cmの正方形を呈す。遺物 土師器の甕・壺が出土。重複 30号住居と重複。30住が31住を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 108° 面積 22.22㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



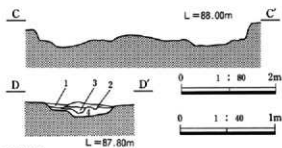
31号住居生活面



構築面



31号住居

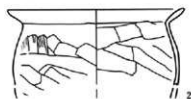
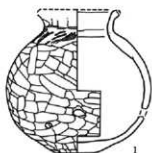


31号住居

- 1 黒褐色土。As-C粒均一に含む。
- 2 黄褐色土。少量のAs-C粒を均一に、ローム粒を全体に含む。
- 3 黒褐色土。少量のローム含む。
- 4 粘床。

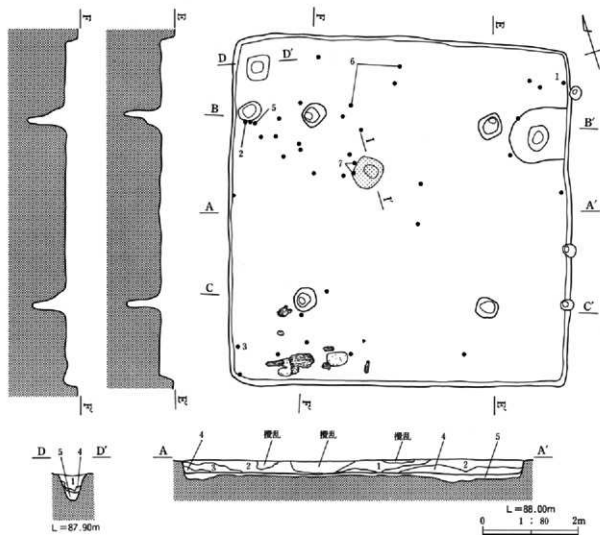
31号住居炉

- 1 黒褐色土。黒色土と焼土の混土。
- 2 灰色土。焼土ブロック含む粘土。
- 3 茶褐色土。黒色土、ローム、焼土含む。
- 4 茶褐色土。ローム層。焼土粒含む。



0 1:3 10cm

31号住居出土遺物

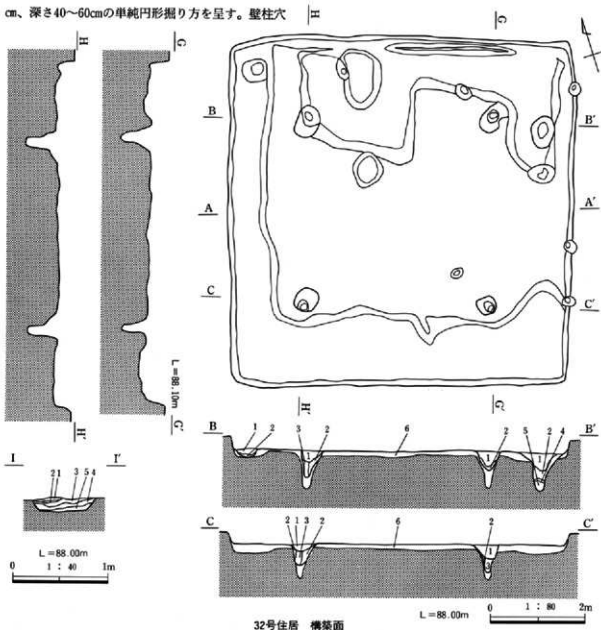


32号住居 生活面

32号住居(PL.43・観察表13頁)

形状 一辺7.4mの整った正方形を呈し、超大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は東壁を除く各壁の壁際の幅80cmほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。 焼失 住居南西隅のほぼ床面直上に炭化材を確認したが、この部分以外ではほとんど認められない。 柱穴 住居のほぼ対角線上に4個の主柱穴を確認した他、東壁の北側に1個、南側に2個の合計3個の壁柱穴を確認。主柱穴は直径40~50cm、深さ40~60cmの単純円形掘り方を呈す。壁柱穴

は直径20cm、床面からの深さ40cmほどの単純円形掘り方で、壁を半円形状に掘り込む。 炉 住居中央から北西側に偏して直径70cmの円形の範囲に粘土を検出し、この中央部に強く焼けた痕跡を確認。 壁溝 無し。 貯蔵穴 住居の北東隅に設置。一辺110cm、深さ60cmの不整形方を呈す。 遺物 土師器の壺・台付甕・小形甕・壺・高環・器台が出土。伴出する巡方は近接する9世紀代の30号住居のものと考えられる。 重複 単独で占地。 方位 108° 面積 52.43m²。 所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



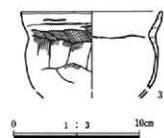
32号住居 構築面

32号住居 A-A'

- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒、ローム小ブロック含む。
- 3 黒褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム小ブロック含む、粘質。
- 4 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム小ブロック含む。
- 5 黄褐色土。多量のローム粒、ロームブロック含む(貼床)。

32号住居 B-B'、C-C'、D-D'

- 1 黒褐色土。少量のローム粒含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 3 暗褐色土。柱痕跡。
- 4 赤褐色土。上部が黒色、下部が赤色。
- 5 暗褐色土。粘質で、少量のローム粒含む。
- 6 貼床。

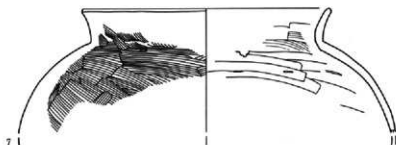
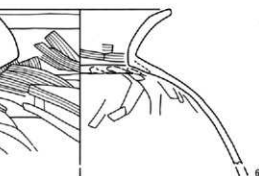
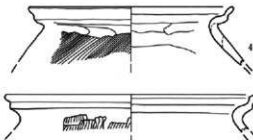


0 1 : 3 10cm



32号住居伊

- 1 灰褐色土。粘土主体で、少量の焼土粒含む。
- 2 赤色土。焼土層。
- 3 灰白色土。灰白色粘土主体で、少量の焼土粒含む。
- 4 赤色土。焼土層。
- 5 黄褐色土。ローム主体で、少量の黒色土粒含む。

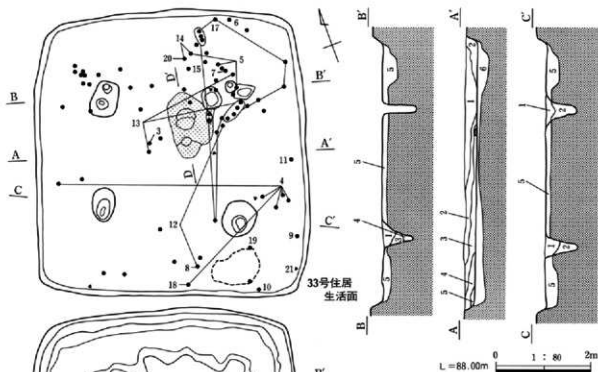


32号住居出土遺物

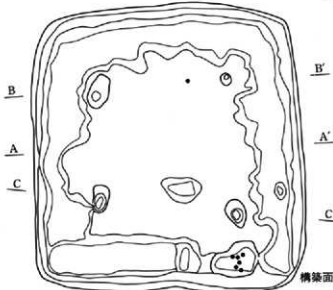
33号住居 (PL. 44・観察表14頁)

形状 長軸6.0m、短軸5.8mの整ったほぼ正方形を呈し、大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅1.0mほどの範囲が住居の中央部より深く掘り込まれ、特に南壁際は他の壁の壁際よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個の主柱穴を確認。北東に位置する1個を除いて直径70cm、深さ70cmほどの大きな円形及び不整形楕円形状を呈すが、北東に位置する1個は、深さは他と同様であるが、直径は生活面、構築面でも20cmほどにすぎ

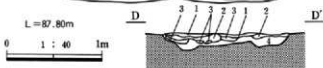
ない。伊 住居中央から北東側に偏して長軸1.4m、短軸90cmの楕円形状の広範囲に焼土が分布するが、この範囲の中央部と南側の2箇所に、貼った粘土とその一部が強く焼けて焼土化した部分を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した長軸100cm、短軸70cm、深さ40cmの不整形方形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の甕・台付甕・壺・鉢・埴・器台・小形甕、磁石が出土。重複 単独で占地。方位 109° 面積 33.44㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



33号住居
生活面



構築面



33号住居 A-A'

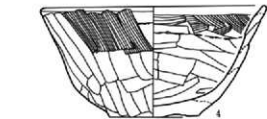
- 1 黒褐色土。As-C粒を均一に含む。
- 2 黒褐色土。As-C粒、ローム粒含む。
- 3 黒褐色土。少量のAs-C粒、ローム粒含む。
- 4 黒褐色土。少量のAs-C粒、ローム粒含む。
- 5 黒褐色土。僅かなローム粒含む。
- 6 粘球。

33号住居 B-B', C-C'

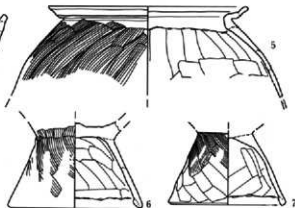
- 1 黒褐色土。As-C粒を均一に、少量のローム粒含む。
- 2 黄褐色土。赤褐色土を一部に含む。
- 3 黄褐色土。一部黒褐色土、ローム粒を均一に含む。
- 4 黄褐色土。粘土質。
- 5 粘球。

33号住居印

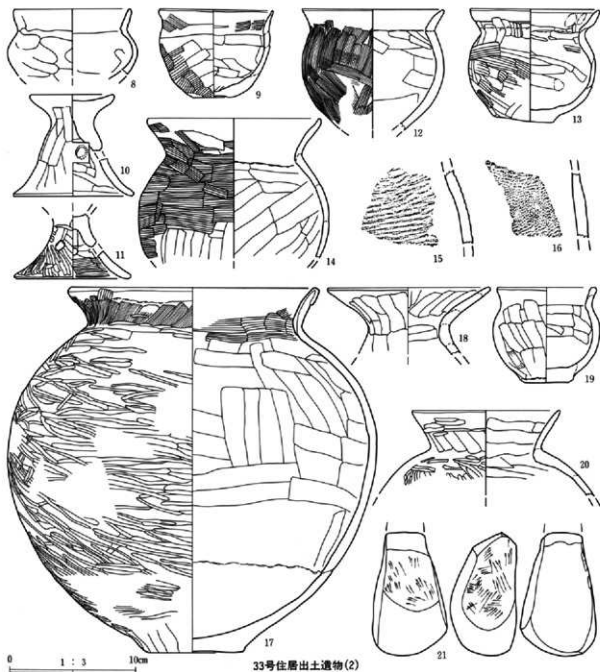
- 1 黒褐色土。多量の白色粘土ブロック、少量の焼土粒含む。
- 2 黒褐色土。多量の焼土粒含む。
- 3 赤色土。焼土層。
- 4 黄褐色土。ロームの基礎層。



0 1 : 3 10cm



33号住居出土遺物(1)

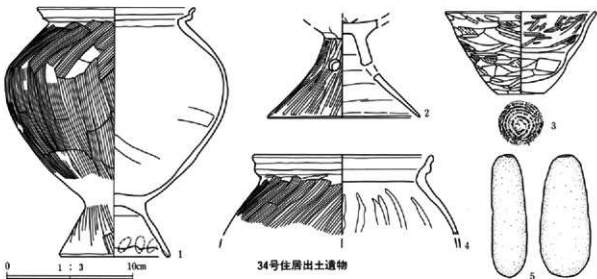
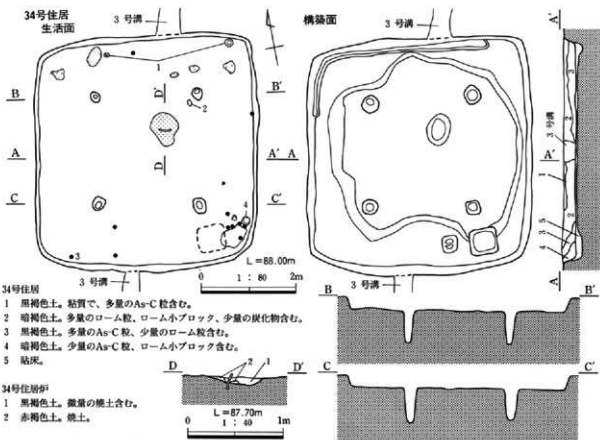


33号住居出土遺物(2)

34号住居 (Pl. 46・観察表15頁)

形状 長軸5.0m、短軸4.8mの整ったほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅60cmほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ5cmの粘床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 住居の対角線上に4個を確認した。直径30~40cm、深さ70~80cmの単純円形掘り方を呈す。炉 住居中央から北東側に偏して直

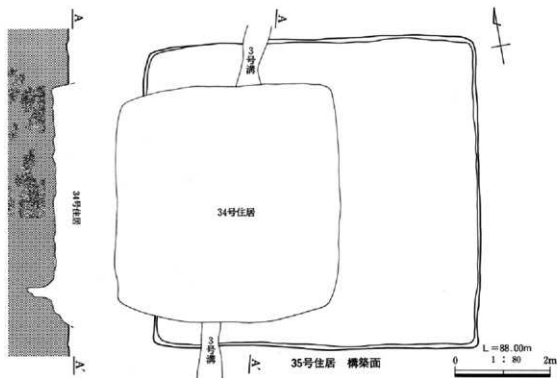
径60cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した長軸60cm、短軸55cm、深さ30cmの正方形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の台付壺・埴・器台が出土。重複 住居のほぼ全域が35号住居と重複。35住の掘り込みが浅いため、新旧関係を判定する資料を欠く。方位 9° 面積 22.41㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



35号住居

形状 長軸7.1m、短軸6.5mのほぼ正方形を呈し、超
大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を5cm掘
り込んで構築面とし、この面に粘床を施して生活面
とするが、掘り込みが浅いため生活面の上面は削平
されて確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はな
く、壁外柱穴も確認できない。炉 生活面が確認

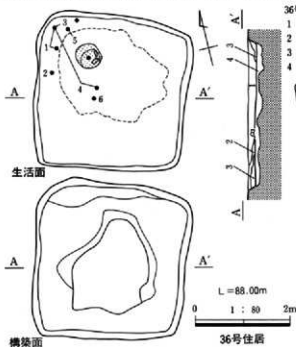
できないため、確認できない。壁溝 無し。貯
蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重
複 住居の西側で34号住居と重複。35住の掘り込み
が浅いため、新旧関係を判定する資料を欠く。方
位 99° 面積 45.17㎡。所見 粘床内の土師器
片から古墳時代前期と考えられる。



36号住居(PL.47・観察表15頁)

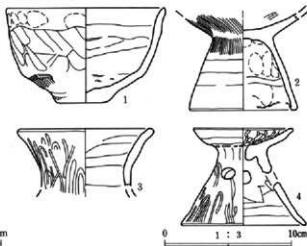
形状 長軸3.3m、短軸3.2mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を25cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が島状に高く掘り残される。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。生活面は炉を含んだ住居の北半部が踏み固められて硬い。柱穴 壁内に

主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北西側に偏して直径50cmの円形の範囲に粘土を検出し、この中央部に強く焼けた痕跡を確認。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の台付甕・壺・鉢・高坏・器台が出土。重複 単独で占地。方位 110° 面積 10.08㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。

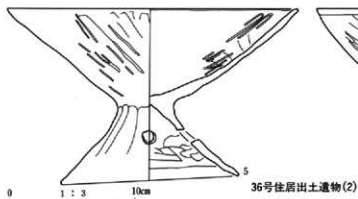


36号住居

- 1 黒褐色土、多量のAs-C粒、ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土、少量のAs-C粒、多量のローム粒含む。
- 3 黒褐色土、As-C粒は1層よりも少なく、ローム粒はほとんど含まない。
- 4 暗褐色土、多量のローム粒、ロームブロック含む(貼床)。

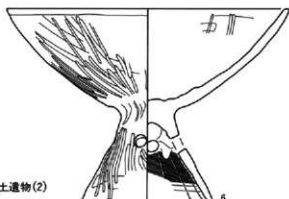


36号住居出土遺物(1)

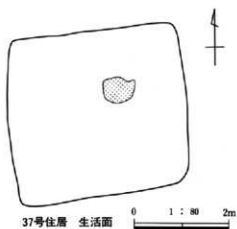


37号住居 (PL.48)

形状 長軸3.8m、短軸3.5mの整ったほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を数cm掘り込んで床面とするが、掘り込みが浅いため生活面の上面は確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して直径60cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 単独で占地。方位 84° 面積 12.88㎡。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



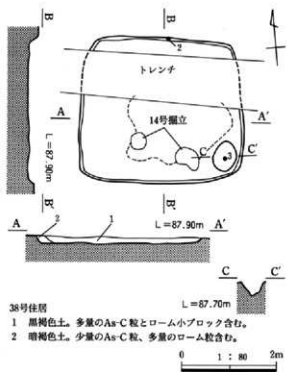
36号住居出土遺物(2)



37号住居 生活面

38号住居 (PL.48・観察表15頁)

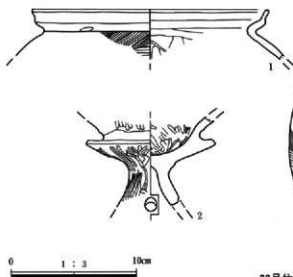
形状 長軸3.5m、短軸3.1mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、小形長方形に分類。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んでそのまま生活面とする。確認した範囲の生活面は平坦で整っている。住居南西部の直径35cm、深さ10cmのピットは14号掘立柱建物のもので、住居北側を東西に切る機軸は試掘トレンチ。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 確認できない。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸60cm、短軸50cm、深さ25cmの楕円形状を呈す。遺物 土師器の台付甕・壺・特殊器台が出土。重複 14号掘立柱建物と重複。14掘立柱は覆土の状況から9世紀代と考えられ、14掘立柱が新しいと判断できる。方位 98° 面積 10.03㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



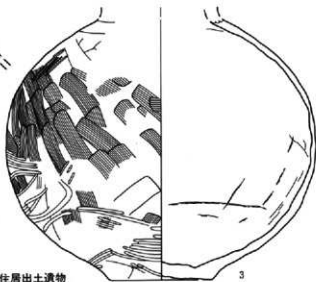
38号住居

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒とローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒含む。

38号住居 生活面



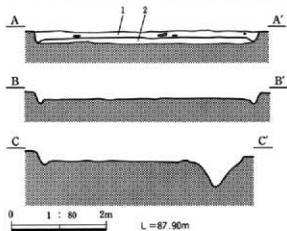
38号住居出土遺物



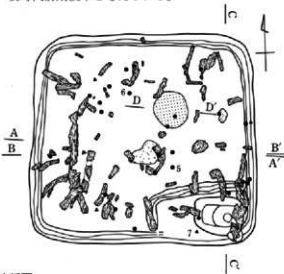
39号住居 (PL.49・観察表15頁)

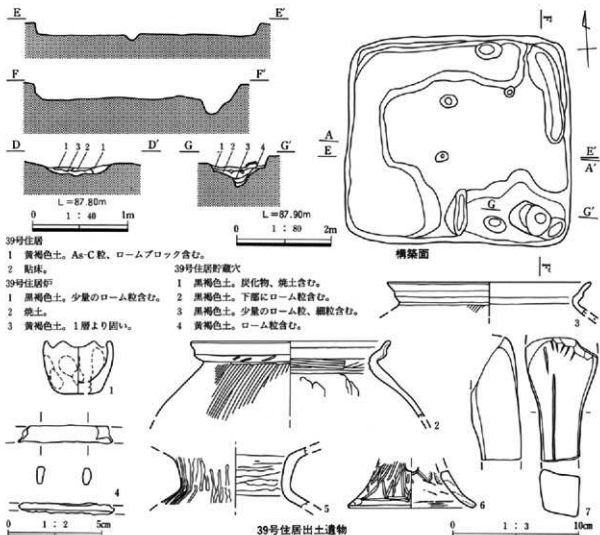
形状 長軸4.8m、短軸4.4mの整ったほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅70cmほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。貯蔵穴の周囲には、貯蔵穴を囲むようなL字形に帯状の高まりを検出。焼失 この住居は焼失住居で、住居のほぼ全面に多量の炭化材を確認。炭化材のほとんどは垂木と考えられるが、住居中央西側には梁材か桁材と考えられる炭化材も検出。これらの出土レベルは、住居中央部のものは床面に密着しているが壁際では床面からの位置が高い。一方、貯蔵穴の上位には貯蔵穴が埋没後に崩れ

落ちた炭化材が出土しており、貯蔵穴の覆土に人為的な埋め土の痕跡がない。したがって、火災は住居の使用時ではなく、住居及び貯蔵穴の埋没過程のある時点のものと考えられる。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央部と中央から北東側に偏して2箇所焼土を検出。北東側のものは直径70cmの円形を呈す。壁溝 幅15cm、深さ10cmで南壁の東側を除いて全周。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸110cm、短軸80cm、深さ55cmの不整形を呈す。遺物 土師器の台付壺・壺・器台、刀子、砥石が出土。重複 単独で占地。方位 93° 面積 20.39㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



39号住居 生活面

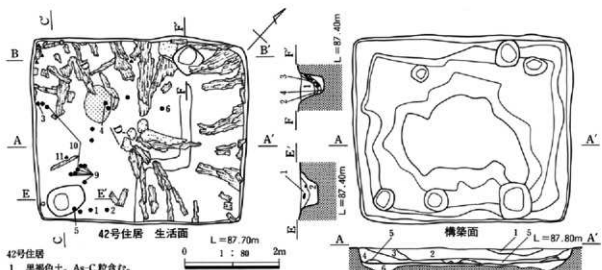




42号住居(PL.51・観察表16頁)

形状 長軸4.6m、短軸3.9mで長軸を東西にもつ整った長方形を呈し、中形長方形に分類。床面 基盤のローム層を40cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が島状に高く掘り残される。この面に厚さ5cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。生活面は住居の西側が数cmの直線的な段差をもって仕切られるように低く、この範囲のみが踏み固められて硬い。焼失 この住居は焼失住居で、住居の南西部を除くほぼ全面に多量の垂木と考えられる炭化材と焼土を検出。これらの出土レベルは、住居中央部のものは床面に密着しているが壁際では床面からの位置が高く、炭化材の下位には自然堆積した住居の一次埋没土が認められる。一方、2箇所の貯蔵穴の覆土中には貯蔵穴の埋没過程で崩れ落ちた炭化

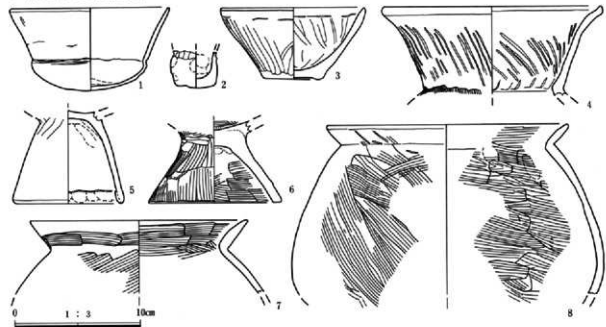
材が出土しており、炭化材より下位の貯蔵穴の覆土に人為的な埋め土の痕跡がない。したがって、火災は住居の使用時ではなく、住居及び貯蔵穴の埋没過程のある時点のものと考えられる。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北西側に偏して長軸80cm、短軸50cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南西隅と北東隅の2箇所に設置。南西隅のものは長軸90cm、短軸60cm、深さ30cmの不整形を呈し、北東隅のものは一辺60cm、深さ50cmの正方形を呈す。遺物 土師器の壺・台付壺・壺・鉢・埴・高坏、碧玉製管玉が出土。重複 単独で占地。方位 50° 面積 17.56m²。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



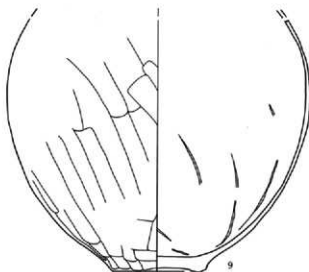
- 42号住居 生活面
- 1 黒褐色土。As-C粒含む。
 2 黄褐色土。As-C粒含む。
 3 黒褐色土。As-C粒含む。
 4 黄褐色土。
 5 黒褐色土。土層根材が焼土化した可能性あり。
 6 黄褐色土。ロームを主体とし、多量の黒色土粒、ブロック含む(貼床)。

- 42号住居貯蔵穴F-F'
- 1 暗褐色土。多量の焼土小ブロック、少量の炭化物含む。
 2 暗褐色土。1層の暗褐色土とローム粒、焼土粒の混土。
 3 暗褐色土。1層に近似。炭化材が多量に入る。
 4 暗褐色土。1層よりも全体に暗く、少量の焼土粒含む。
- 42号住居貯蔵穴E-E'
- 1 暗褐色土。炭化材の破片と焼土粒、多量のローム粒含む。
 2 黄褐色土。1層の暗褐色土とロームの混土。少量の焼土粒含む。

- 42号住居炉
- 1 黒褐色土。多量の炭化物含む。
 2 赤褐色土。多量の焼土粒含む。
 3 赤色土。焼土層。
 4 赤褐色土。2層に類似するが焼土粒より少ない。
 5 褐色土。少量の焼土粒含む。

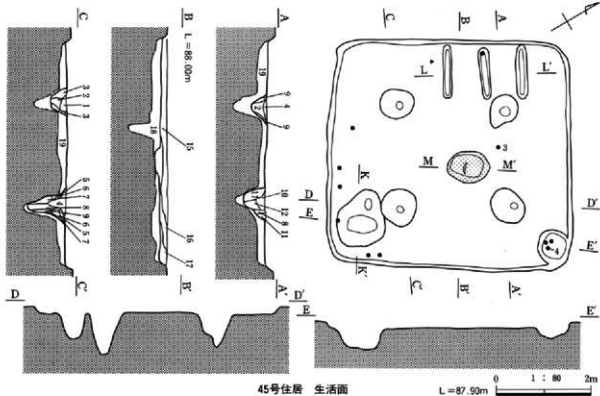


42号住居出土遺物(1)

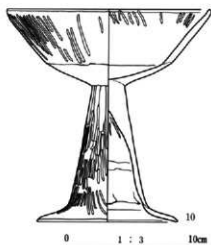


45号住居 (PL. 54・観察表17頁)

形状 長軸5.2m、短軸4.9mの整ったほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体に凹凸が著しく、各壁の壁際が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ15cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。西壁の北側の壁際に壁に直交する幅20cm、深さ5~10cm、長さ1.1mの浅い溝状の掘り込み3条を確認。同様な溝状掘り込みの類例は46

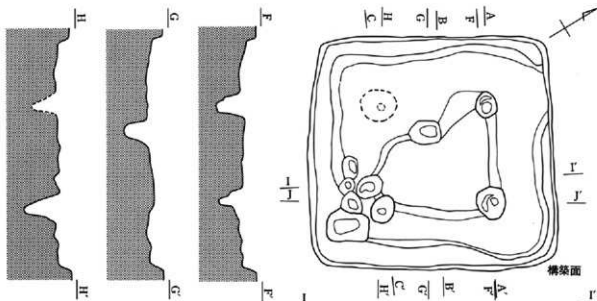


45号住居 生活面



42号住居出土遺物(2)

号住居。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を確認した。直径60~80cm、深さ30~80cmの単純円形掘り方を呈す。炉 住居中央からやや北東側に偏して長軸90cm、短軸65cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸105cm、短軸85cm、深さ40cmの不整形方形を呈す。遺物 土師器の台付壺・壺・埴、土製勾玉が出土。重複 単独で占地。方位 33° 面積 24.38㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



45号住居 A-A'・B-B'・C-C'・K-K'

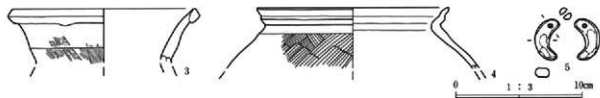
- 1 黒褐色土。
- 2 黒褐色土。ローム粒を僅かに含む。
- 3 黒褐色土。ローム粒が均一に含む。
- 4 黒褐色土。上部にAs-C粒含む。
- 5 茶褐色土。ローム粒含む。
- 6 黒褐色土。ローム粒を均一に含む。
- 7 黄褐色土。細り過ぎ。
- 8 黒褐色土。ローム細粒を均一に含む。
- 9 黄褐色土。
- 10 黒褐色土。酸化による赤褐色土が含まれる。
- 11 黄褐色土。ロームブロック。
- 12 黒褐色土。ロームブロックを均一に含む。
- 13 黒褐色土。ローム細粒を上部に含む。
- 14 茶褐色土。
- 15 黒褐色土。As-C粒を均一に含み、中央部に酸化による赤褐色化。
- 16 黒褐色土。ロームブロック、As-C粒含む。
- 17 黒褐色土。As-C粒を均一に含む。
- 18 暗褐色土。ロームブロックと暗褐色土の混土(粘床)。
- 19 粘床。

45号住居 L-L'

- 1 黒褐色土。
- 2 黒褐色土。ロームブロック含む。

45号住居跡

- 1 黒褐色土。上部に灰、糞土含む。
- 2 焼土。
- 3 灰色土。粘質。
- 4 黄褐色土。

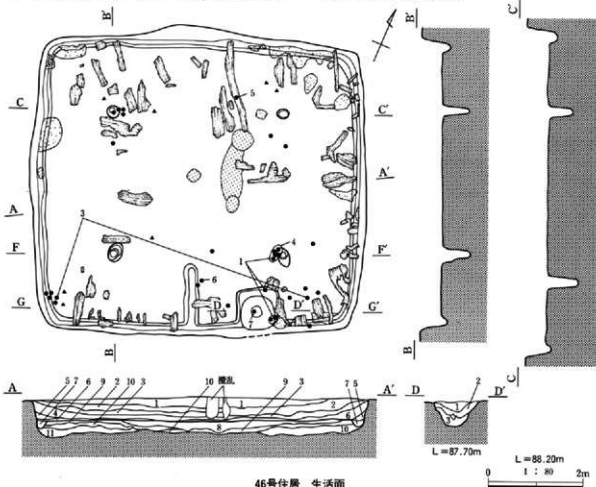


45号住居出土遺物

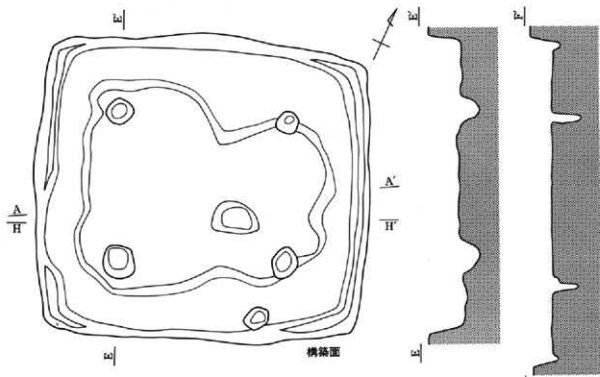
46号住居(PL.55・観察表17頁)

形状 長軸7.2m、短軸6.4mで長軸を東西にもつ整った長方形を呈し、超大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を70cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅80cmほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ20cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。生活面は全体に平坦で良く整っている。南壁をほぼ2等分する位置に、壁に直交する幅30cm、深さ20cm、長さ1.3mの浅い溝状の掘り込み1条を確認。同様な溝状掘り込みの類例は45・130号住居に認められる。 焼失 この住居は焼失住居で、住居の西壁を除く各壁際を中心に壁にほぼ直交する状態で多量の垂木と考えられる炭化材と焼土を検出。これらの出土レベルは、住居中央部のものは床面に密着しているが壁際のもの床面からの位置が僅かに高い。 柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を確認した。直径15~20cm、生活面からの

深さ50~60cmの単純円形掘り方を呈す。貼床が柱穴の際まで及んでいることから、立柱後に貼床を施す。また、住居の中央部で2本の対角線の交点付近に直径20cm、深さ5cmの浅いピットを検出。深さは浅いが住居の中心に位置するため、支柱穴の可能性はある。 炉 住居中央から北東側と南東側に偏した2箇所に円形の焼土範囲を検出し、その間を繋ぐような浅い溝状の掘り込みを確認。 壁溝 幅15cm、深さ15cmで全周。 貯蔵穴 住居の南東隅に設置。一辺90cm、深さ10cmの整った正方形の掘り込みの中に、直径80cm、深さ40cmの円形を呈す掘り込みをもつ2段構造を呈す。 遺物 土師器の甕・台付甕・壺・高坏・器台が出土。円筒埴輪については、これを伴う遺構はこの遺跡内にはない。 重複 単独で占地。9号溝との新旧関係を判定する資料はない。 方位 68° 面積 43.22㎡。 所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。

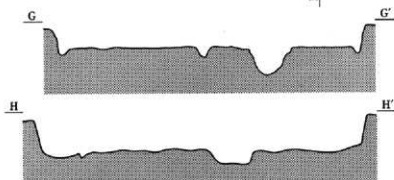


46号住居 生活面



46号住居

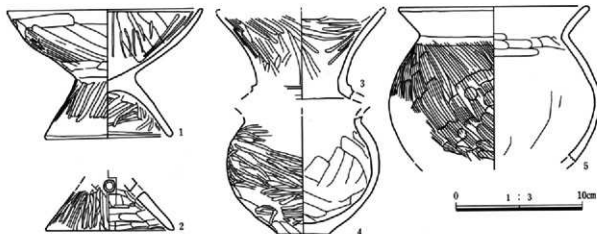
- 1 黒色土。多量のAs-C粒含む。
- 2 明褐色土。
- 3 褐色土。ロームブロック含む。
- 4 黄褐色土。
- 5 雑土。
- 6 黒褐色土。炭化物含む。
- 7 暗褐色土。黒褐色土ブロックとロームブロックの混土。
- 8 暗褐色土。暗褐色土ベースに多量のローム粒、ブロック含む(貼床)。
- 9 黒褐色土。黒褐色土ベースに多量のロームブロック含む(貼床)。
- 10 黄褐色土。ロームベースに少量の黒褐色土ブロック含む(貼床)。
- 11 黒褐色土。9層に近似するがロームブロック含有量が多い(貼床)。



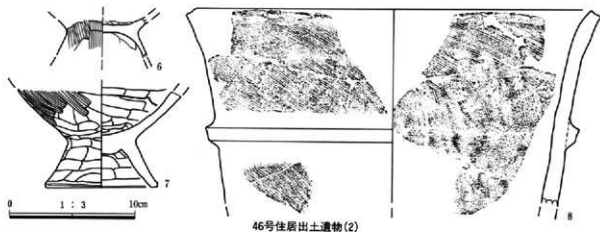
46号貯蔵穴

- 1 黒褐色土。ロームブロック含む。
- 2 褐色土。
- 3 灰褐色土。

L=86.20m
0 1 : 80 2m

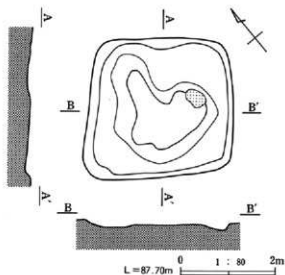


46号住居出土遺物(1)

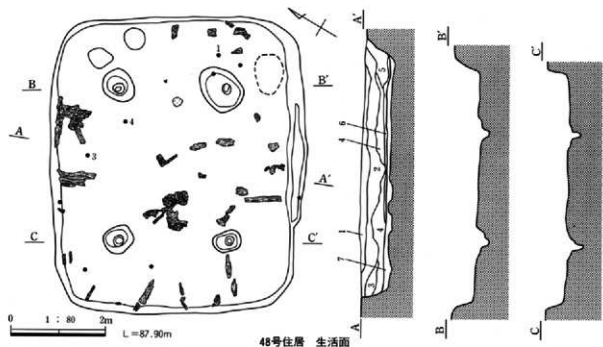


47号住居 (PL. 57)

形状 長軸3.1m、短軸2.9mのやや歪んだ正方形を呈し、超小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を5cm掘り込んで構築面とし、この面に貼床を施して生活面を造るが、掘り込みが浅いため、生活面は削平されて確認できない。構築面は住居の中央部が壁際より高い島状に掘り残される。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から南東側に偏して直径30cmほどの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 確認できない。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 単独で占地。方位 130° 面積 8.57㎡。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



47号住居 構築面

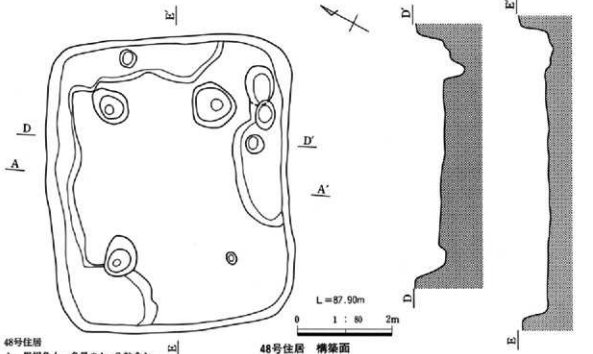


48号住居 生活面

48号住居 (PL.57・観察表17頁)

形状 長軸6.3m、短軸5.5mで長軸を東西にもつ整った長方形を呈し、大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を60cm掘り込んで構築面とする。構築面は西壁を除く各壁の壁際が住居の中央部より深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。焼失 この住居は焼失住居で、住居のほぼ全域に垂木と考えられる炭化材と焼土を検出。これらの出土レベルは、住居中央部のは床面に密着しているが壁際は床面からの位置が僅

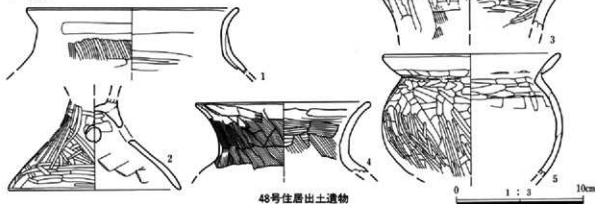
かに高い。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を確認した。直径50~80cm、深さ20~30cmの単純円形掘り方を呈す。炉 住居中央から北東側に偏して直径20cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した長軸90cm、短軸60cm、深さ30cmの不整形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の甕・壺・高坏が出土。重複 単独で占地。方位 60° 面積 31.68㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



48号住居

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 2 暗褐色土。少量のAs-C粒、ローム小ブロック含む。
- 3 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒含む。
- 4 暗褐色土。少量のAs-C粒、ローム小ブロック、多量のローム粒含む。
- 5 暗褐色土。多量のローム小ブロック含む。
- 6 黒褐色土。炭化物、焼土粒、多量の粘土ブロック含む。
- 7 貼床。

48号住居 構築面



48号住居出土遺物

49号住居 (Pl. 58・観察表17頁)

形状 長軸3.6m、短軸3.5mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体にほぼ平坦である。この面に厚さ15cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央からやや北東側に偏して長軸1.1m、短軸50cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の壺・甕・鉢が出土。重複 単独で占地。方位 165° 面積 11.94㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。

49号住居A-A'

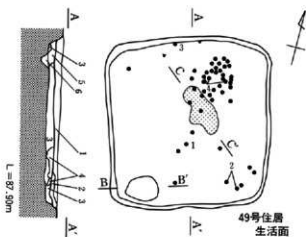
- 1 黒褐色土。酸化による赤褐色土、軽石の小粒を均一に含む。
- 2 灰色土。下部にローム、中央部に酸化による赤褐色土含む。
- 3 黄褐色土。中央部に酸化による赤褐色土を少量含む(貼床)。
- 4 黄褐色土。黒褐色土の混土(貼床)。
- 5 黒褐色土。少量の黄褐色土含む(貼床)。
- 6 貼床。

49号住居B-B'

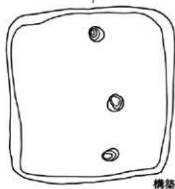
- 1 茶褐色土。ローム粒を均一に含む。

49号住居C

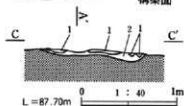
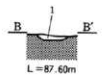
- 1 焼土。
- 2 黄褐色土。一部酸化によると思われる赤褐色土含む。



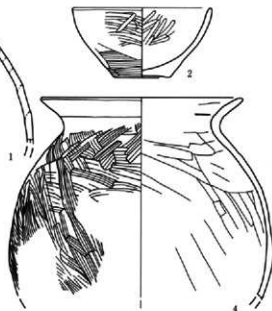
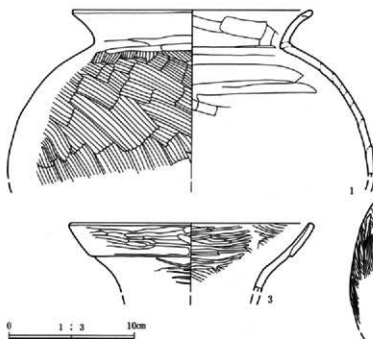
49号住居
生活面



構築面



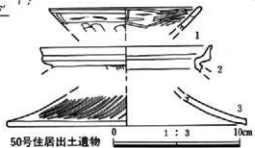
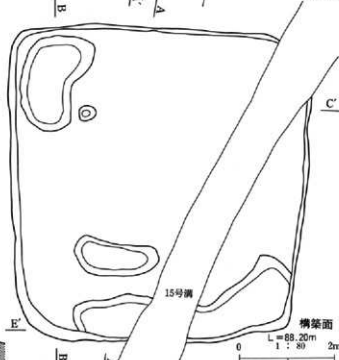
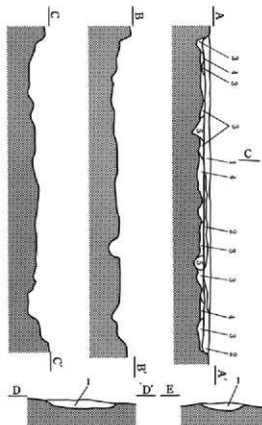
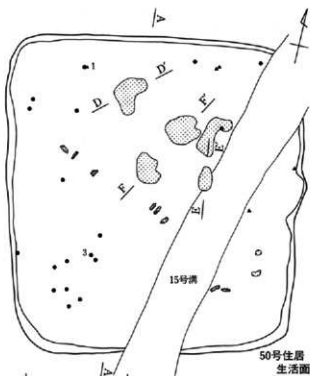
L = 87.70m



49号住居出土遺物

50号住居 (PL. 59・観察表18頁)

形状 長軸6.7m、短軸6.2mのほぼ正方形を呈し、超大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を25cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の北西隅と南壁沿いが住居の中央部より深く掘り込まれる他は平坦である。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。 炉 住居中央から北側に偏した5箇所に焼土を検出。 壁溝 無し。 貯蔵穴 無し。 遺物 土師器の台付甕・壺・高坏が出土。重複 単独で占地。住居東側を南北に走行する溝は後世のもの。 方位 170° 面積 39.85㎡。 所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



50号住居

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒を均一に含む。
- 2 褐色土。1に比べると茶色が強い。
- 3 黄褐色土。暗褐色土ブロックとロームの混土(貼床)。
- 4 黄褐色土。暗褐色土ブロックはごく僅かで、ローム主体の層(貼床)。
- 5 暗褐色土。少量のローム小ブロック含む(貼床)。

50号住居炉

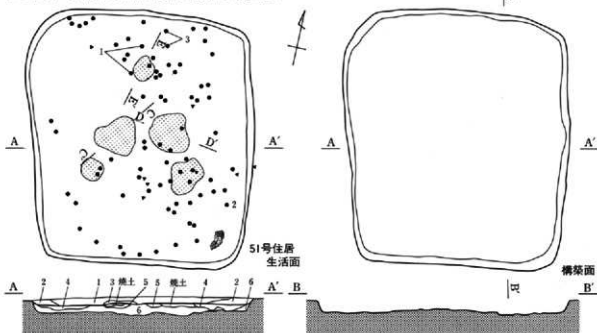
- 1 焼土。
- 2 焼土。

50号住居出土遺物

51号住居 (PL. 60・観察表18頁)

形状 長軸5.4m、短軸4.7mで長軸を南北にもつや
や不整形な長方形を呈し、大形長方形に分類。床
面 基盤面のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。
構築面は壁際が深く掘り込まれることなく、全
体にほぼ平坦である。この面に厚さ20cmの貼床を施
して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に支柱穴は
なく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居の中央
部と中央から北側の3箇所に焼土を検出した。住居の

南西部と南東部の焼土は炉とは判断できない。住居
南東部の床面直上から炭化材が出土することから、
上屋の焼失に伴う焼土の可能性がある。壁溝 無
し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の瓿・高杯が
出土。重複 単独で占地。住居の南側で重複する
土坑は縄文時代前期のもの。方位 167° 面積
23.97㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と
考えられる。

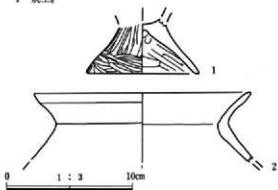


51号住居

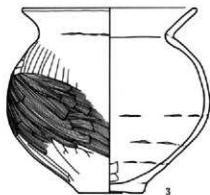
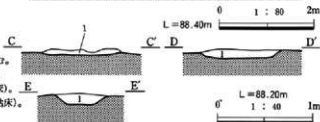
- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒を均一に含む。
- 2 茶褐色土。微量のAs-C粒含む。
- 3 黒色土。下部に薄い焼土層、極微量のAs-C粒、黒色土含む。
- 4 暗褐色土。微量のAs-C粒、多量のローム大粒含む(貼床)。
- 5 黄褐色土。ローム主体で少量の暗褐色土ブロック含む(貼床)。
- 6 黄褐色土。ハードロームとソフトロームブロックの混土(貼床)。

51号住居炉

- 1 焼土。



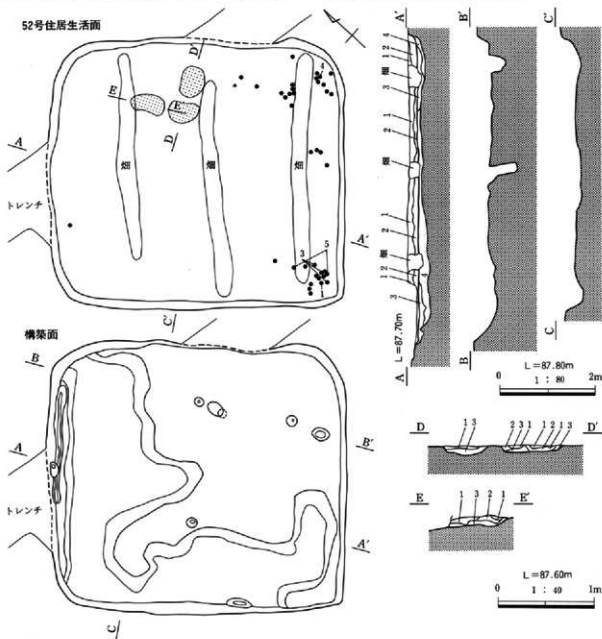
51号住居出土遺物



52号住居 (PL. 61・観察表18頁)

形状 長軸6.4m、短軸5.8mで長軸を南北にもつ整った長方形を呈し、大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を35cm掘り込んで構築面とする。構築面は北壁と西壁の壁際幅1.5mほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して3箇所に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・

壺・器台が出土。重複 住居との重複はないが、畑のサク3条と重複。サクがこの住居の覆土を切って作る土層断面の所見を得た。方位 139° 面積 34.44㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。重複する畑のサクはこの住居より新しいものだが、覆土の状況から近接した時期の所産と考えられ、サクの走行も住居の軸線の傾きに近似している。畑同士にも重複はあるがその存続の時間幅は、覆土の状況からおそらく古墳時代前期に収まるものと考えられる。類別は54号住居。



52号住居

52号住居

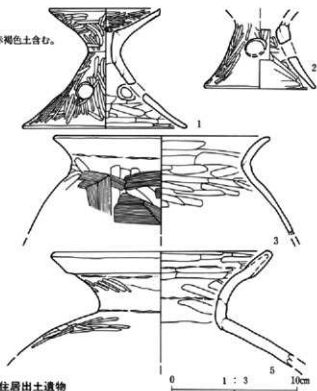
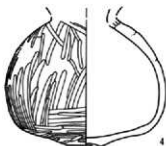
- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒、部分的に酸化赤褐色土を含む。
- 2 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒、部分的に酸化赤褐色土を含む。
- 3 暗褐色土。ロームブロック含む(貼床)。
- 4 黄褐色土。ロームブロック含む(貼床)。

52号住居炉 E-E'

- 1 赤褐色土。焼土層。少量の黒色土粒を含む。
- 2 暗褐色土。焼土層。多量のローム粒を含む。
- 3 褐色土。ローム主体。多量の焼土粒を含む。

52号住居炉 F-F'

- 1 赤褐色土。焼土層。
- 2 赤褐色土。焼土層。ローム粒多く含む。
- 3 褐色土。ローム主体。焼土粒少量含む。

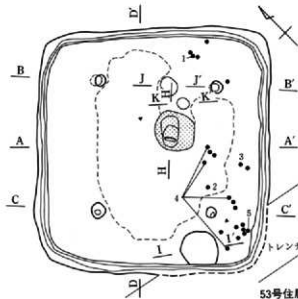


52号住居出土遺物

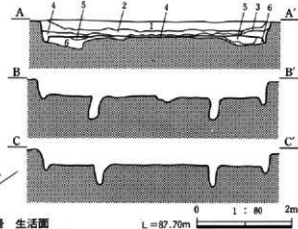
53号住居(PL.62・観察表18頁)

形状 長軸5.2m、短軸5.0mの整ったほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を35cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅1.0mほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ5cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。生活面は全体に平坦で整っており、炉の北東側を除くほぼ4個の柱穴を結ぶ線の内側は

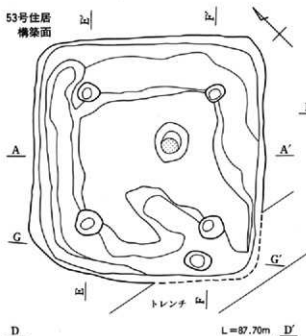
踏み固められて硬い。柱穴 住居の対角線上に4個を確認した。貼床が柱穴の際まで及んでいることから、立柱後に貼床を施す。炉 住居中央からやや北東側に偏して直径90cmの円形の浅い掘り込みがあり、この中央部に一部が焼土化した粘土を確認。南縁から棒状の川原石が出土。壁溝 幅10cm、深さ10cmで全周。貯蔵穴 住居の南西隅に設置。長軸80cm、短軸70cm、深さ40cmのほぼ円形を呈す。遺物 土師器の甕・台付甕・壺・坏が出土。重複単独で占地。方位 46° 面積 24.60㎡。所見出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



53号住居 生活面

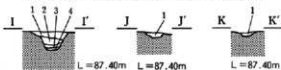
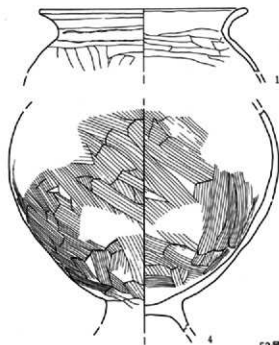


53号住居
構架面



53号住居跡

- 1 灰色粘土。上位は焼土化している。
- 2 焼土。均質な焼土であることから、盛土された焼土の可能性もある。



53号住居

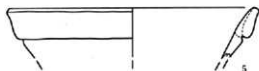
- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のロームブロック含む。
- 2 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のロームブロック含む。
- 3 暗褐色土。少量のAs-C粒、非常に多量のローム粒含む。
- 4 黒褐色土。少量のロームブロック含む。
- 5 黒褐色土。少量のロームブロック含む(粘床)。
- 6 褐色土。ローム主体で、多量の黒色土ブロック含む(粘床)。

53号住居貯蔵穴

- 1 褐色土。ロームブロック含む。
- 2 灰黄褐色土。
- 3 黄褐色土。ロームブロック含む。
- 4 灰黄褐色土。

53号住居ピット

- 1 黒褐色土。

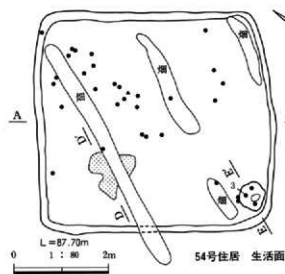


53号住居出土遺物

54号住居(PL.64・観察表19頁)

形状 長軸5.1m、短軸4.7mの整ったほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅80cmほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北西側に偏して直径1.0mほどの範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南西隅に設置。直径55cm、

深さ30cmの円形を呈す。遺物 土師器の台付壺・壺が出土。重複 住居との重複はないが、畑のサク3条と重複。サクがこの住居の覆土を切って作る土層断面の所見を得た。方位 150° 面積 22.79㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。重複する畑のサクはこの住居より新しいものだが、覆土の状況から近接した時期の所産と考えられ、サクの走行も住居群の傾きに近い。類例は52号住居。



54号住居 生活面

54号住居

- 1 暗褐色土。多量のAs・C粒、少量のローム粒含む。
- 2 暗褐色土。鉄分の酸化による赤褐色土含む(貼床)。
- 3 黒褐色土。多量のロームブロック含む(貼床)。
- 4 黄褐色土。多量のローム粒含む(貼床)。
- 5 貼床。

54号住居炉

- 1 焼土。
- 2 黄褐色土。焼土粒含む。
- 3 黄褐色土。

54号住居貯蔵穴

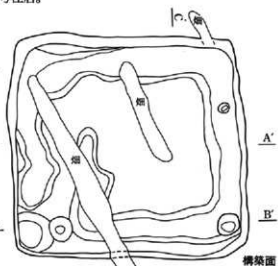
- 1 暗褐色土。少量のローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土。多量のロームブロック含む。



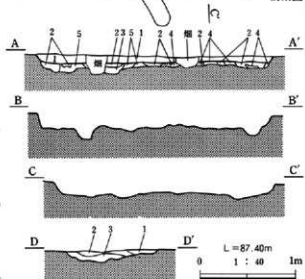
L=87.40m



1



構築面

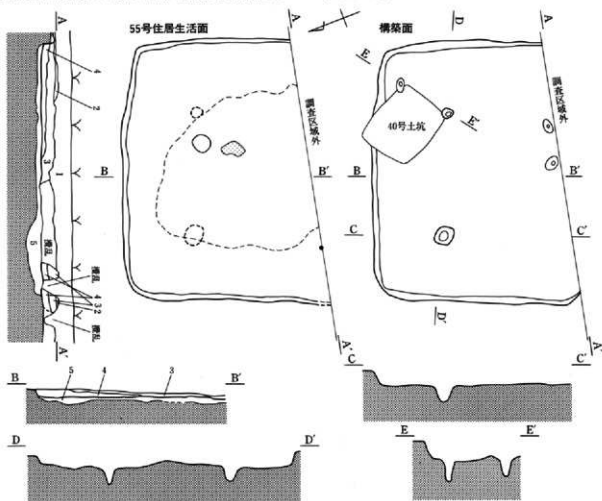


54号住居出土遺物

55号住居(PL.65・観察表19頁)

形状 住居の南側が調査区域外のため、全形は確認できない。東西軸5.5mを測る。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は確認した壁の壁際が住居の中央部よりやや深いが、全体的にはほぼ平坦である。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。確認した生活面は平坦で良く整っており、壁際の幅1mの範囲を除く炬を含んだ住居の中央部は踏み固められて硬い。柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面で確認した

2個のピットを柱穴と判断。構築面で直径20~40cm、深さ30~40cmの単純円形掘り方を呈す。残る2個は調査区域外。炉 住居中央からやや東側に偏して長軸50cm、短軸30cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 不明。遺物 土師器の壺・小形壺が出土。重複 単独で占地。住居の北東部で重複する土坑はその上位に貼床が認められるため、住居構築以前のものと判定。方位 22° 面積 測定不可能。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

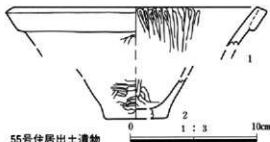


55号住居

- 1 黄土。
- 2 暗褐色土。多量のAs-C粒、微量のHr-F A軽石?含む。
- 3 黒褐色土。少量のAs-C粒、ローム粒含む。
- 4 黒褐色土。微量のAs-C粒、多量のローム小ブロック含む。
- 5 黄褐色土。黒褐色土とロームの凝土(貼床)。

0 1 : 80 2m
L=87.30m

55号住居

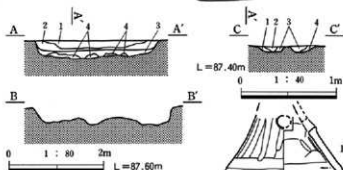
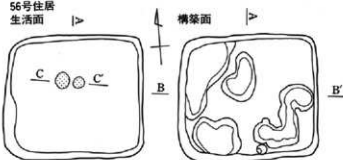


55号住居出土遺物

56号住居(PL.66・観察表19頁)

形状 長軸3.0m、短軸2.6mで長軸を東西にもつ整った長方形を呈し、超小形長方形に分類。床面 基盤のローム層を35cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部から北東隅にかけて部分が、島状に高く掘り残される。この面に厚さ15cmの貼床を施して生活面を造る。生活面は全体に平坦で整っている。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北側に偏した2箇所焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の台付甕・器台が出土。重複 単独で占地。方位 95° 面積 7.39㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。

56号住居
生活面



56号住居

- 1 茶褐色土。直径2cm程度のローム粒含む。
- 2 黒褐色土。左右に軽石の細粒含む。
- 3 黒褐色土。黒褐色土主体で、微量のAs-C粒、多量のロームブロック含む(貼床)。
- 4 黄褐色土。ローム(掘り過ぎ?)。

56号住居炉

- 1 黄褐色土。ロームブロック主体。
- 2 黒褐色土。焼土含む。
- 3 黒褐色土。ローム細粒含む。
- 4 暗褐色土。3より柔らかい。

56号住居出土遺物

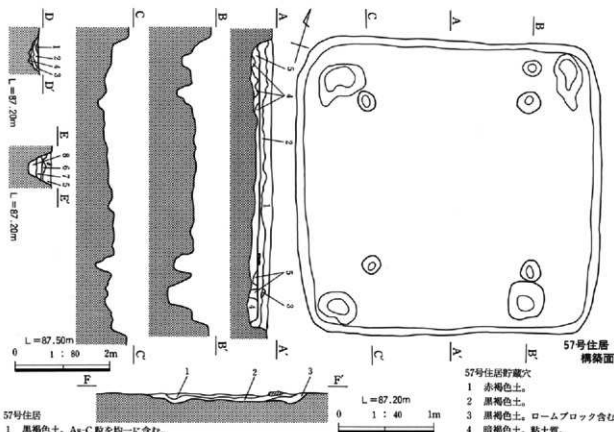
1 1 : 3 10cm

57号住居(PL.67・観察表19頁)

形状 長軸6.5m、短軸6.2mの整ったほぼ正方形を呈し、超大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を40cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体に凹凸が著しく、各壁際の幅1.0mほどの範囲が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。焼失 この住居は焼失住居で、住居の東半部に垂木と考えられる炭化材と焼土を検出。これらの出土レベルは、住居中央部のは床面に密着しているが壁際では床面からの位置が僅かに高い。柱穴 住居の対角線上に4個を確認した。直径30~50cm、深さ40~50cmの単純円形掘り方を呈す。炉 住居中央から北東側に偏して長軸1.5m、短軸1.2m、深さ10cmほどの不整形な浅い掘り込みの範囲に焼土を検出。壁溝 幅10cm、深さ10cmで全周。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。一辺75cm、深さ50cmのほぼ正方形を呈す。遺物 土師器の甕・小形甕・台付甕・壺・小形壺・鉢・高坏・器台・埴、砥石が出土。重複 単独で占

地。方位 72° 面積 38.77㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。覆土中に多量の土師器細片が出土するが、これらのほとんどは住居の埋没過程で、炭化材よりも上位からの出土。



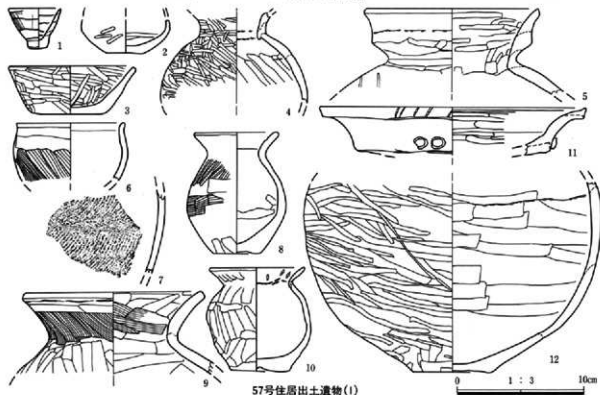


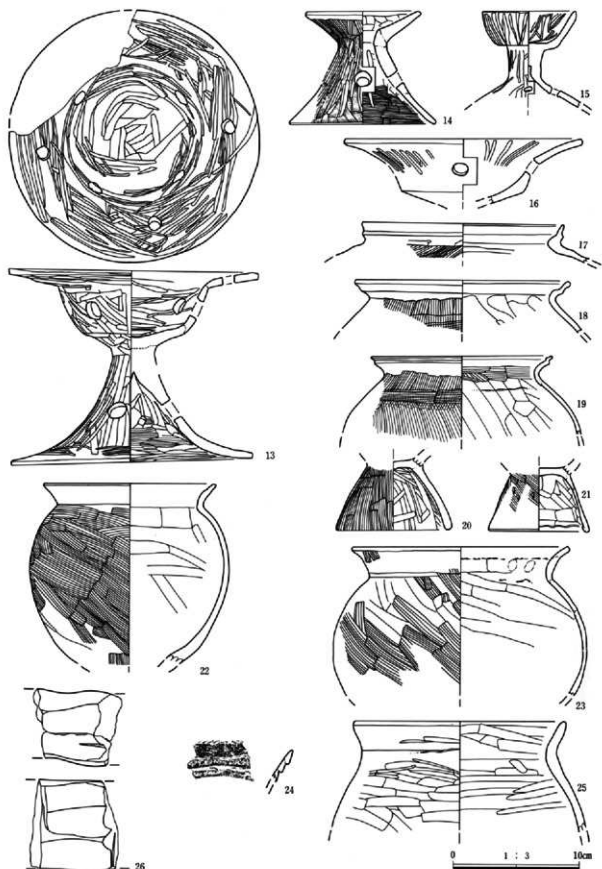
57号住居

- 1 黒褐色土。As-C粒を均一に含む。
2 黒褐色土。下部にロームブロック、少量のAs-C粒含む。
3 黄褐色土。1、2より固い。
4 黄褐色土。多量のロームブロック含む(粘床)。
5 黒褐色土。少量のローム細粒含む(粘床)。

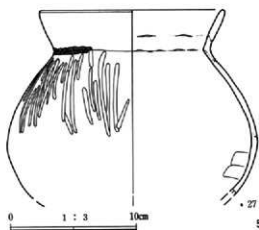
57号住居貯

- 1 黒褐色土。上部に炭含む。
2 暗褐色土。多量のロームブロック含む。
3 黄褐色土。粘土質。

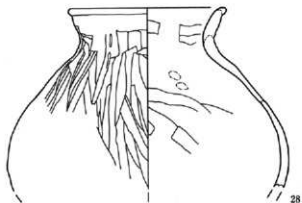




57号住居出土遺物(2)



57号住居出土遺物(3)

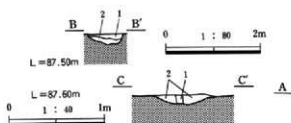


28

58号住居 (PL.70・観察表20頁)

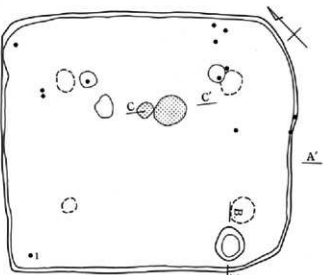
形状 長軸6.2m、短軸5.5mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は西壁際の幅1.5mほどの範囲が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる他は、全体的にほぼ平坦である。この面に厚さ10cmの貼床を施して、平坦で整った生活面を造る。柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の対角線上に確認した4個のピットを柱穴と判断。構築面で直径30~50cm、深さ20~50

cmの単純円形掘り方を呈す。炉 住居中央から東側に偏した2箇所に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸70cm、短軸50cm、深さ20cmの不整形円形を呈す。遺物 土師器の台付壺が出土。重複 単独で占地。方位 133° 面積 32.61㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



L=87.50m

L=87.60m



58号住居 生活面

58号住居

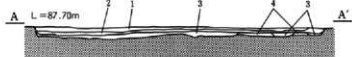
- 1 黒色土。少量のAs-C粒を均一に含む。
- 2 茶褐色土。1よりも少量のAs-C粒を均一に、ローム大ブロックが散在。
- 3 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土ブロック含む(貼床)。
- 4 暗褐色土。黒色土ブロック、黒色土粒、ロームブロックの混土(貼床)。

58号住居炉

- 1 褐色土。ロームと黒色土の混土。
- 2 焼土。

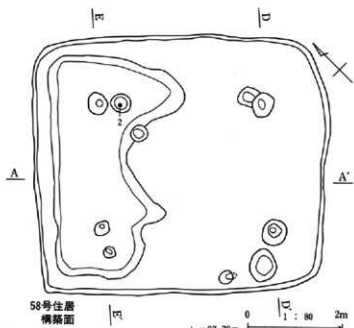
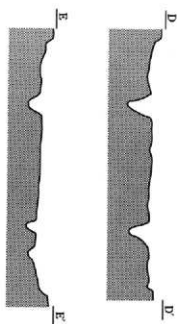
58号住居貯蔵穴

- 1 黒色土。赤黒色の鉄錆の大粒、少量のAs-C粒含む。
- 2 茶褐色土。灰色土のブロック、少量のAs-C粒含む。



58号住居出土遺物

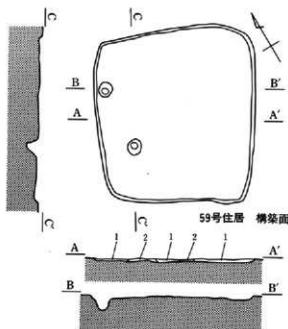




58号住居
構築面

59号住居 (PL.71・観察表20頁)

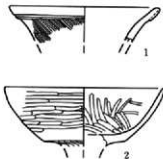
形状 長軸3.7m、短軸3.4mのやや不整形な正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体にほぼ平坦である。この面に厚さ10cmの粘床を施して生活面とするが、生活面は掘り込みが浅いため削平されて平面的には確認できず、土層断面の最上面がほぼ生活面と考えられる。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。伊 生活面が削平されて平面的に確認できないため、確認できない。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・壺・高坏が出土。重複 単独で占地。方位 29°面積 11.72㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



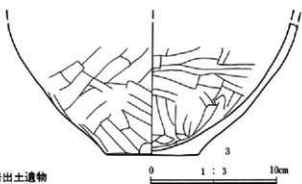
59号住居 構築面

59号住居

- 1 暗褐色土。少量のAs-C粒、微量のロームブロック含む。
- 2 黄褐色土。少量の暗褐色土ブロック含む。



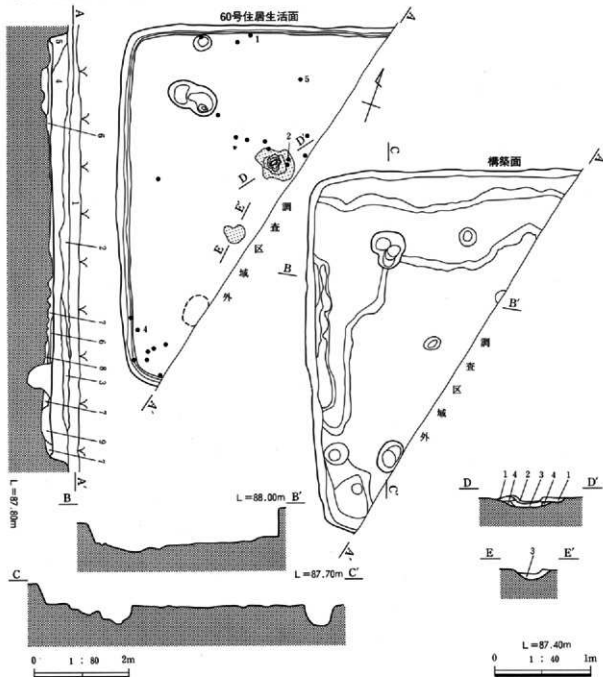
59号住居出土遺物



60号住居(PL.72・観察表20頁)

形状 住居の東側が調査区域外のため、全形を確認できない。南北軸7.6mを測る。床面 基盤のローム層を40cm掘り込んで構築面とする。構築面は確認した各壁際の幅1.0mほどの範囲が、住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 2個を確認した。残る2個は調査区域外。 炉 住居中央から北側

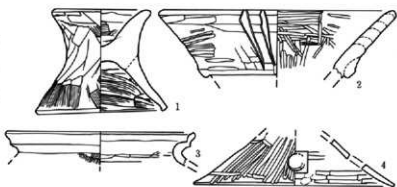
に偏して設置。直径70cm、深さ10cmの円形をした浅い掘り込みに粘土を貼り、この中央部に環状に強く焼けた痕跡を残す。中心部から川原石が出土。壁溝 幅10cm、深さ10cmで確認した壁下に全周。貯蔵穴 不明。遺物 土師器の甕・台付甕・壺・高坏・器台が出土。重複 単独で占地。方位 162°面積 測定不可能。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



60号住居

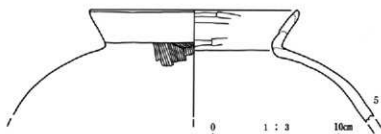
60号住居

- 1 表土。
- 2 黒褐色土。多量のAs-C粒を均一に、少量のロームブロック含む。
- 3 暗褐色土。As-C粒を均一に、多量のローム粒含む。
- 4 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のロームブロックと粒子含む。
- 5 暗褐色土。3層に近似するがロームブロックを含まない。
- 6 黄褐色土。ローム小ブロックと黒褐色土ブロックの混土(貼床)。
- 7 黒褐色土。ローム小ブロックと黒褐色土ブロックの混土(貼床)。
- 8 黄褐色土。ローム小ブロックと黒褐色土ブロックの混土(貼床)。
- 9 暗褐色土。少量のローム大粒、多量のローム小粒含む(貼床)。



60号住居炉

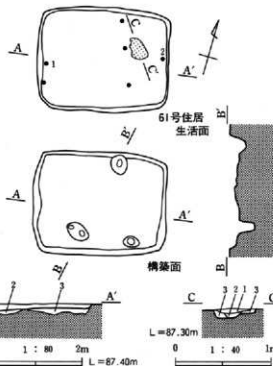
- 1 粘土。
- 2 黒色土。黒色土と焼土の混土。
- 3 焼土。
- 4 茶褐色土。ローム。



60号住居出土遺物

61号住居 (PL.71・観察表21頁)

形状 長軸2.8m、短軸2.2mで長軸を東西にもつ整った長方形を呈し、超小形長方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体に小さな凹凸が多いがほぼ平坦である。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して長軸50cm、短軸30cmの範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕?・鉢が出土。重複 単独で占地。方位 75° 面積 5.80㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

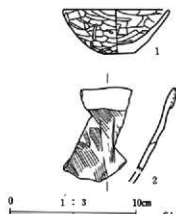


61号住居

- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒を均一に、微量のロームブロック含む。
- 2 暗褐色土。少量のAs-C粒。ロームブロックを1層よりも多く含む(貼床)。
- 3 暗褐色土。ロームブロックと黒褐色土ブロックの混土(貼床)。

61号住居炉

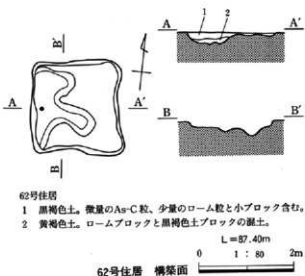
- 1 赤褐色土。多量の焼土粒含む。
- 2 黒褐色土。少量の焼土粒含む。
- 3 暗褐色土。多量のロームブロック含む。



61号住居出土遺物

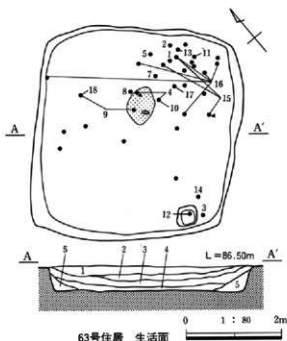
62号住居 (PL.71)

形状 一辺1.9mのほぼ正方形を呈し、超小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の西半部が東半部より深く掘り込まれる。この面に厚さ15cmの粘床を施して生活面とするが、生活面は掘り込みが浅いため削平されて確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 生活面が確認できないため、確認できない。壁溝 確認できない。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 単独で占地。方位 86° 面積 3.61㎡。所見 粘床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



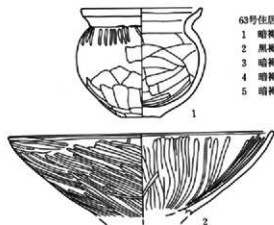
63号住居 (PL.73・観察表21頁)

形状 長軸4.5m、短軸4.3mの整ったほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を50cm掘り込んで生活面とする。生活面は全体に平坦で整っている。構築面については湧水のため未調査。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して長軸90cm、短軸50cmの範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南西隅に設置。一辺40cm、深さ15cmのほぼ正方形を呈す。遺物 土師器の甕・台付甕・壺・埴・高坏が出土。重複 単独で占地。方位 46° 面積 18.01㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。

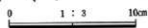


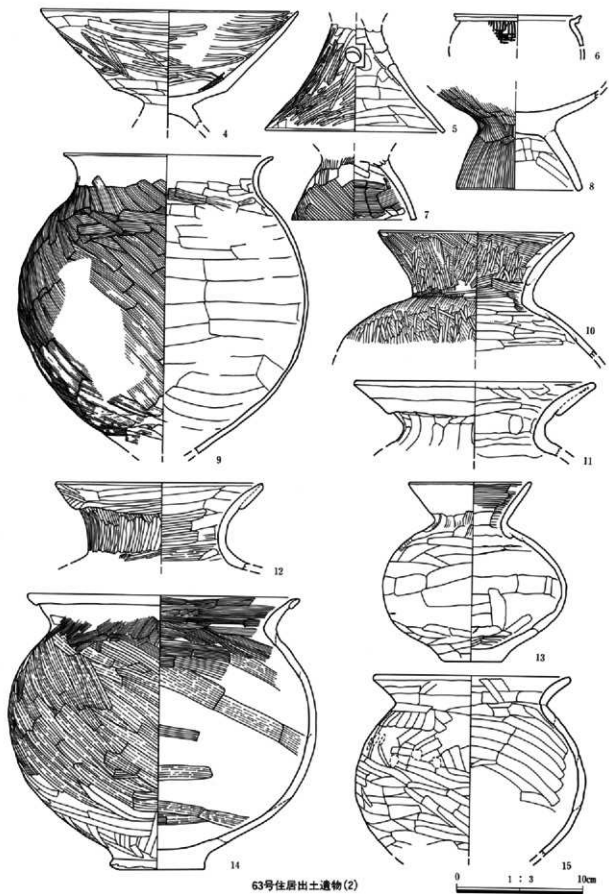
63号住居

- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム大粒含む。
- 2 黒褐色土。As-C粒は1層より少量で、多量のローム粒と黒褐色土ブロック含む。
- 3 暗褐色土。微量のAs-C粒、ローム粒を均一に含む。
- 4 暗褐色土。ローム粒の量が3層よりも多く、炭化物と焼土粒を部分的に含む。
- 5 暗褐色土。ローム粒、ブロック、黒褐色土の混土。

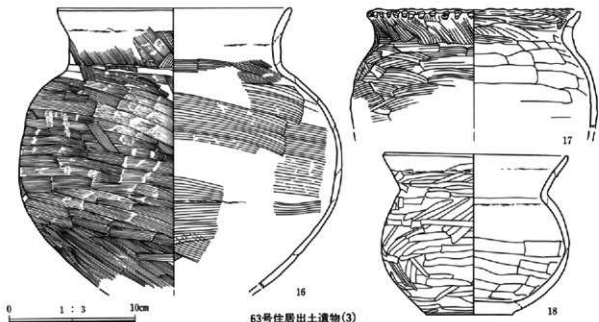


63号住居出土遺物(1)





63号住居出土遺物(2)

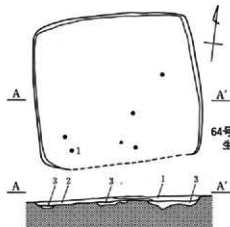


63号住居出土遺物(3)

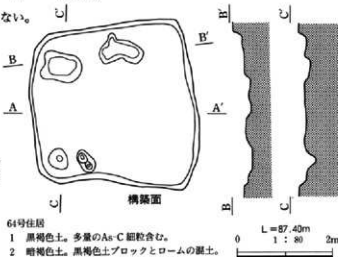
64号住居 (PL. 75・観察表22頁)

形状 長軸3.5m、短軸3.2mの整ったほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁の壁際が住居の中央部より深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。

炉 確認できない。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の小形甕・台付甕・壺が出土。重複他の遺構との重複はないが9号掘立柱建物と近接し、同時存在はあり得ない。方位 79° 面積 10.58㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。

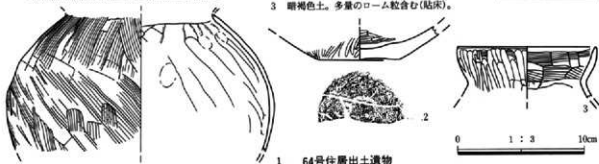


64号住居
生活面



64号住居

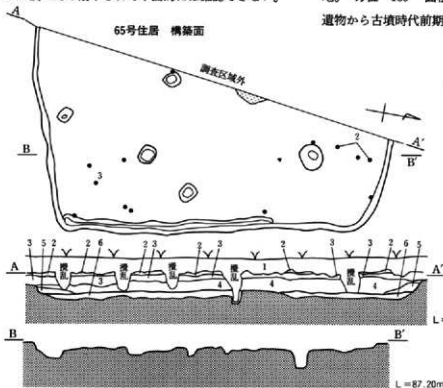
- 1 黒褐色土。多量のAs-C細粒含む。
- 2 暗褐色土。黒褐色土ブロックとロームの混土。
- 3 暗褐色土。多量のローム粒含む(貼床)。



1 64号住居出土遺物

65号住居 (PL.75・観察表22頁)

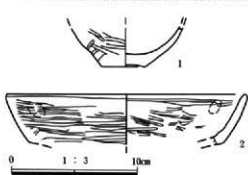
形状 住居の西側が調査区域外のため、全形は確認できない。南北軸7.4mを測る。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んで構築面とし、この面に厚さ15cmの貼床を施して生活面とするが、生活面は掘り込みが浅いため削平されて平面的には確認できない。



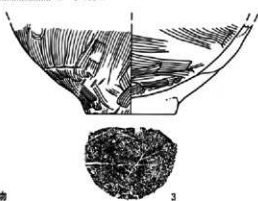
65号住居

- 1 表土。
- 2 灰褐色土。多量のAs-B含む。純層に近い。
- 3 暗褐色土。多量のAs-C粒、微量のHr-FA粒を含む。
- 4 黒褐色土。As-C粒は2層よりも僅かに少ない。
- 5 黒褐色土。As-C粒はさらに少なく、少量のローム粒を含む。
- 6 暗褐色土。暗褐色土ブロック、ロームブロックの張土(貼床)。

0 1 : 80 2m
L=87.50m



65号住居出土遺物

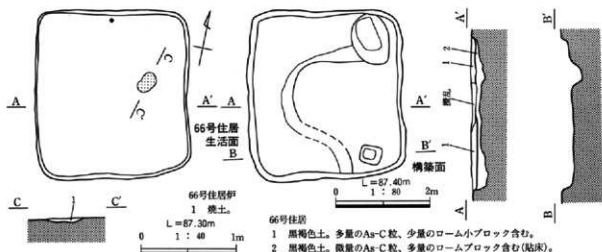


66号住居 (PL.75)

形状 長軸3.6m、短軸3.3mの整ったほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の西側が東側より深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住

柱穴 2個を確認した。残る2個は調査区域外。炉 住居中央から北側に偏して焼土を検出するが、全形は確認できない。壁溝 生活面が確認できないため、明確には確認できない。貯蔵穴 不明。遺物 土師器の甕・壺・鉢が出土。重複 単独で占地。方位 169° 面積 測定不可能。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

居中央から北東側に偏して長軸50cm、短軸30cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 10号掘立柱建物と重複。66住が10号掘立柱を切って構築する土層断面の所見を得た。方位 165° 面積 11.21㎡。所見 覆土内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。

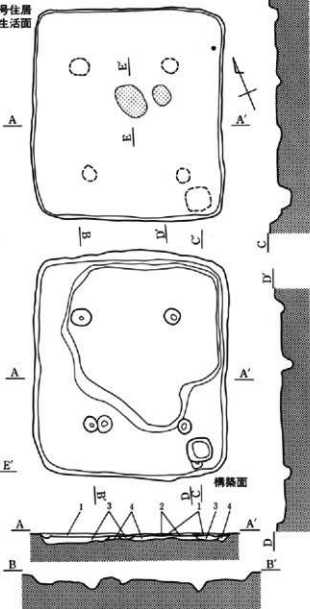


66号住居

67号住居 (PL.76・観察表22頁)

形状 長軸4.8m、短軸4.1mで長軸を南北にもつ整った長方形を呈し、中形長方形に分類。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んで構築面とする。構築面は西壁と南壁の壁隙が、住居の中央部より深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の対角線上に確認した4個のピットを柱穴と判断。 炉 住居のほぼ中央に長軸80cm、短軸60cmの範囲に焼土を検出。 壁溝 無し。 貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した一辺50cm、深さ40cmのほぼ正方形のピットを貯蔵穴と判断。 遺物 土師器の高杯が出土。重複 単独で占地。方位 23° 面積 17.67㎡。 所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

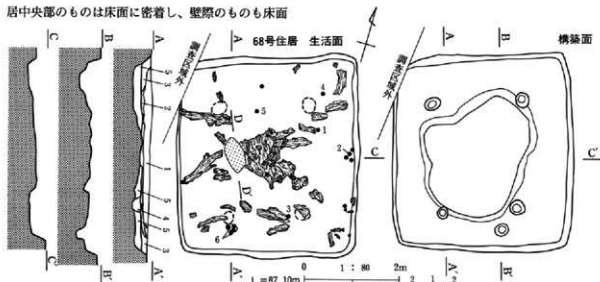
67号住居 生活面



68号住居(PL.76・観察表22頁)

形状 長軸4.2m、短軸3.9mの整ったほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が島状に高く掘り残される。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。焼失 この住居は焼失住居で、住居の東半部に垂木と考えられる炭化材と焼土を検出。これらの出土レベルは、住居中央部のものは床面に密着し、壁際のものも床面

に近い。柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の対角線上に確認した4個のピットを柱穴と判断。炉 住居中央から西側に偏して長軸80cm、短軸40cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の壺・高坏・甕が出土。重複 単独で占地。方位 162°面積 15.91㎡(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。

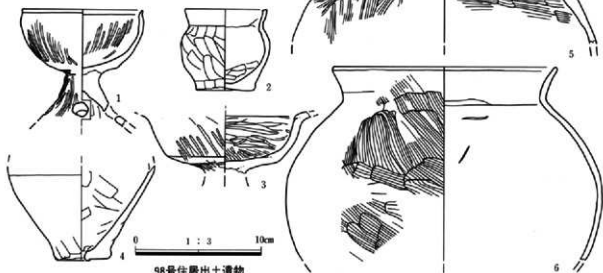


68号住居

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム粒含む。
- 2 暗褐色土。多量の焼土と炭化物含む。
- 3 黒褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒含む。
- 4 黄褐色土。黒褐色土ブロックとロームブロックの混土(柱穴覆土)。
- 5 暗褐色土。多量のローム小ブロックと粒子含む(貼床)。

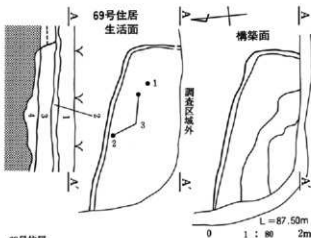
68号住居跡

- 1 赤褐色土。焼土。
- 2 暗褐色土。焼土粒、少量のローム粒含む。



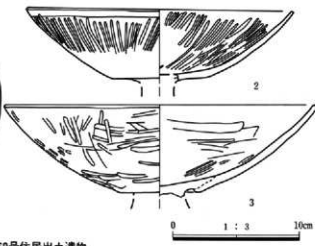
69号住居 (PL.77・観察表22頁)

形状 住居の大半が調査区域外のため北壁の東側を確認したのみで、形状、規模は不明。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。確認した範囲の生活面は平坦で整っている。柱穴 不明。炉 不明。壁溝 無し。貯蔵穴 不明。遺物 土師器の壺・高環が出土。重複 単独で占地。方位 測定不可能。面積 測定不可能。所見出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



69号住居

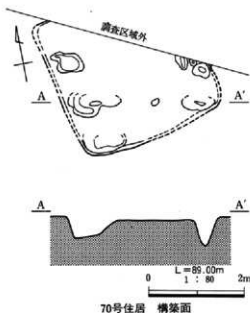
- 1 表土。
- 2 黒褐色土。多量のAs-C粒、微量のHr-FAまたはHr-FP軽石含む。
- 3 黒褐色土。多量のAs-C粒とローム粒を均一に含む。
- 4 暗褐色土。ロームと黒色土との混土(貼床)。



69号住居出土遺物

70号住居 (PL.78)

形状 住居の北東部が調査区域外のため全形は確認できないが、一辺長軸3.2mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 全体にトレンチャーによる耕作攪乱を受けて確認した部分は少ないが、基盤のローム層を5cm掘り込んで構築面とする。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 生活面が確認できないため、確認できない。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 単独で占地。方位 54° 面積 9.75 m²(推定)。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。

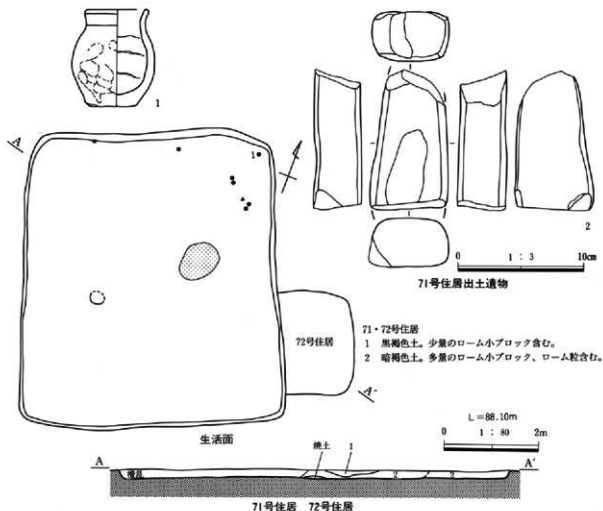


70号住居 構築面

71号住居 (PL.78・観察表23頁)

形状 長軸6.3m、短軸5.4mで長軸を南北にもつ長方形を呈し、大形長方形に分類。床面全体にトレンチャーによる耕作攪乱を受けて確認した部分は少ないが、基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて部分的にしか確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、

壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して長軸90cm、短軸70cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の小形壺、砥石が出土。重複 72号住居と重複。攪乱のため平面精査、土層断面による判定ができず、新旧関係を判定する資料を欠く。方位 156° 面積 33.46㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



71号住居出土遺物

71・72号住居

- 1 黒褐色土。少量のローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム小ブロック、ローム粒含む。

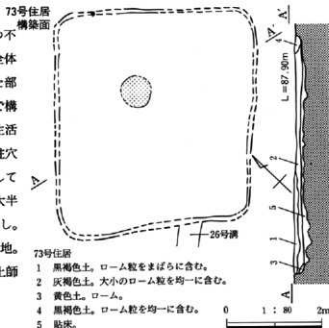
72号住居 (PL.78)

形状 住居の西半部が重複のため確認できず、全形は確認できない。計測し得た南北軸の2.2mは、この遺跡では最も小さい部類に属す。床面全体にトレンチャーによる耕作攪乱を受けて、床面は確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も

確認できない。炉 不明。壁溝 不明。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 71号住居と重複。攪乱のため平面精査、土層断面のいずれも判定ができず、新旧関係を判定する資料を欠く。方位 154° 面積 測定不可能。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。

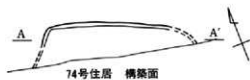
73号住居 (PL.78)

形状 長軸4.6m、短軸4.2mで長軸を東西にもつ不
整長方形を呈し、中形長方形に分類。床面 全体
にトレンチャーによる耕作擾乱を受けて確認した部
分は少ないが、基盤のローム層を15cm掘り込んで構
築面とする。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活
面とする。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴
も確認できない。炉 住居中央から北側に偏して
直径70cmの範囲に焼土を検出したが、中央部の大半
は攪乱されている。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。
遺物 実測可能な遺物はない。重複 単独で占地。
方位 46° 面積 19.32㎡。所見 覆土内の土師
器片から古墳時代前期と考えられる。



74号住居 (PL.78)

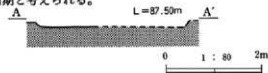
形状 掘り込みが浅いため、住居北壁を確認したの
みで、形状、規模は不明。床面 トレンチャーに
よる耕作擾乱を受けて確認した部分は少ないが、基
盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。この
面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込み



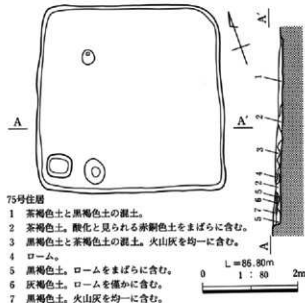
75号住居 (PL.79)

形状 一辺4.0mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に
分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構
築面とする。この面に貼床を施して生活面を造るが、
全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認
できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴
も確認できない。炉 生活面が削平されて確認で
きないため、確認できない。壁溝 不明。貯蔵
穴 住居の南西隅に設置。一辺50cm、深さ30cmの正
方形を呈す。遺物 実測可能な遺物はない。重複
単独で占地。方位 108° 面積 15.15㎡。所見
貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。

が浅いため生活面は削平されて部分的にしか確認で
きない。柱穴 不明。炉 不明。壁溝 無し。
貯蔵穴 不明。遺物 実測可能な遺物はない。重
複 単独で占地。方位 測定不可能。面積 測
定不可能。所見 貼床内の土師器片から古墳時代
前期と考えられる。

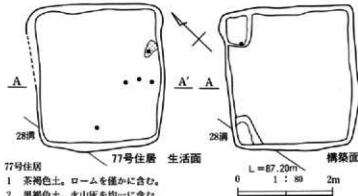


75号住居 構築面



77号住居(PL.81・観察表23頁)

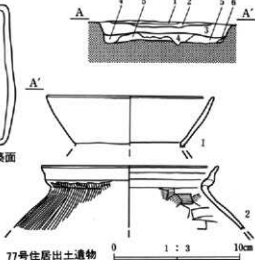
形状 長軸3.1m、短軸2.8mで長軸を南北にもつ長方形を呈し、超小形長方形に分類。床面 基盤のローム層を40cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の北西隅と南西隅が、住居の中央部より深く掘り込まれる他は平坦である。この面に厚さ15cmの貼



77号住居

- 1 茶褐色土。ロームを僅かに含む。
- 2 黒褐色土。火山灰を均一に含む。
- 3 黒褐色土。中央部を中心に火山灰をまばらに含む。
- 4 暗褐色土。非常に多量のロームブロックを含む(貼床)。
- 5 黄褐色土。ロームを主体とし少量の黒色土粒を含む(貼床)。
- 6 樹木炭。

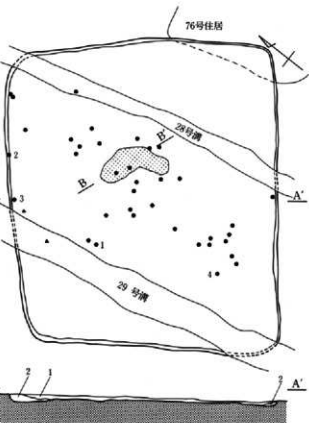
床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 不明。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の台付甕・埴が出土。重複 単独で占地。方位 45° 面積 8.19m²。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



77号住居出土遺物

78号住居(PL.82・観察表23頁)

形状 長軸6.5m、短軸5.7mで長軸を東西にもつやや不整形な長方形を呈し、超大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んでそのまま生活面とする。生活面は全体に平坦で整っている。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北側に偏して長軸1.5m、短軸50cmの範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・台付甕・小形甕が出土。重複 76・79・100・101号住居と重複。76住が78住を切り、78住が100住を切って構築する平面精査の所見を得た。また、78住の床面が101住の上位に構築されている土層断面の所見を得た。79住との新旧関係を判定する資料を欠く。なお、住居の西側と東側を南北に走行する溝は後世のもの。方位 49° 面積 35.85m²(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



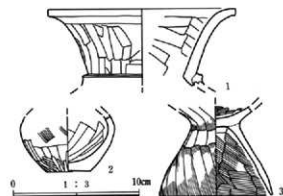
78号住居 生活面

78号住居

- 1 黒褐色土。少量のAs-C粒含む砂質土。
- 2 暗褐色土。少量のローム粒含む。

78号住居が

- 1 暗褐色土。微量のAs-C粒、少量の焼土粒含む。
- 2 赤褐色土。焼土主体で僅かに暗褐色土ブロック含む。
- 3 暗褐色土。暗褐色土とロームブロックの混土。

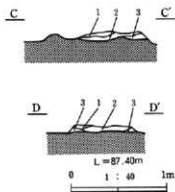
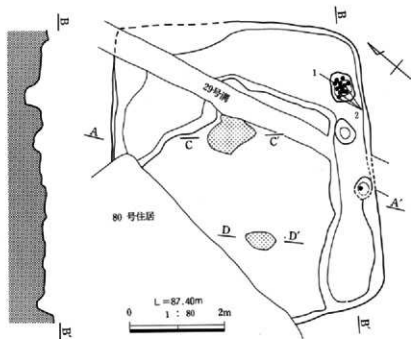


78号住居出土遺物

79号住居 (PL. 82・観察表23頁)

形状 住居の南西部は80号住居と重複するため全形は確認できないが、長軸6.5m、短軸5.6mで長軸を南北にもつ長方形を呈し、超大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体に凹凸が多く、確認した各壁の壁際幅1mほどの範囲が、住居の中央部より深く掘り込まれる。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴

も確認できない。炉 住居中央から北側と南側に偏した2箇所に焼土の痕跡を検出。壁溝 不明。貯蔵穴 住居の北東隅に設置。長軸60cm、短軸50cm、深さ30cmの長方形を呈す。遺物 土師器の甕・高坏が出土。重複 78・80・100号住居と重複。79住が100住を切り、80住が79住を切って構築する平面調査の所見を得た。78住との新旧関係を判定する資料を欠く。なお、住居の東側を南北に走行する溝は後世のもの。方位 43° 面積 34.37㎡(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



79号住居 構築面

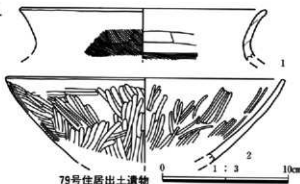


79号住居

1 暗褐色土。暗褐色土とロームブロックの混土。

79号住居跡

- 1 暗褐色土。少量のAs-C粒。僅かな焼土粒含む。
 2 赤褐色土。焼土。
 3 暗褐色土。暗褐色土とロームブロックの混土。



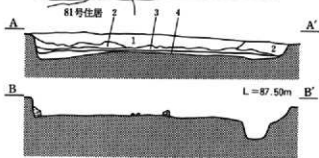
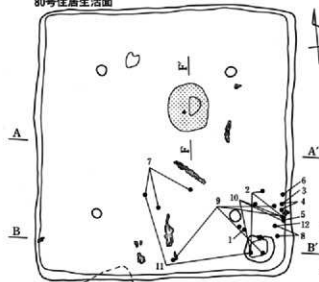
79号住居出土遺物

80号住居 (PL.83・観察夜24頁)

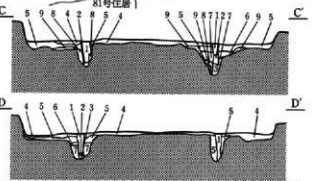
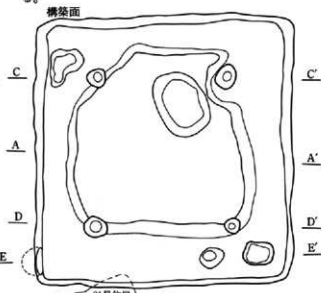
形状 長軸5.7m、短軸5.5mの整ったほぼ正方形を呈し、大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を50cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅1mほどが住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面を造る。生活面は構築面と同様に各壁の壁際がやや低い。柱穴 住居の対角線上に4個を確認。貼床が柱痕の際まで及んでいることから、立柱後に貼床を施す。炉 住居中央からやや北東側に偏した直径90cmの浅い窪

80号住居生活面

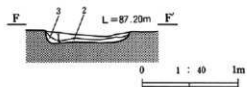
みの中央部に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸60cm、短軸55cm、深さ25cmのほぼ正方形を呈す。遺物 土師器の台付甕・壺・高坏・埴が出土。重複 79・81号住居と重複。80住が79住を切り、81住が80住を切って構築する平面精査の所見を得たが、81住については覆土が浅いため確実性を欠く。方位 7° 面積 30.96㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



80号住居



81号住居



80号住居 A-A'

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒を含む。
- 2 暗褐色土。多量のAs-C粒、ローム粒を含む。
- 3 黒褐色土。多量の炭化物粒、少量の焼土粒を含む。
- 4 粘床。

80号住居 D-D'

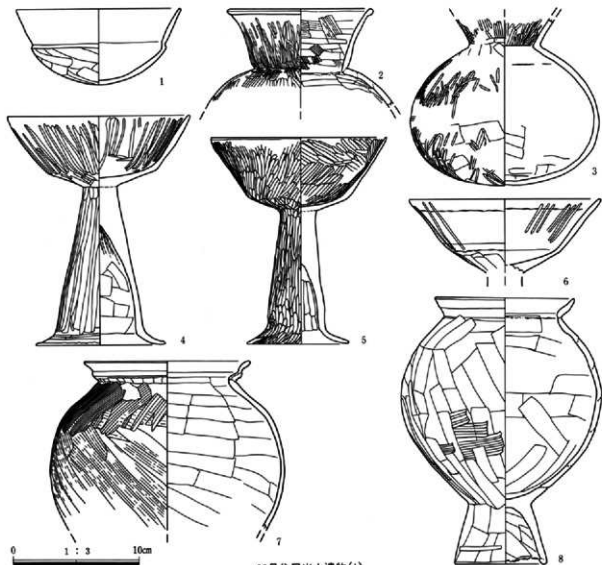
- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、ローム粒を含む。
- 2 赤褐色土。ブロック状。
- 3 暗褐色土。1層と同じ。
- 4 黄褐色土。ロームブロックと暗褐色土の混土(粘床)。
- 5 黄褐色土。ロームブロック主体。
- 6 黄褐色土。やや固ったローム粒主体。
- 7 暗褐色土。As-C粒を含まず、ローム粒を僅かに含む。

80号住居B

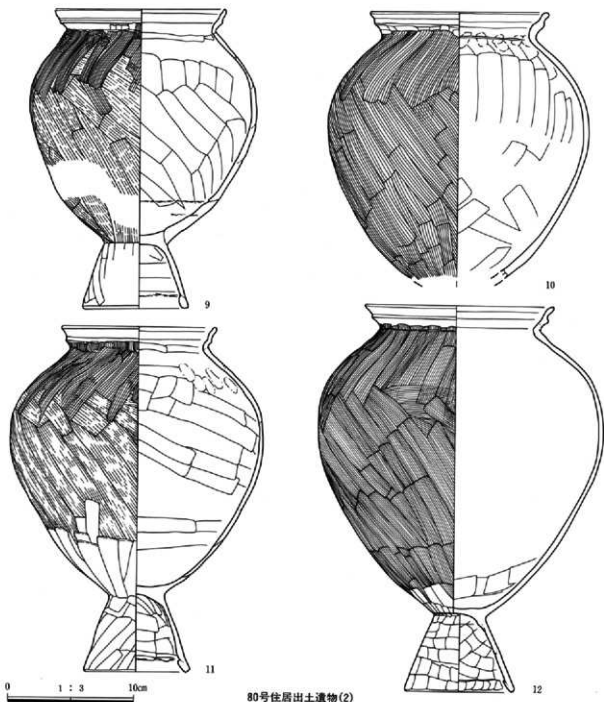
- 1 暗褐色土。少量のAs-C粒、ローム粒、ローム小ブロック含む。
- 2 赤褐色土。焼土層。
- 3 暗褐色土。ローム主体。

80号住居 C-C'

- 1 黒褐色土。ローム粒を僅かに含む。
- 2 黄褐色土。多量のローム粒とブロック含む。
- 3 暗褐色土。1層に近いが多量のローム粒と小ブロック含む。
- 4 黄褐色土。暗褐色土とロームブロックの混土(粘床)。
- 5 暗褐色土。黒褐色土主体で少量のローム粒と小ブロック含む。
- 6 暗褐色土。ローム粒主体で暗褐色土粒を均一に含む。
- 7 暗褐色土。多量のロームブロック含む。
- 8 暗褐色土。5層と類似。
- 9 黄褐色土。ローム主体で少量の暗褐色土粒を含む。



80号住居出土遺物(1)

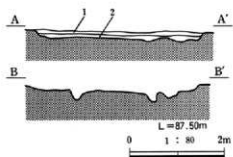


81号住居 (PL. 85)

形状 住居の南側を試掘調査のトレンチで切られるが、長軸3.6m、短軸3.5mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の東側がやや深く掘り込まれる。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁

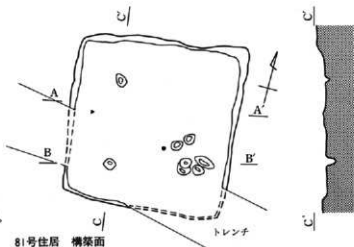
80号住居出土遺物(2)

外柱穴も確認できない。炉 生活面が削平されて確認できないため、確認できない。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 住居の北東部で80号住居と重複。81住が80住を切って構築する平面精査の所見を得たが、81住の覆土がないため確実性を欠く。方位 85° 面積 13.02m²(推定)。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



81号住居

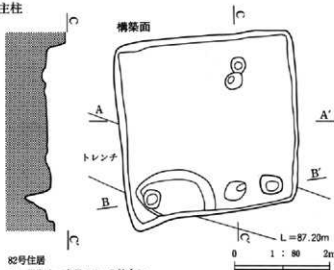
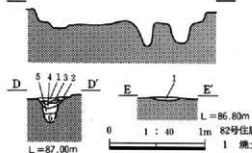
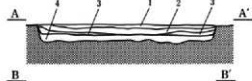
- 1 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒、ローム小ブロック含む(貼床)。
- 2 暗褐色土。非常に多量のロームブロック含む(貼床)。



81号住居 構築面

82号住居 (PL.86・観察表24頁)

形状 長軸3.8m、短軸3.7mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を35cm掘り込んで構築面とする。構築面は南壁の西側がやや深く掘り込まれる他は、ほぼ平坦である。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。住居北西隅の床面直上から炭化物と焼土が出土するが、全体的には焼けた痕跡がない。柱穴 壁内に主柱



82号住居

- 1 黒色土。多量のAs-C粒含む。
- 2 褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 3 褐色土。少量のロームブロック含む。
- 4 暗褐色土。ローム主体で多量の黒色土小ブロック含む(貼床)。

82号住居貯蔵穴

- 1 黒褐色土。
- 2 黄褐色土。焼土含む。
- 3 黄褐色土。ローム中に赤褐色土含む。
- 4 灰褐色土。中央部に黒褐色土含む。
- 5 黄褐色土。
- 6 灰色土。粘土質。

82号住居

82号住居出土遺物

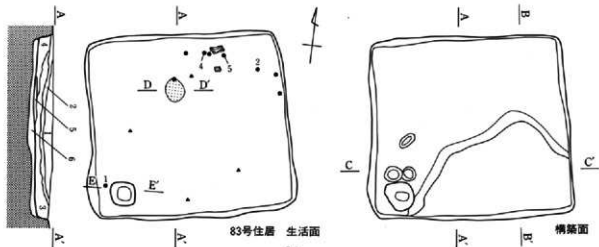


穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して直径25cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸80cm、短軸60cm、深さ50cmの長方形を呈す。遺物 土師器の台付甕が出土。重葎 単独で占地。方位 78° 面積 14.04m²。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

83号住居 (Pl. 86・観察表24頁)

形状 長軸4.2m、短軸3.9mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を50cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の北半部がやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。北壁沿いの床面直上から炭化材が出土するが、全体的には焼けた痕跡がない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できな

い。炉 住居中央から北西側に偏して直径50cmのほぼ円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南西隅に設置。一辺50cm、深さ40cmのほぼ正方形を呈す。遺物 土師器の台付壺・埴・高坏が出土。重複 単独で占地。方位 81° 面積 16.25㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。

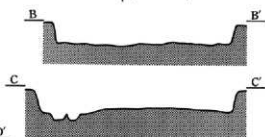


83号住居 生活面

構築面

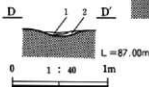
83号住居

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 2 黒色土。多量のAs-C粒含む。
- 3 暗褐色土。少量のAs-C粒含む。
- 4 褐色土。ロームブロック、少量のAs-C粒含む。
- 5 黒褐色土。
- 6 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土小ブロック含む(貼床)。



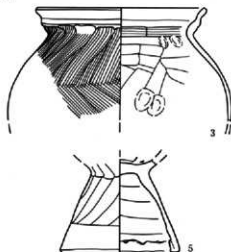
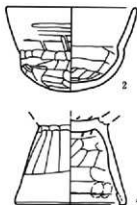
83号住居炉

- 1 赤褐色土。焼土層。少量の黒色土粒含む。
- 2 黄褐色土。ローム主体で少量の焼土粒含む。



83号住居貯蔵穴

- 1 黒褐色土。As-C粒、少量のローム粒含む。
- 2 暗褐色土。多量のロームブロック含む。
- 3 暗褐色土。非常に多量のローム粒含む。

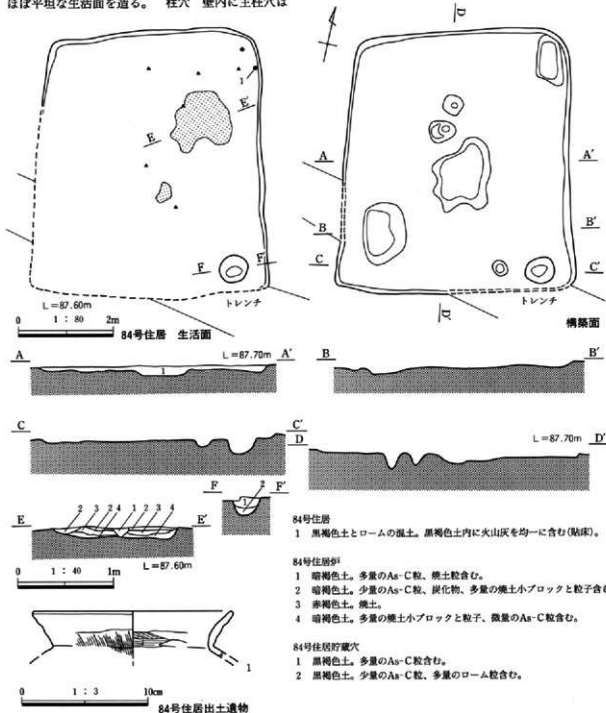


83号住居出土遺物

84号住居 (PL. 87・観察表24頁)

形状 住居の南側を試掘調査のトレンチで切られるが、長軸5.7m、短軸4.9mで長軸を南北にもつ長方形を呈し、大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が不整形なピット状に掘り込まれる他は、ほぼ平坦である。この面に厚さ10cmの貼床を施して、ほぼ平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴は

なく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から南側と北東側に偏した、2箇所焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。直径55cm、深さ20cmの円形を呈す。遺物 土師器の甕が出土。重複 単独で占地。方位 167° 面積 26.38㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



84号住居

1 黒褐色土とロームの混土。黒褐色土内に火山灰を均一に含む(貼床)。

84号住居炉

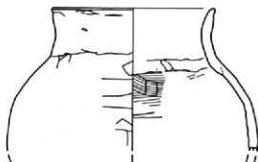
- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、焼土粒含む。
- 2 暗褐色土。少量のAs-C粒、炭化物、多量の焼土小ブロックと粒子含む。
- 3 赤褐色土。焼土。
- 4 暗褐色土。多量の焼土小ブロックと粒子、微量のAs-C粒含む。

84号住居貯蔵穴

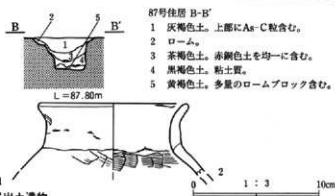
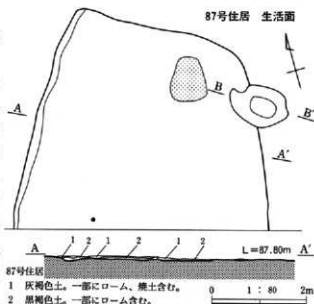
- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 2 黒褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒含む。

87号住居(PL.90・観察表25頁)

形状 住居の南側が試掘調査のトレンチで切られるため全形は確認できない。東西短軸5.1mを測る。
床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とし、この面に厚さ10cmの粘土を施して生活面とする。住居の北東部に土坑状のピットを確認したが、住居の覆土が浅いためこの住居に伴うか否かの判定ができない。
柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。
炉 住居中央から北東側に偏して長軸1.0m、短軸70cmの範囲に焼土を検出。壁溝無し。
貯蔵穴 不明。
遺物 土師器の甕が出土。
重複 単独で占地。方位 28° 面積 測定不可。
所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。

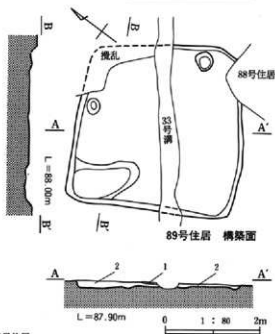


87号住居出土遺物



89号住居(PL.90)

形状 一辺3.6mの正方形を呈し、小形正方形に分類。
床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の北西隅が中央部よりやや深く掘り込まれる他はほぼ平坦である。この面に粘土を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。
柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。
炉 生活面が削平されて確認できないため、確認できない。
壁溝 不明。
貯蔵穴 住居の南東隅に設置。直径40cm、深さ30cmの円形を呈す。
遺物 実測可能な遺物はない。
重複 88号住居と重複。88住が89住を切って構築する平面精査の所見を得た。住居中央部の溝は後世のもの。方位 60° 面積 12.26㎡(推定)。
所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。

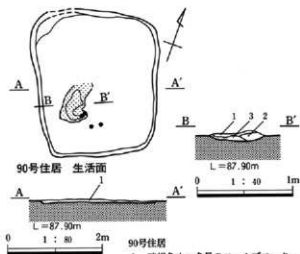


89号住居

- 1 黄褐色土。少量の焼土粒含む(貼床)。
- 2 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒含む(貼床)。

90号住居 (PL.90)

形状 長軸3.1m、短軸2.5mで長軸を南北にもつ長方形を呈し、超小形長方形に分類。床面 基盤のローム層を5cm掘り込んで構築面とする。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて炉を除いて確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から南西側に偏して長軸70cm、短軸50cmの楕円形形状の範囲に焼土を検出。壁溝 不明。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 91号住居と重複。90住が91住を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 158° 面積 7.41㎡。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



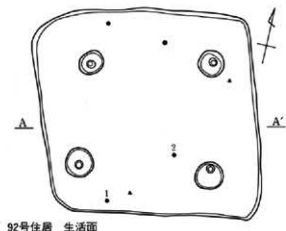
90号住居
1 暗褐色土。多量のロームブロック、少量の焼土粒含む(貼床)。

90号住居切

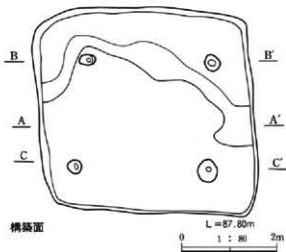
- 1 赤褐色土。伊使用面下の層。
- 2 暗褐色土。As-C粒と焼土粒含む。
- 3 黄褐色土。ロームブロック主体。

92号住居 (PL.92・観察表27頁)

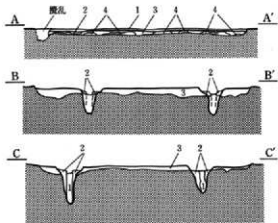
形状 長軸4.6m、短軸4.3mのほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は北壁沿いが住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ5cmの貼床を施して生活面を造る。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を確認した。直径25~40cm、深さ50~80cmの単純円形掘り方を呈し、土層断面で柱痕を検出。炉 不明。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の壺・甕が出土。重複 91号住居と重複。92住が91住を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 80° 面積 19.23㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



92号住居 生活面



92号住居

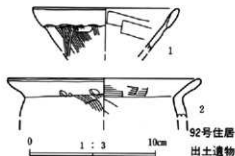


92号住居 A-A'

- 1 黒褐色土。少量のAs-C粒。多量のロームブロック含む。
- 2 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒含む(貼床)。
- 3 暗褐色土。多量のローム粒。ロームブロック含む(貼床)。
- 4 黄褐色土。ローム主体で僅かに黒色土粒含む(貼床)。

92号住居 B-B', C-C'

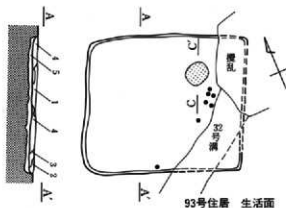
- 1 暗褐色土。砂質土。柱痕跡。
- 2 暗褐色土。ロームブロック、黒色土(As-C粒含む)ブロックの混土。
- 3 貼床。



92号住居
出土遺物

93号住居(PL. 92)

形状 住居の東側を南北に後世の溝に切られるため全形は確認できないが、長軸3.4m、短軸2.9mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、小形長方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は小さな凹凸が多く、各壁の壁際が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面を造る。確認した範囲の



93号住居

- 1 暗褐色土。多量のAs-B、微量のAs-C粒含む。攪乱。
- 2 黄褐色土。ローム粒・ブロックと少量のAs-C粒含む。
- 3 黒褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム大粒と小ブロック含む。
- 4 黄褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒と小ブロック含む。
- 5 黄褐色土。暗褐色土とロームの混土(貼床)。

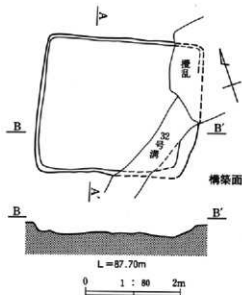
93号住居B

- 1 暗褐色土。少量の黒土粒含む。
- 2 暗褐色土。多量の焼土ブロック含む。
- 3 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒、焼土粒含む。

94号住居(PL. 93・観察表27頁)

形状 住居の大半が調査区域外のため、全形は確認できない。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。住居北側の溝は後世のもの。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できな

生活面は平坦でよく整っている。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して直径50cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 単独で占地。方位 112° 面積 9.65㎡。所見 覆土内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



L=87.70m

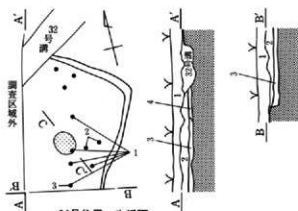
0 1 : 80 2m



L=87.60m

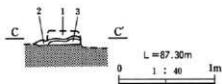
0 1 : 40 1m

い。炉 確認した床面の中央部に直径50cmの円形に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 不明。遺物 土師器の甕・壺が出土。重複 単独で占地。方位 測定不可能。面積 測定不可能。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



94号住居 生活面

L=87.50m
0 1 : 80 2m

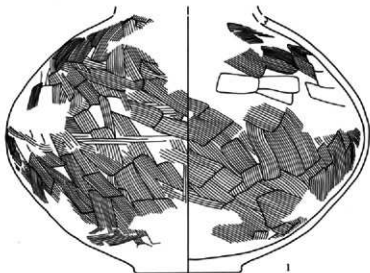


94号住居

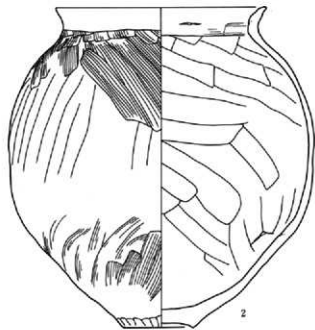
- 1 表土。
- 2 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム粒含む砂質土。
- 3 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒含む(貼床)。
- 4 暗褐色土。3層に類似するがローム粒の量が多い(貼床)。

94号住居跡

- 1 黒褐色土。少量のAs-C粒含む。
- 2 暗褐色土。多量の焼土粒含む。
- 3 暗褐色土。多量の焼土粒、ローム粒含む。



1



2



3

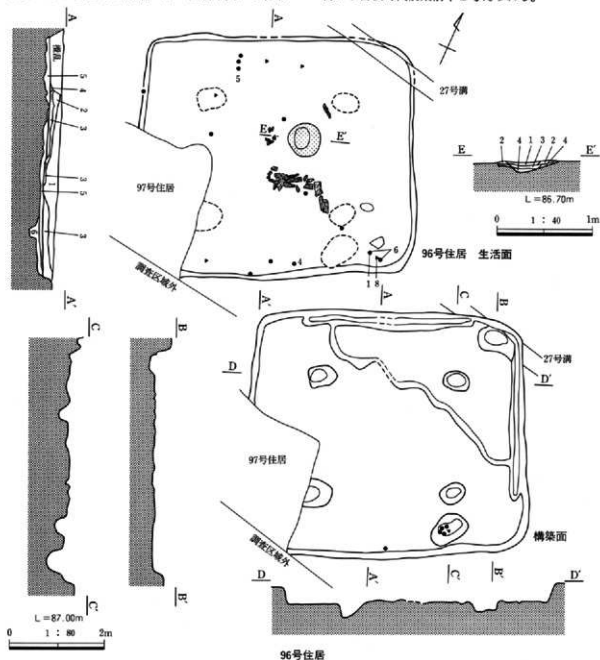
94号住居出土遺物

0 1 : 3 10cm

96号住居(PL.95・観察表27頁)

形状 長軸5.8m、短軸5.1mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、大形長方形に分類。床面 基整のローム層を35cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の北東部が中央部より深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの粘床を施して平坦な生活面を造る。炉の南側の床面直上から炭化材が出土するが、全体的には焼けた痕跡がない。柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の対角線上に確認した4個のピットを柱穴と判断。炉 住居中央から北東

側に偏した直径70cmの範囲にロームを主体とした土を貼り、この中央部に強く焼けた痕跡を確認。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した長軸80cm、短軸55cm、深さ45cmの不整形方形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の小形甕・台付甕・壺・高坏、磁石が出土。重複 住居の南西部で97号住居と重複。97住が96住を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 69° 面積 28.95m²(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



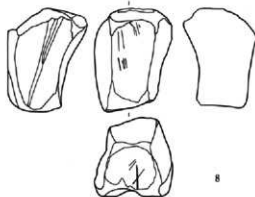
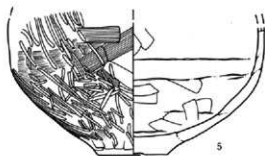
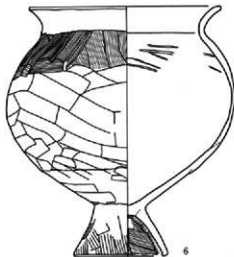
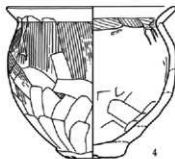
96号住居

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒含む砂質土。
- 2 暗褐色土。非常に多量のAs-C粒、多量のローム粒含む。
- 3 黒褐色土。少量のAs-C粒。直径2cm程度の炭化物質含む粘土質。
- 4 褐色土。ローム主体で非常に多量の黒色土粒含む。
- 5 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム粒・小ブロック含む(貼床)。
- 6 暗褐色土。As-C粒は5層よりもやや少なく、ロームは微量(貼床)。

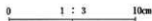


96号住居炉

- 1 焼土。
- 2 ローム。
- 3 赤褐色土。焼土を含む粘土質。
- 4 黄褐色土。ローム、一部に焼土含む。



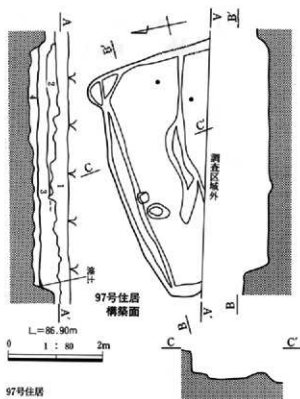
96号住居出土遺物



97号住居 (PL.94・観察表27頁)

形状 住居の南側が調査区域外のため全形は確認できない。東西軸5.0mを測る。床面 基盤のローム層を50cm掘り込んで構築面とする。確認した範囲の構築面は平坦であるが、後世の地滑りのため東西方向に段差ができ、その南側が低い。厚さ10cmの貼床を施して生活面を造るが、生活面も地滑りによる段差ができて平面的に確認できず、土層断面でのみの

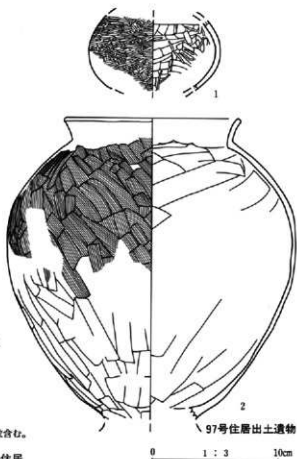
確認。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 不明。壁溝 不明。貯蔵穴 不明。遺物 土師器の台付甕・小形甕が出土。重複 96号住居と重複。97住が96住を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 84° 面積 測定不可能。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



97号住居

- 1 表土。
- 2 黒褐色土。As-C粒を均一に含む。
- 3 黒褐色土。As-C粒は1層よりやや少なく、少量の炭化物、焼土粒含む。
- 4 黒褐色土。As-C粒を微量含む粘質土(貼床)。

97号住居

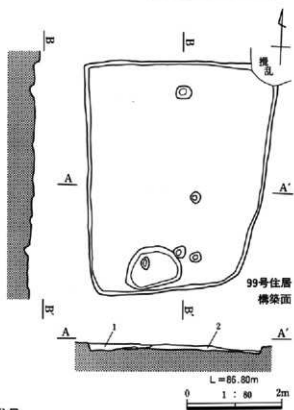


97号住居出土遺物

0 1:3 10cm

99号住居 (PL.97)

形状 長軸4.8m、短軸3.8mで長軸を南北にもつ不整長方形を呈し、中形長方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は南壁沿いに直径1.0m、深さ10cmほどの浅いピットがある他は平坦である。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 生活面が削平されて確認できないため、確認できない。壁溝 不明。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 単独で占地。方位 177° 面積 17.77m²(推定)。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



99号住居

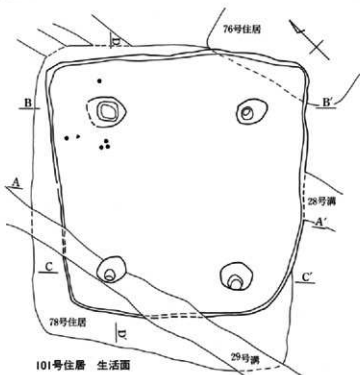
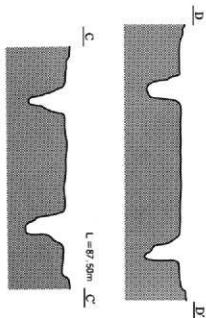
- 1 黒褐色土。少量のAs-C粒、ローム粒含む(貼床)。
- 2 暗褐色土。多量のロームブロック含む(貼床)。

99号住居

101号住居 (PL.97)

形状 長軸5.5m、短軸2.2mのやや不整形な方形を呈し、大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の北西部を除く各壁際の幅1mほどの範囲が住居の中央部より深く掘り込まれ、特に東壁沿いは他の部分より深く掘り込まれる。この面に厚さ10cm以上の貼床を施して生活面を造るが、生活面の上面は上位に重複する78号住居によって削平されて確認できない。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を確認した。柱穴の芯々を結ぶ四角形は住居の外形とほぼ相似形で、長軸3.6m、短軸2.8mの整った長方形を示す。柱穴は

生活面で直径50~80cm、深さ70~80cmの楕円形状掘り方を呈す。炉 生活面が削平されているため、確認できない。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 76・78・100号住居と重複。76住が101住を切って構築する平面精査の所見を得、78住の床面が101住の上位に構築されている土層断面の所見を得た。79住との新旧関係を判定する資料を欠く。なお、住居の西側と東側を南北に走行する溝は後世のもの。方位 45° 面積 28.03m²。所見 覆土内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



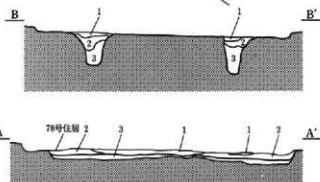
101号住居 生活面

101号住居 B-B'

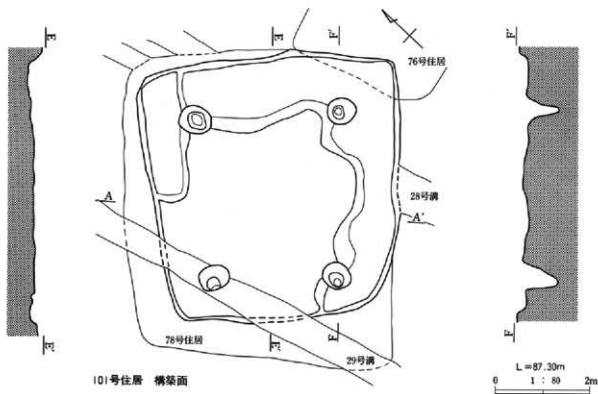
- 1 暗褐色土。微量のAs-C粒、多量のローム粒・小ブロック含む。
- 2 暗褐色土。少量のローム、微量のAs-C粒含む。
- 3 暗褐色土。黒褐色土とロームの混土。

101号住居 A-A'

- 1 暗褐色土。少量のローム粒含む。
- 2 黒褐色土。少量のAs-C粒含む。
- 3 暗褐色土。暗褐色土とローム小ブロックの混土(貼床)。



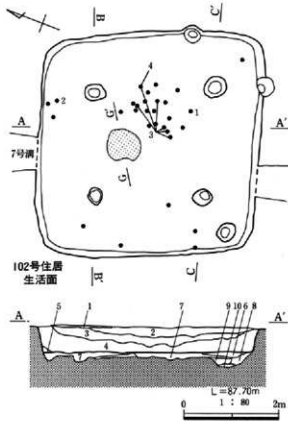
101号住居



101号住居 構築面

102号住居 (Pl. 99・観察表28頁)

形状 一辺4.7mの整った正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を60cm掘り込んで構築面とする。構築面は北壁を除く各壁際の幅70cmほどが住居の中央部より深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個の主柱穴を確認した他、東壁の南側と南壁の東側に合計2個の壁柱穴を確認。主柱穴は直径25~40cm、深さ50~60cmの単純円形掘り方を呈す。壁柱穴は直径40cm、生活面からの深さ20cmで、壁を半円形状に掘り込む。炉 住居中央から北側に偏して直径80cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南西隅に設置。直径35cm、深さ35cmの円形を呈す。遺物 土師器の白付壺・壺が出土。重複 単独で占地。方位 72° 面積 21.47㎡(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。この遺跡では11・32・127号住居に壁柱穴が認められるが、この住居の壁柱穴は径が大きく、壁に1個のみ存在。

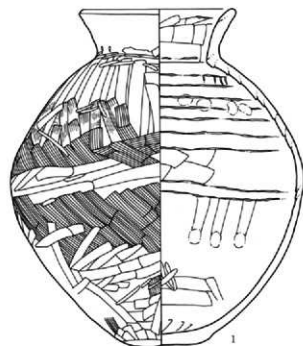
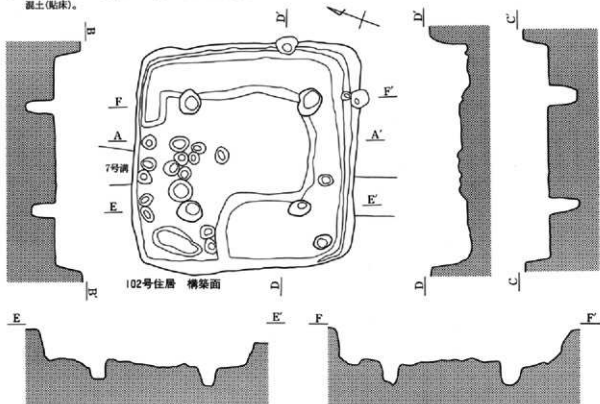


102号住居

102号住居

- 1 灰褐色土。多量のAs-B含む表土の残存。
- 2 暗褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 3 暗褐色土。多量のAs-C粒含む。2層よりも明るい。
- 4 暗褐色土。少量のAs-C粒。ローム大粒含む。
- 5 暗褐色土。4層に類似するが黒色土粒より多く含む。
- 6 黄褐色土。ローム主体でローム大ブロックと黒褐色土の混土(貼床)。

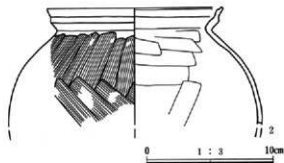
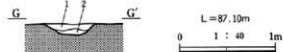
- 7 黒褐色土。黒褐色土主体でローム大ブロック・小ブロックと黒褐色土の混土(貼床)。
- 8 黒褐色土。多量のローム小ブロック・ローム粒含む(貼床)。
- 9 黄褐色土。ロームブロック主体(貼床)。
- 10 黄褐色土。ローム粒と黒褐色土粒の混土(貼床)。

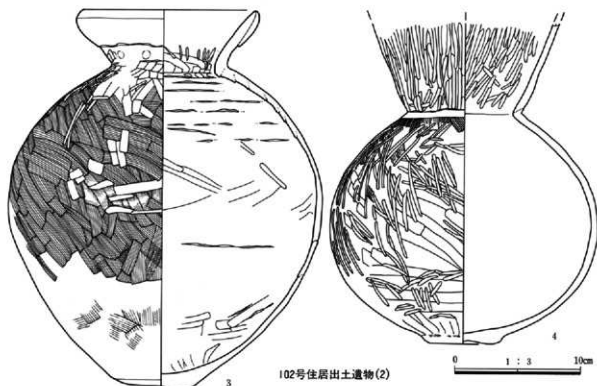


102号住居出土遺物(1)

102号住居枡

- 1 暗褐色土。少量のローム大粒と焼土粒含む。
- 2 暗褐色土。多量の焼土ブロックとローム小ブロック含む。

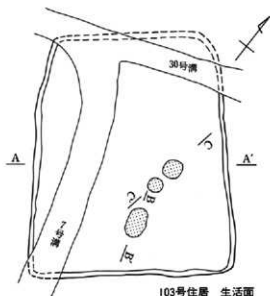




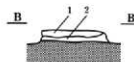
102号住居出土遺物(2)

103号住居 (PL.101)

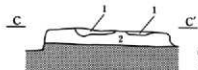
形状 長軸5.1m(推定)、短軸4.1mで長軸を南北にもつ長方形を呈し、中形長方形に分類。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んで構築面とする。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて炉を除いて確認できない。重複する溝は後世のもの。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から南東側に偏して3箇所焼土を検出。壁溝 不明。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 単独で占地。方位 141° 面積 20.61㎡(推定)。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



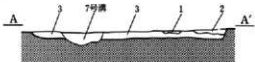
103号住居 生活面



103号住居炉
1 焼土と黒褐色土含む。
2 黄褐色土。



L = 87.70m
0 1 : 40 1m



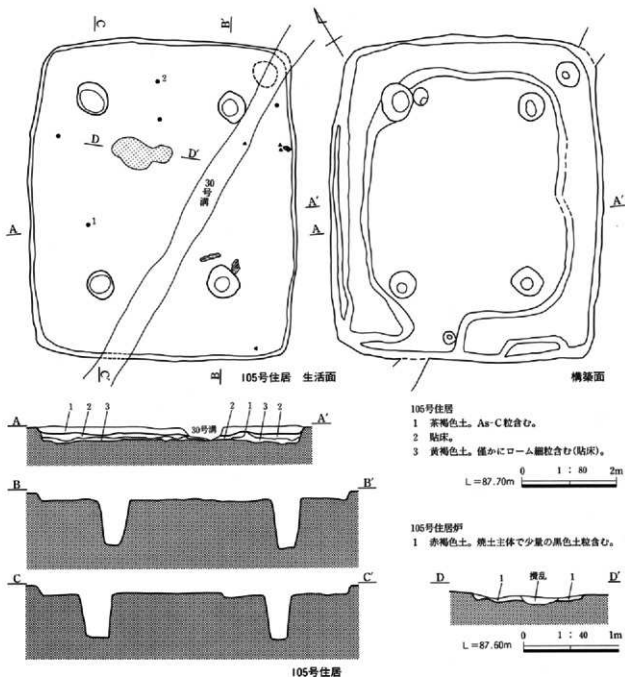
103号住居
1 焼土。
2 黒褐色土。少量のAs-Cを含む。
3 黄褐色土。少量の黒褐色土含む。 L = 87.80m
0 1 : 80 2m

103号住居

105号住居(PL.104・観察表29頁)

形状 長軸6.9m、短軸5.8mで長軸を南北にもつ長方形を呈し、超大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体に小さな凹凸が多く、各壁際の幅70cmほどの範囲が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面を造る。重複する溝は後世のもの。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を確認。直径55~70cm、深さ1.0mの単純円形掘

り方を呈す。炉 住居中央から北西側に偏して長軸1.3m、短軸60cmの不整楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の北東隅に確認した直径50cm、深さ60cmの円形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の台付甕・器台が出土。重複 15号掘立柱建物と重複。新旧関係を判定する資料を欠く。方位 32° 面積 36.67㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。

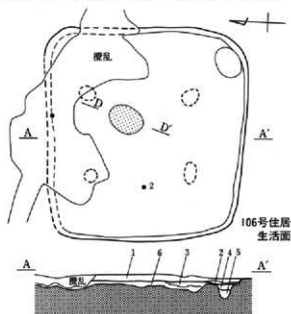




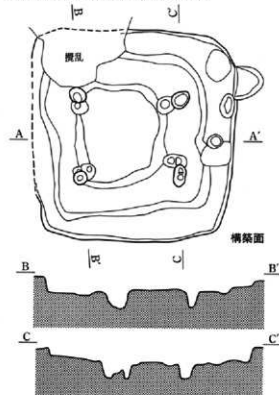
106号住居 (PL. 105・観察表29頁)

形状 長軸4.5m、短軸4.2m(推定)のほぼ正方形を呈し、中正方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁際の幅70cmほどの範囲が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面を造る。柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居のほぼ対角線上に確認した4個のピツ

トを柱穴と判断。炉 住居中央から北側に偏して長軸75cm、短軸50cmの楕円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の壺・甕・高坏が出土。重複 住居の北側で131号住居と、住居の南東隅で15号掘立柱建物と重複。重複部に擾乱を受けて、いずれも新旧関係を判定する資料を欠く。方位 89° 面積 18.09㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



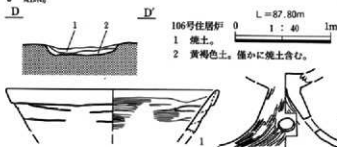
106号住居
生活面



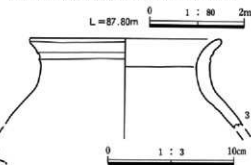
構築面

106号住居

- 1 黒褐色土。As-C粒を均一に含む。
- 2 茶褐色土。ローム粒含む。
- 3 暗褐色土。多量のローム小ブロック、ローム粒含む(貼床)。
- 4 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒含む(貼床)。
- 5 暗褐色土。非常に多量のローム粒含む(貼床)。
- 6 貼床。



106号住居切
0 1:40 1m
1 焼土。
2 黄褐色土。僅かに焼土含む。

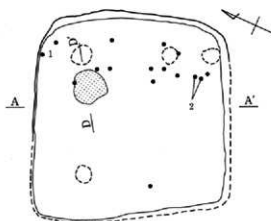


106号住居出土遺物

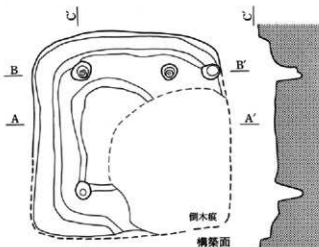
107号住居 (PL.106・観察表29頁)

形状 長軸4.4m、短軸4.2mのほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を35cm掘り込んで構築面とする。構築面は確認した壁の壁際の幅70cmほどの範囲が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ15cmの貼床を施して生活面を造る。住居の南西部は倒木痕と攪乱。柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面では住居のほぼ

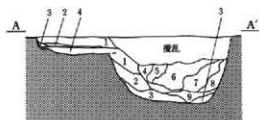
対角線上に確認した3個のビットを柱穴と判断。炉 住居中央から北東側に偏して直径70cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面では住居の南東隅に確認した直径30cm、深さ25cmの円形ビットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の甕・高坏が出土。重複 単独で占地。方位 67° 面積 17.30m²。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



107号住居 生活面



倒木痕
構築面



107号住居炉

- 1 暗褐色土。暗褐色土、ロームブロック、焼土の混土。
- 2 暗褐色土。暗褐色土とロームブロックの混土。



L=87.70m
0 1 : 40 1m

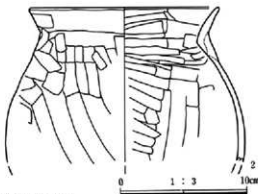
107号住居

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒。少量のローム大粒含む。
- 2 黒褐色土。多量のローム大粒と焼土粒。少量のAs-C粒含む。
- 3 暗褐色土。ローム小ブロック・粒と暗褐色土の混土。
- 4 暗褐色土。多量のローム粒含む(貼床)。

倒木痕

- 1 暗褐色土。少量のローム粒含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 3 暗褐色土。2層より多量のローム粒含む。
- 4 暗褐色土。ロームと黒色土の混土。
- 5 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色粒含む。
- 6 黄褐色土。ローム。
- 7 黄褐色土。ローム暗色帯漸移層。
- 8 黄褐色土。ローム暗色帯。
- 9 黄褐色土。ロームと暗色帯土の混土。

L=87.90m
0 1 : 80 2m

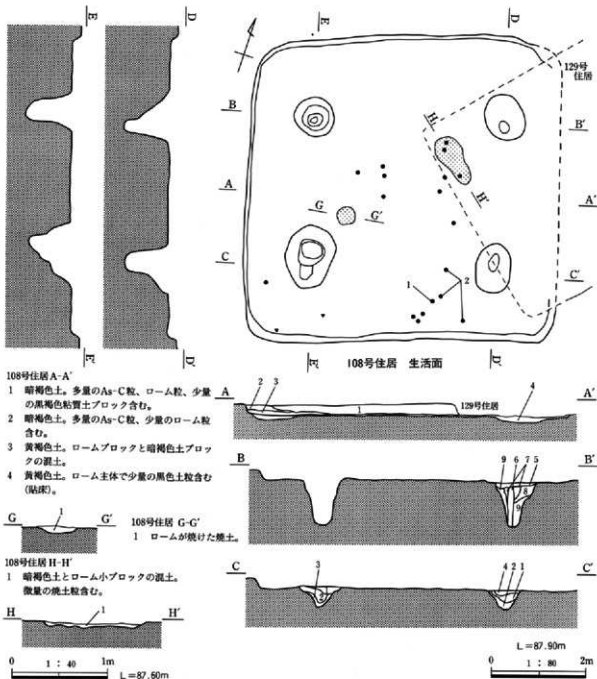


107号住居出土遺物

108号住居 (PL. 107・観察表30頁)

形状 長軸6.6m、短軸6.4mのほぼ正方形を呈し、超大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を25cm掘り込んで構築面とする。構築面は確認した壁の壁際が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この壁際の部分にのみ厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を確認した。直径80~100cm、深さ40~80cmの単純円形

掘り方を呈し、北東に位置する柱穴には直径10cmの柱痕を検出。炉 住居中央から北東側と南西側に偏した2箇所に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・台付甕が出土。重複 129号住居と重複。129住が108住を切って構築する土層断面の所見を得た。方位 74° 面積 41.85㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。

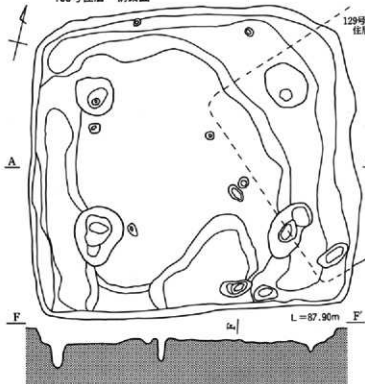


108号住居

108号住居 B-B', C-C'

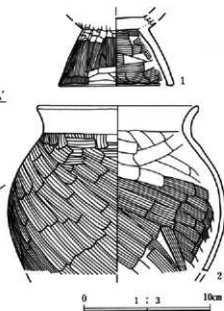
- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム大粒含むローム粒と暗褐色土粒の混土。
- 2 暗褐色土。少量のAs-C粒と黒褐色土ブロック含む。
- 3 黄褐色土。ローム粒・小ブロック主体。
- 4 暗褐色土。多量のAs-C粒含むローム大粒と暗褐色土の混土。

108号住居 構築面

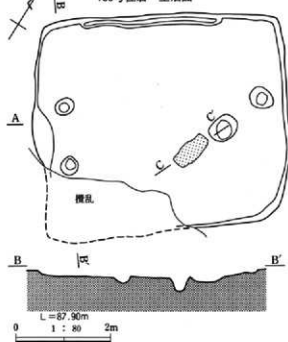


- 5 黒褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム大粒・細粒含む。
- 6 暗褐色土。2層に類似。少量のAs-C粒含むローム粒と暗褐色土の混土(柱状)。
- 7 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム大粒、ローム粒、多量の暗褐色土小ブロック含む。
- 8 暗褐色土。少量のAs-C粒含む暗褐色土とロームブロックの混土。
- 9 黄褐色土。ロームブロック主体。

108号住居出土遺物



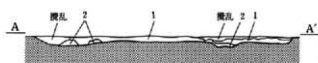
109号住居 生活面



109号住居

109号住居(PL.108)

形状 長軸5.5m、短軸4.5mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて炉を除いて確認できない。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。東壁際に1個、西壁際に2個の直径40cm、深さ10~30cmほどのビットを確認したが、柱穴とは判断せず。炉 住居中央から南西側に偏して長軸80cm、短軸40cmの範囲に焼土を検出。壁溝 北壁に幅15cm、構築面からの深さ5cmの溝を確認。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 単独で占地。方位 58° 面積 23.67㎡。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



109号住居

- 1 暗褐色土。少量のAs-C粒、非常に多量のローム粒含む(貼床)。
2 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒含む(貼床)。

110号住居 (PL.109・観察表30頁)

形状 住居の南東部に他の住居と重複し、住居の西側に攪乱を受けるため全形は確認できない。床面基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は確認した壁の壁際が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面で確認した2個のピットを柱穴

109号住居跡

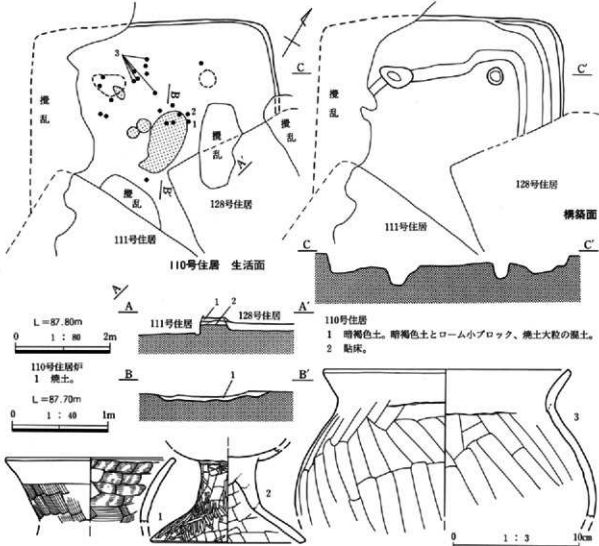
- 1 暗褐色土。非常に多量のローム粒、焼土粒含む。

L = 87.90m
1 : 80
0 2m

L = 87.80m
1 : 40
0 1m



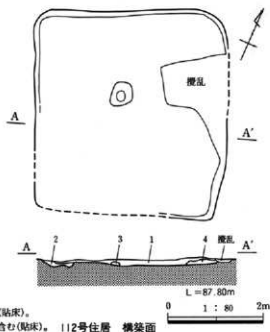
と判断。 炉 住居中央部に長軸1.4m、短軸70cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。 壁溝 無し。 貯蔵穴 不明。 遺物 土師器の甕・壺・高坏が出土。 重複 住居の南側で111号住居と、住居の東側で128号住居とそれぞれ重複。110住→128住→111住の順を示す土層断面の所見を得た。 方位 測定不可能。 面積 測定不可能。 所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



110号住居出土遺物

112号住居(PL.108)

形状 長軸4.3m、短軸4.1mのほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のルーム層を15cm掘り込んで構築面とする。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 生活面が削平されて確認できないため、確認できない。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 単独で占地。方位 156° 面積 17.30㎡(推定)。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。

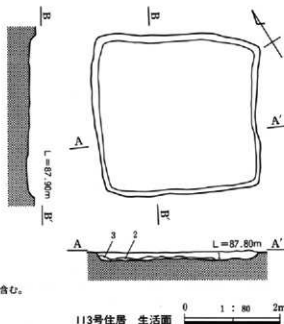


112号住居

- 1 黒褐色土と黄褐色土の混土(貼床)。 3 黄褐色土と黒褐色土の混土(貼床)。
2 黄褐色土(貼床)。 4 黄褐色土。僅かに黒褐色土含む(貼床)。 112号住居 構築面

113号住居(PL.112)

形状 長軸3.5m、短軸3.4mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のルーム層を15cm掘り込んでそのまま生活面とする。生活面は全体にほぼ平坦。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 不明。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 住居の北西部で114号住居と重複。113住が114住を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 119° 面積 11.34㎡。所見 覆土内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



113号住居

- 1 暗褐色シルト。少量のAs-C粒。多量のローム小ブロック、ローム粒含む。
2 褐色土。ロームと黒色土との混土。
3 明褐色シルト。非常に多量のローム粒含む。

113号住居 生活面

114号住居(PL.113・観察表30頁)

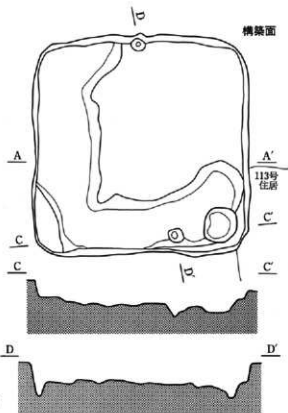
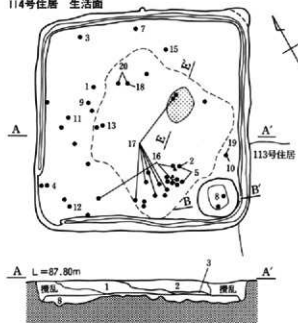
形状 長軸4.6m、短軸4.5mの整ったほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のルーム層を40cm掘り込んで構築面とする。構築面は西壁と南壁に沿った幅1.0mほどの範囲が、住居の東側より深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面を造る。生活面は全体に平坦で整っており、炉を含む住居の東側を中心とした部分は、踏み固め

られて硬い。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して長軸70cm、短軸50cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 幅10cm、深さ10cmで東西隅を除いて全周。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸85cm、短軸80cm、深さ30cmのほぼ正方形を呈す。遺物 土師器の甕・小形甕・台付甕・壺・埴・高坏・器台が出土。重複 住居の南東部113住と、住居の西側で115号住居

とそれぞれ重複。114住が115住を切り、113住が114住を切つて構築する平面精査の所見を得た。方位

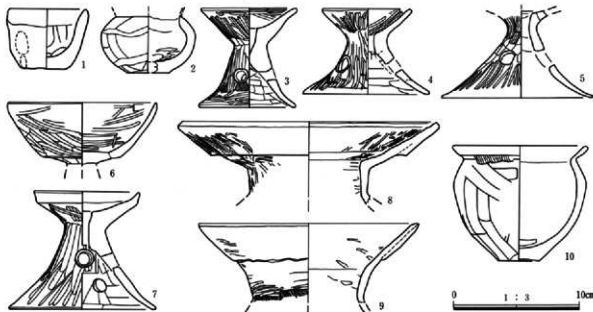
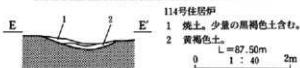
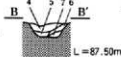
118° 面積 20.67㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。

114号住居 生活面

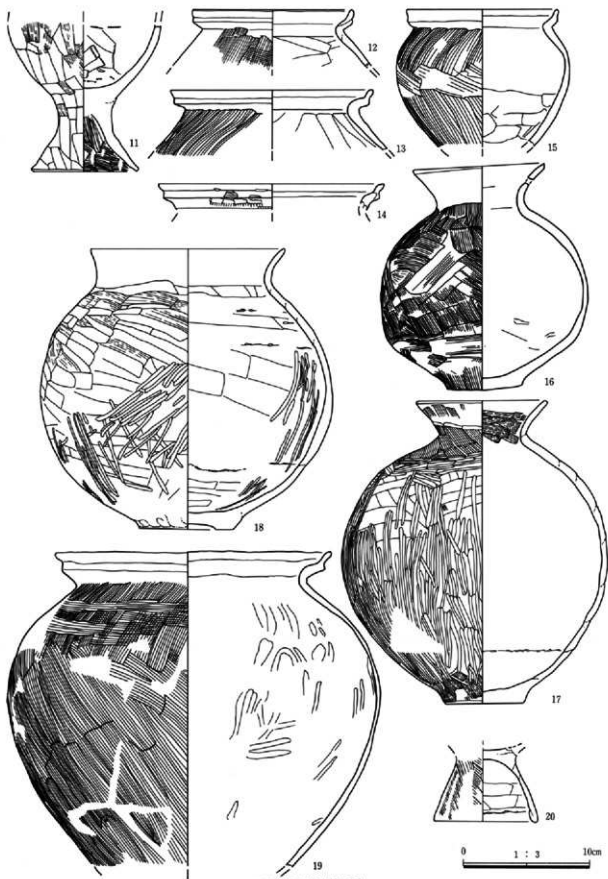


114号住居及び貯蔵穴

- 1 黒褐色土。As-C粒を均一に含む。
- 2 黒褐色土。直径1cm大のローム粒含む。
- 3 茶褐色土。
- 4 黒褐色土。As-C粒を均一に含む。
- 5 黒褐色土。直径1cm大のローム粒を均一に含む。
- 6 茶褐色土。ローム粒を均一に含む。
- 7 黄褐色土。少量のローム粒含む。
- 8 暗褐色土。ロームブロックと暗褐色土の混土(粘土)。



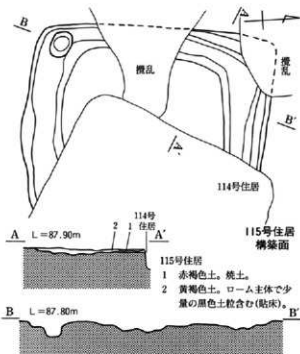
114号住居出土遺物(1)



114号住居出土遺物(2)

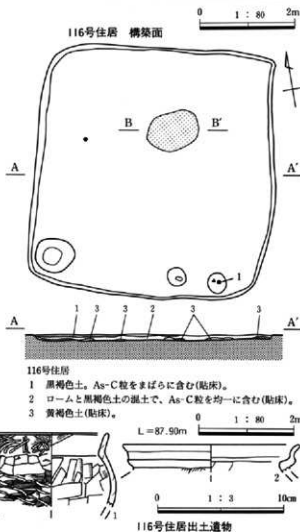
115号住居(PL.112)

形状 住居の東側が重複のため全形は確認できない。南北軸5.2mを測る。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は確認した壁の壁際70cmほどの範囲が住居の中央部やややや深く掘り込まれる。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 生活面が削平されて確認できないため、確認できない。壁溝 不明。貯蔵穴 住居の南西隅に設置。長軸60cm、短軸40cm、深さ15cmの楕円形状を呈す。遺物 実測可能な遺物はない。重複 114号住居と重複。114住が115住を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 8°面積 測定不可能。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



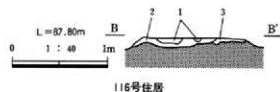
116号住居(PL.115・観察表31頁)

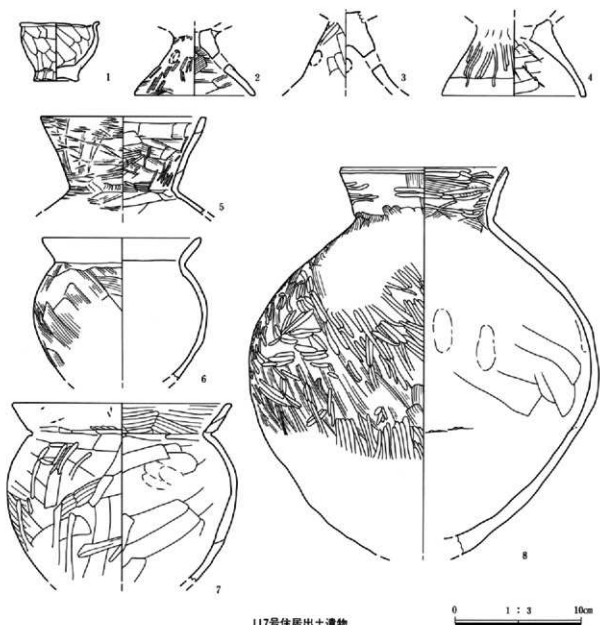
形状 長軸5.3m、短軸5.1mのほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体にほぼ平坦である。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて炉の底面を除いて確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して長軸1.1m、短軸80cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 不明。貯蔵穴 住居の南西隅に設置。長軸80cm、短軸70cm、深さ25cmの方形を呈す。遺物 土師器の小形壺・台付壺が出土。重複 単独で占地。方位 16°面積 25.59m²。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



116号住居炉

- 1 赤褐色焼土。As-C粒を稀に含む。
- 2 暗褐色土。多量のAs-C粒、ローム粒、焼土ブロック含む。
- 3 暗褐色土。ロームブロック、暗褐色土、As-C粒の混土。



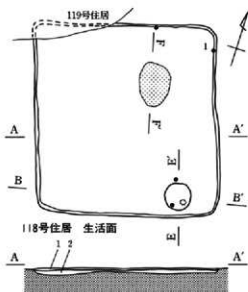


117号住居出土遺物

118号住居(PL.115・観察表32頁)

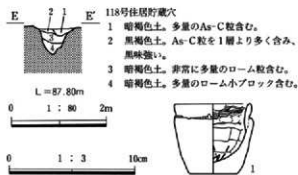
形状 長軸4.0m、短軸3.9mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を5cm掘り込んで構築面とする。構築面は北壁と西壁の壁沿いが幅1.0mの範囲に住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて炉の底面を除いて確認できない。したがって、生活面として図示した平面図は、生活面と構築面の中間、つまり貼床の中位のもの。柱穴 壁内に主柱穴はな

く、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して長軸90cm、短軸60cmの範囲に焼土を検出し、一部は白色粘土が焼土化。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。直径55cm、深さ50cmの円形を呈す。遺物 土師器の小形粗製土器が出土。重複 住居の北西隅で119号住居と重複。平面精査から118住が119住を切って構築するとの所見を得たが、重複部が極めて少ないため確実性を欠く。方位 163° 面積 15.59㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



118号住居

- 1 暗褐色土。多量のローム小ブロック、ローム粒含む。
2 粘床。



118号住居貯蔵穴

- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒含む。
2 黒褐色土。As-C粒を1層より多く含む、黒味強い。
3 暗褐色土。非常に多量のローム粒含む。
4 暗褐色土。多量のローム小ブロック含む。

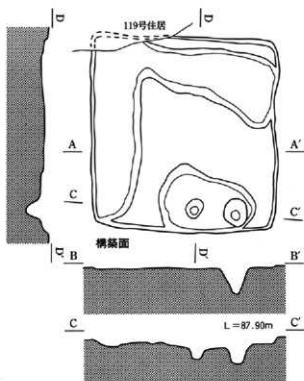
L=87.80m
0 1:80 2m

0 1:3 10cm

118号住居出土遺物

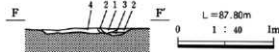
119号住居 (PL.117・観察表32頁)

形状 長軸5.2m、短軸4.9mのほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面はほぼ4個の柱穴を結ぶ線の外側が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの粘床を敷して生活面を造る。生活面は全体に平坦で整っており、炉を含む住居の東側を中心とした部分は、踏み固められて硬い。焼失 この住居は焼失住居で、住居のほぼ全面にわたって多量の垂木の他、梁・桁材の炭化材と焼土を検出。これらの出土レベルは、住居中央部のものは床面に密着しているが、壁際のはらは床面からの位置が僅かに高い。一方、貯蔵穴の上位には貯蔵穴の埋没後に炭化材が位置し、貯蔵穴の埋没土には人為的に埋めた痕跡がない。したがって、火災は住居の使



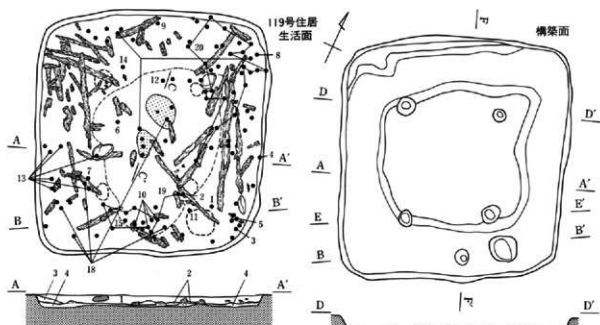
119号住居伊

- 1 暗褐色シルト。全体に砂質。
2 赤褐色シルト。焼土。
3 赤褐色シルト。焼土を主体とし、多量の黒色土粒含む。
4 黒褐色シルト。少量のAs-C粒、ローム粒含む。



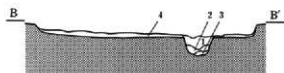
118号住居

用時ではなく、少なくとも貯蔵穴の埋没が終了した時点で、住居の埋没過程のものと考えられる。柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居のほぼ対角線上に確認した4個のビットを柱穴と判断。伊 住居中央からやや北東側と南西側に偏した2箇所に焼土を検出。北東のものは長軸70cm、短軸60cm、南西のものは長軸50cm、短軸30cmで、いずれも楕円形状を呈す。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。一辺70cm、深さ40cmのほぼ正方形を呈す。遺物 土師器の台付壺・壺・高坏・器台・蓋・埴が出土。重複 住居の南側で118号住居と重複。平面精査から118住が119住を切って構築するとの所見を得たが、重複部が極めて少ないため確実性を欠く。方位 157° 面積 23.98㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



119号住居 A-A'

- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、ローム粒・大粒、少量の炭化物含む。
- 2 黒褐色土。焼土粒と炭化物主体。
- 3 黄褐色土。ローム小ブロック、暗褐色土、As-C粒の混土。
- 4 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒含む(粘床)。



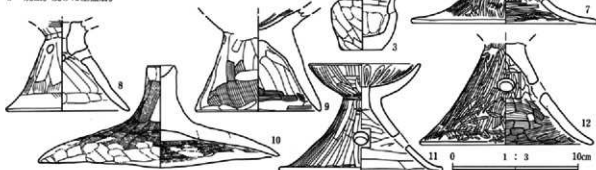
119号住居 B-B' (貯蔵穴)

- 1 暗褐色土。As-C粒、炭化物、少量の焼土粒、微量のローム大粒、多量のローム粒を含む。
- 2 暗褐色土。ローム粒・小ブロックと暗褐色土の混土。
- 3 暗褐色土。2層よりも暗褐色土の量が多い。
- 4 粘床。

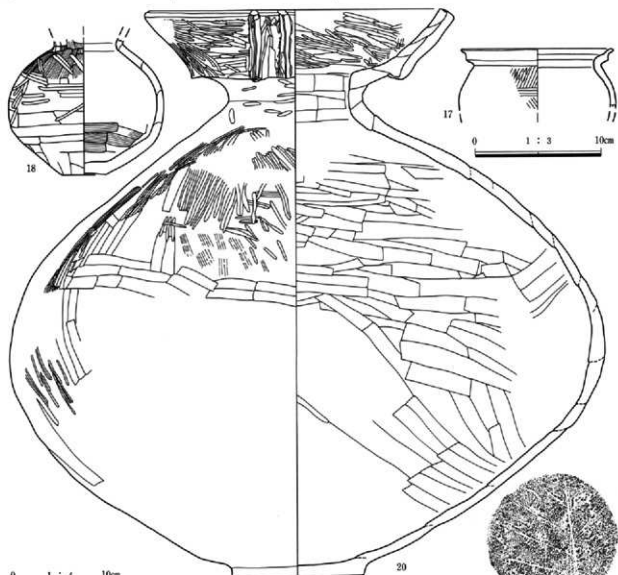
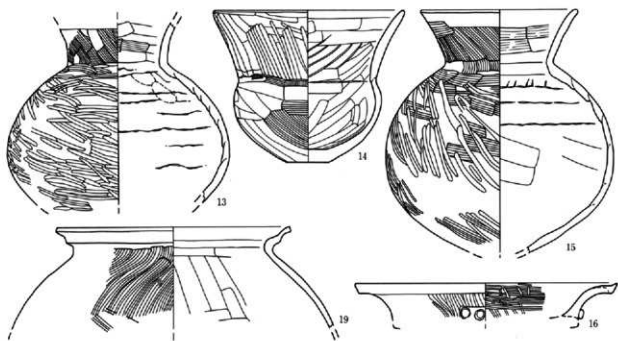


119号住居F

- 1 黒褐色土。微量のAs-C粒、ローム粒、少量の焼土大粒を含む。
- 2 暗褐色土。ローム大粒と暗褐色土の混土。
- 3 焼土。覆けた基盤層。



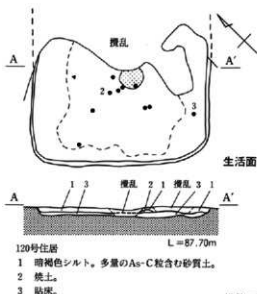
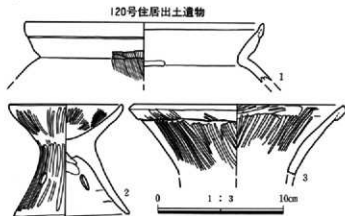
119号住居出土遺物(1)



119号住居出土遺物(2)

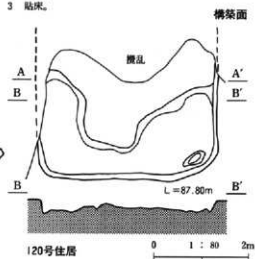
120号住居(PL.119・観察表33頁)

形状 住居の北東部に攪乱を受けて、全形は確認できない。東西軸3.8mを測る。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は確認した壁の壁際が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。生活面は炉を含む住居の中央部分が踏み固められて硬い。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央部に直径50cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・壺・器台が出土。重複 単独で占地。方位 133° 面積 測定不可能。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



120号住居

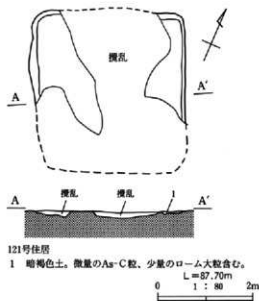
- 1 暗褐色シルト。多量のAs-C粒含む砂質土。
2 焼土。
3 貼床。



120号住居

121号住居(PL.119)

形状 長軸3.5m、短軸3.3mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 住居の大半を攪乱で切られるが、基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 生活面が削平されて確認できないため、確認できない。壁溝 不明。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 単独で占地。方位 155° 面積 10.80m²。所見 貼床内の土師器片から古墳時代前期と考えられる。



121号住居

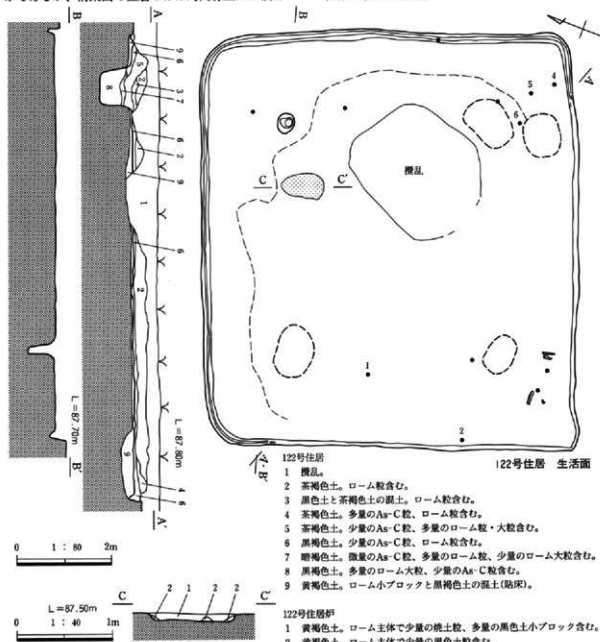
- 1 暗褐色土。微量のAs-C粒。少量のローム大粒含む。

121住居 構築面

122号住居 (PL. 119・観察表33頁)

形状 長軸8.9m、短軸8.0mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、超大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を35cm掘り込んで構築面とする。構築面は南壁を除く各壁の壁際が幅80cmほどの範囲が住居の中央部より深く掘り込まれる。この面に厚さ5cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。生活面はほぼ4個の柱穴を結ぶ線の内側が踏み固められて硬い。柱穴 生活面では北東に位置する1個を確認したのみであるが、構築面で住居のほぼ対角線上に4個を

確認した。生活面で確認した1個は直径20cm、深さ60cmの単純円形掘り方を呈す。炉 住居中央から北東側に偏して長軸90cm、短軸50cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 幅15cm、深さ10cmで全周すると考えられるが、西壁と南壁部は未確認。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸90cm、短軸80cm、深さ60cmの長方形を呈す。遺物 土師器の台付甕・高坏・器台が出土。重複 単独で占地。方位 68° 面積 69.00㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



122号住居

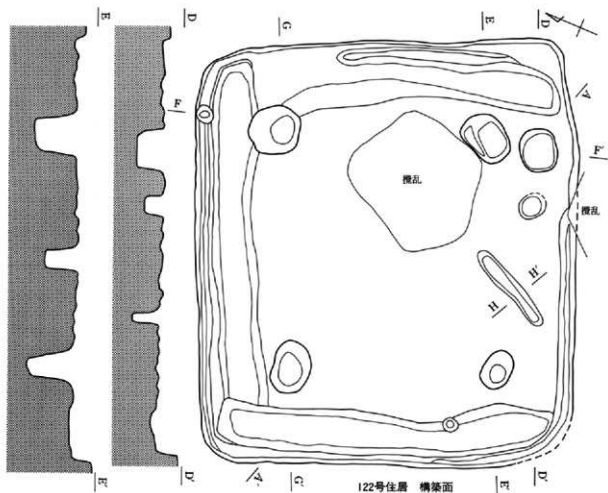
- 1 概品。
- 2 茶褐色土、ローム粒含む。
- 3 黒色土と茶褐色土の混土。ローム粒含む。
- 4 茶褐色土。多量のAs-C粒、ローム粒含む。
- 5 茶褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒・大粒含む。
- 6 黒褐色土。少量のAs-C粒、ローム粒含む。
- 7 暗褐色土。微量のAs-C粒、多量のローム粒、少量のローム大粒含む。
- 8 黒褐色土。多量のローム大粒、少量のAs-C粒含む。
- 9 黄褐色土。ローム小ブロックと黒褐色土の混土(貼床)。

122号住居炉

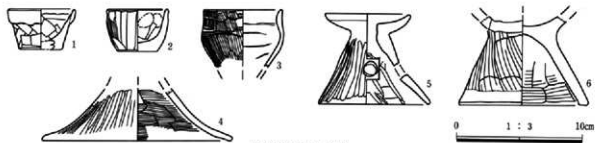
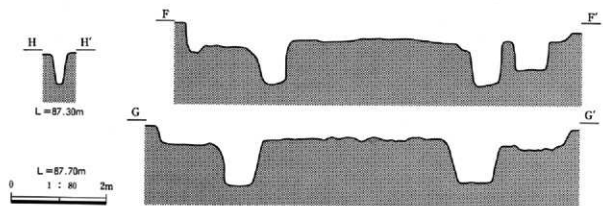
- 1 黄褐色土。ローム主体で少量の焼土粒、多量の黒色土小ブロック含む。
- 2 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒含む。

122号住居

122号住居 生活面



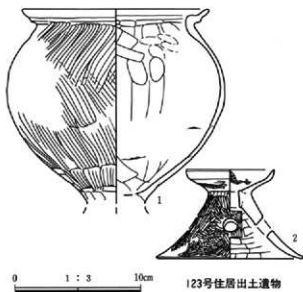
122号住居 構築面



122号住居出土遺物

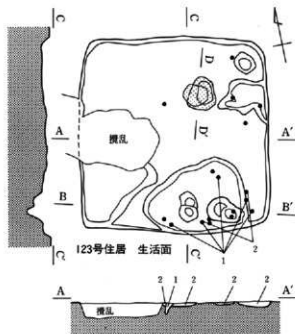
123号住居 (PL. 119・観察表33頁)

形状 長軸4.2m、短軸4.0mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて炉の底面を除いて確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏した直径50cmの円形の窪みを確認し、この南縁に焼土を検出。壁溝 不明。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸80cm、短軸50cm、深さ50cmの不整形を呈す。遺物 土師器の台付壺・器台が出土。重複 単独で占地。方位 102° 面積 15.86m²。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



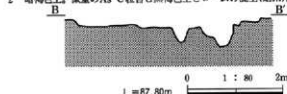
124号住居 (PL. 120・観察表33頁)

形状 長軸4.9m、短軸3.9mで長軸を東西にもつ歪んだ不整形長方形を呈し、中形長方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁の壁際が深く掘り込まれることなく、全体にほぼ平坦である。この面に厚さ5cmの貼床を全面にほぼ均一に施して生活面を造る。生活面は全体に平坦でよく整っている。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から



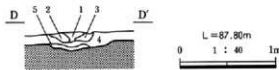
123号住居

- 1' 黒褐色土。少量のローム粒含む。焼土か?。
2 暗褐色土。微量のAs-C粒含む黒褐色土とロームの混土(貼床)。



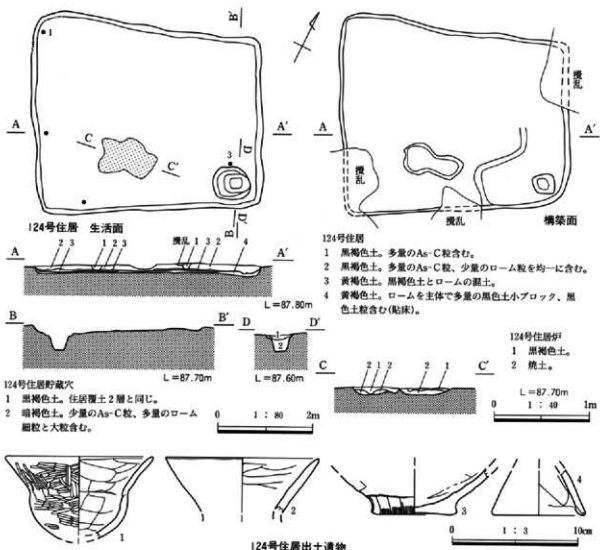
123号住居炉

- 1 黒褐色シルト。少量のAs-C粒、焼土粒含む。
2 赤褐色シルト。焼土を主体とし少量のロームブロック含む。
3 赤褐色土。焼土粒、ロームブロック、黒色土ブロックの混土。
4 暗褐色シルト。多量のローム粒含む。
5 褐色シルト。ローム主体とし多量の黒色土小ブロック含む。



123号住居

ら南西側に偏して長軸1.1m、短軸70cmの不整形円形状の範囲に、強く焼けた痕跡を残す焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸80cm、短軸70cm、深さ35cmの方形を呈す。遺物 土師器の壺・台付壺・壺・埴が出土。重複 単独で占地。方位 66° 面積 18.76m²。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。近接する118・119・120・121・122号住居に軸線の傾きが近似するが、規模はそれぞれ異なる。



125号住居 (PL. 120・観察表33頁)

形状 住居の南西部は他の住居と重複して確認できないが、長軸7.0m、短軸5.9mで長軸を南北にもつ長方形を呈し、超大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を35cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が島状に高く掘り残され、西壁と東壁の壁際は溝状に深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面を造る。生活面は全体に平坦でよく整っている。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を確認した。柱穴の芯々を結ぶ四角形は住居の外形と相似形ではなく、一辺3.0mの整った正方形を示す。柱穴は生活面で直径20~30cm、深さ40~50cmの単純円形掘り方を呈す。 炉 住居中央から北

側に偏して長軸1.0m、短軸60cmの範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した長軸80cm、短軸60cm、深さ50cmの方形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の甕・台付甕・小形壺・壺・鉢・高坏が出土。重複 住居の南西部で126号住居と重複。126住が125住を切って構築する平面積査の所見を得た。方位 0° 面積 40.83m²(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。この住居は126号住居と重複するが、古墳時代前期の住居同士が重複する類例が比較的少ないこの遺跡のなかにおいて、新旧関係が明確に判定でき、なおかつ両者に伴出遺物を伴う良好な資料。

125号住居

- 1 黒色土。ロームブロック、一部にAs-C粒含む。
- 2 黒色土。多量のAs-C粒含む。
- 3 黄褐色土。ロームブロック含む。
- 4 黒色土。ロームブロック含む。
- 5 焼土。
- 6 褐色土。ロームを塊状に、焼土含む。
- 7 茶褐色土。少量のローム含む(粘床)。
- 8 ローム塊(粘床)。



L = 87.70m

0 1 : 80 2m

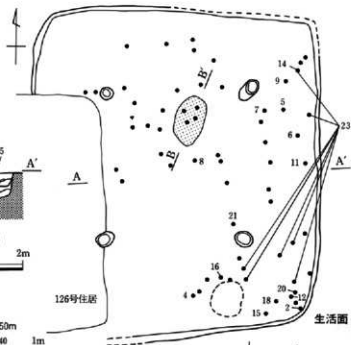
125号住居跡

- 1 赤褐色土。焼土。
- 2 黒褐色土。ローム大粒を均一に含む。



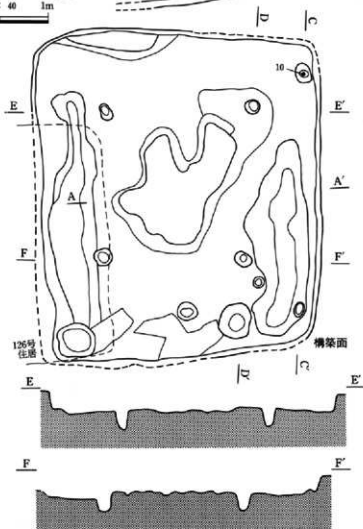
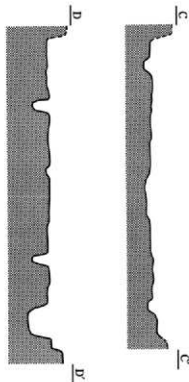
L = 87.50m

0 1 : 40 1m



126号住居

生活面

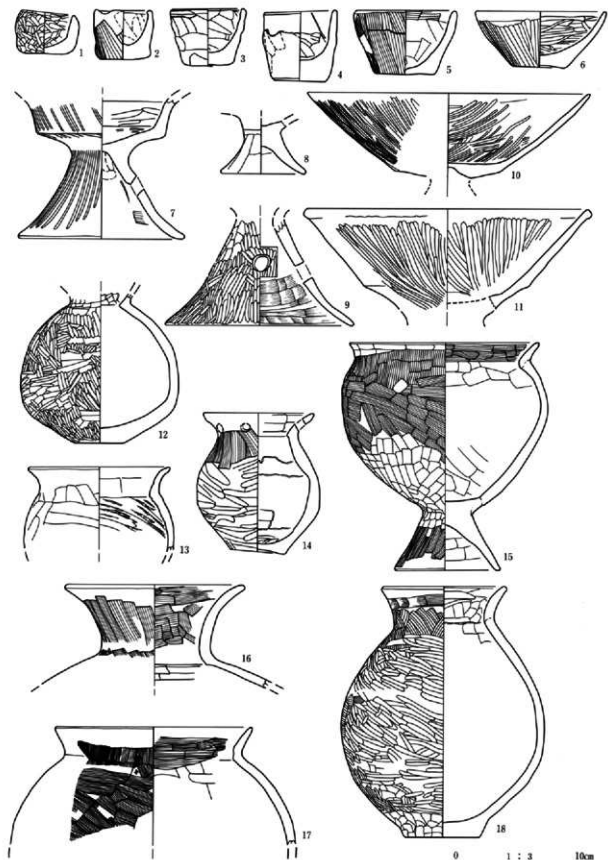


126号住居

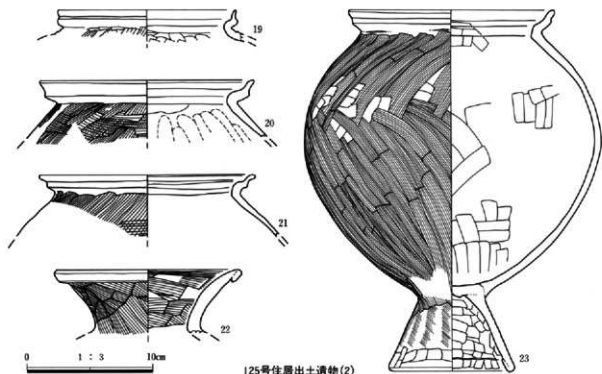
構築面

L = 87.80m
0 1 : 80 2m

125号住居



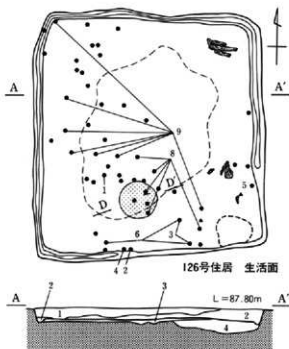
125号住居出土遺物(1)



125号住居出土遺物(2)

126号住居(PL.122・観察表34頁)

形状 長軸5.1m、短軸4.8mの整ったほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は東壁に沿った幅1.5mほどの範囲が住居の西側より深く掘り込まれる。この面に厚さ5cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。生活面は炉を含む住居の中央部分が踏み固められて硬い。住居北東隅と東壁際南側の床面直上に炭化材を検出したが、全体的には焼けた痕跡がない。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から南側に偏して直径70cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 幅15cm、深さ10cmで南東隅を除く各壁下に巡る。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した長軸75cm、短軸60cm、深さ20cmの方形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の甕・壺・脚付壺・鉢・高坏が出土。重複 住居の北東部で125号住居と重複。126住が125住を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 0° 面積 24.64㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



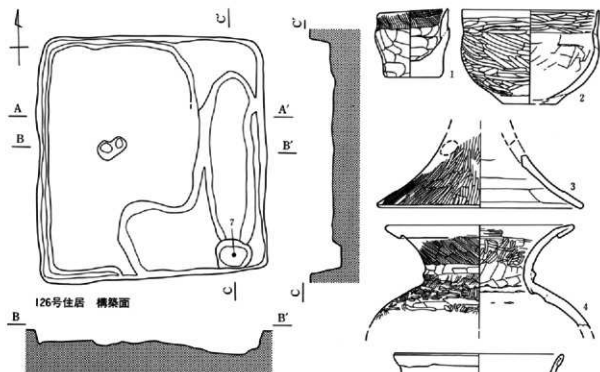
126号住居 生活面

126号住居

- 1 黒褐色シルト。非常に多量のAs-C粒を含む。
- 2 暗褐色シルト。多量のAs-C粒、ローム粒含む。
- 3 黄褐色土。暗褐色土とロームブロックの混土(貼床)。
- 4 黄褐色土。暗褐色土と多量のロームブロックの混土(貼床)。

0 1 : 80 2m

126号住居

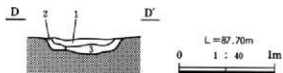


126号住居 横断面

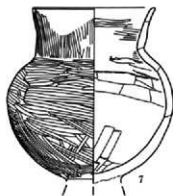
L=87.80m
0 1:80 2m

126号住居炉

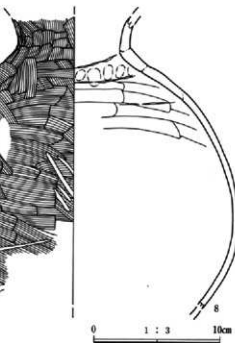
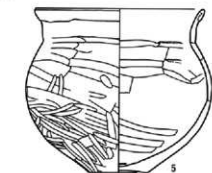
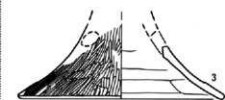
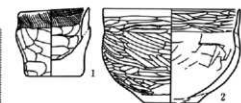
- 1 赤褐色土。焼土。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 3 黄褐色土。ローム主体で多量の黒色土粒含む。



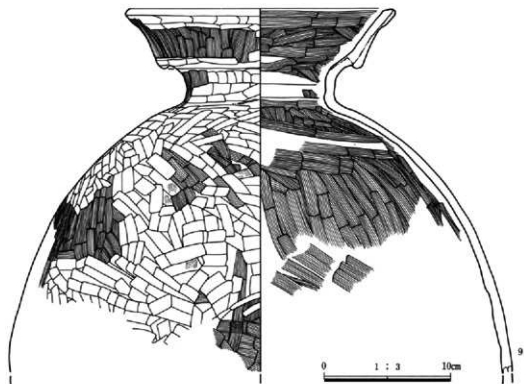
L=87.70m
0 1:40 1m



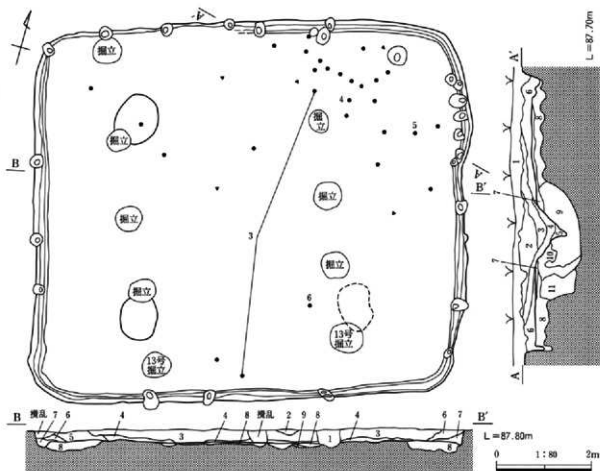
126号住居出土遺物(1)



0 1:3 10cm



126号住居出土物(2)

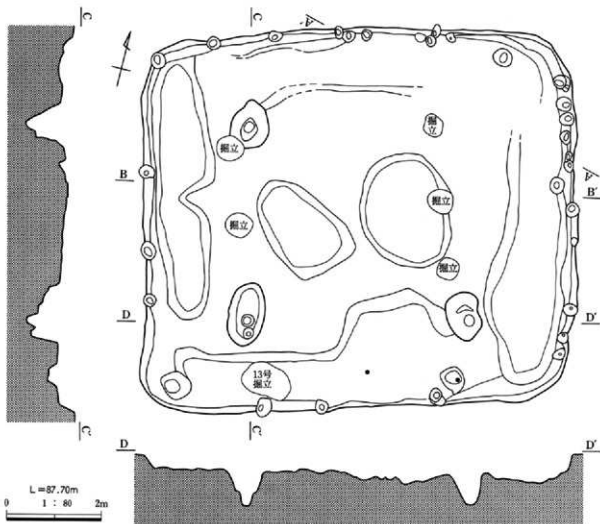


127号住居 生活面

127号住居 (Pl. 123・観察表35頁)

形状 長軸9.2m、短軸8.0mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、超大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面はほぼ柱穴を結ぶ線の外側が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この掘り込まれた部分を中心に厚さ20cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 構築面の段階も含めて住居のほぼ対角線上に3個の主柱穴を確認。北東に位置する柱穴は、重複する倒木痕の覆土と見分けがつかず未確認。この他に東壁に8個、西壁に4個、南壁に3個、北壁に5個の合計18個の壁柱穴を確認。これらは直径20~30cm、生活面からの深さ10~25cmで、壁を半円形状に掘り込む。各壁柱穴間は等間隔ではなく、壁を等分するこ

ともない。また、相対する壁間で対応する位置関係にもなく、その配置に規則性が認められない。炉 確認できない。壁溝 幅10~20cm、深さ10cmで北壁を除く各壁下に巡る。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・台付甕・高坏・器台、ガラス製小玉が出土。重複 13号掘立柱建物と重複。13掘立のピットが127住の柱穴覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。13掘立は覆土の状況から古墳時代前期のものと考えられる。方位 74° 面積 71.15㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。この住居は合計18個の壁柱穴を確認したが、この遺跡で壁柱穴の類別は11・32・102号住居。この住居を除く3軒はいずれも2~3個で、この住居のみやや特異。



127号住居 構築面

127号住居 A-A'

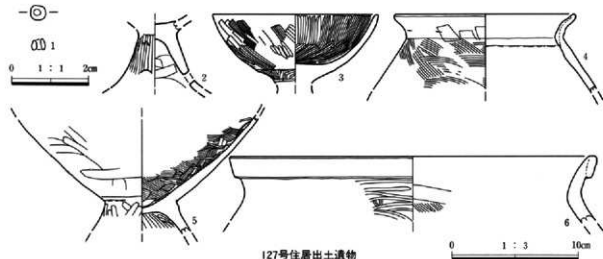
- 1 黄土。
- 2 暗褐色土。非常に多量のローム小ブロック、As-C粒を含む。
- 3 黒褐色土。多量のローム小ブロック、As-C粒を含む。
- 4 暗褐色土。少量のローム小ブロック、多量のローム粒を含む。
- 5 暗褐色土。3層に類似するがより多くローム粒を含む。
- 6 暗褐色土。少量のローム小ブロック、As-C粒を含む。
- 7 黒褐色土。非常に多量のローム小ブロック含む(貼床)。
- 8 暗褐色土。非常に多量のロームブロック、ローム粒を含む(貼床)。

例木直

- 9 黒褐色土。ローム小ブロック、少量のローム粒を含む。
- 10 黄褐色土。ローム主体で多量の黒色土粒を含む。
- 11 黄褐色土。ローム暗色帯起源。

127号住居 B-B'

- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、微量のローム粒を含む。13号獨立柱建物。
- 2 赤褐色土。焼土。多量のAs-C粒を含む。3層が焼土化?。
- 3 暗褐色土。非常に多量のAs-C粒、少量のローム粒を含む。
- 4 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒・小ブロックを含む。
- 5 暗褐色土。多量のAs-C粒、ローム粒、少量のローム小ブロックを含む。
- 6 黒褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム粒・小ブロックを含む。
- 7 黒褐色土。多量のローム粒・小ブロック、少量のAs-C粒を含む。
- 8 黄褐色土。ローム小ブロックと暗褐色土の混土(貼床)。
- 9 焼土。ロームが焼熟したものを。

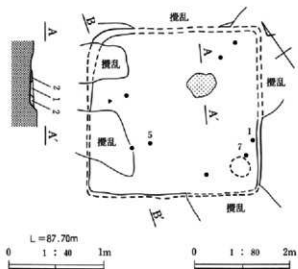


127号住居出土遺物

128号住居(PL.123・観察表35頁)

形状 長軸3.6m、短軸3.5mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体にほぼ平坦である。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して直径50cmほどの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した直径40cm、深さ30cmの円形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の壺・甗・埴・高坏・鉢が出土。重複 住居の西側で110号住居と重複。128住が110住を切って構築する土層断面の所見を得た。また、住居の南西側に近

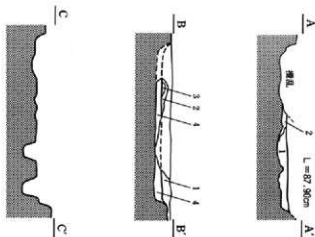
接する111住は平安時代のもの。方位 122° 面積 12.77㎡(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



128号住居 生活面

128号住居 B-B'

- 1 暗褐色土。As-C粒、多量のローム粒、少量のローム小ブロック含む。
- 2 黒褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム粒含む。
- 3 黒褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒含む。
- 4 貼床。

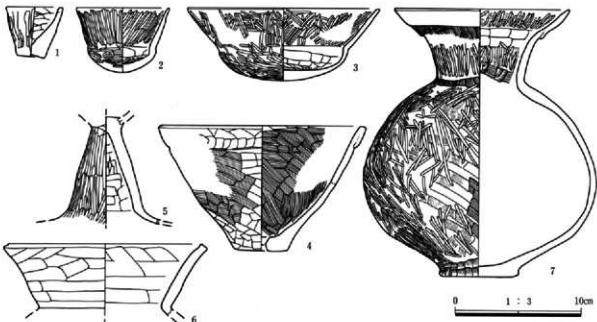


128号住居 A-A'

- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、ローム小ブロック含む(貼床)。
- 2 黄褐色土。ローム主体(貼床)。

128号住居F

- 1 赤褐色土。上面が燃焼面。
- 2 暗褐色土。ロームと暗褐色土の混土。

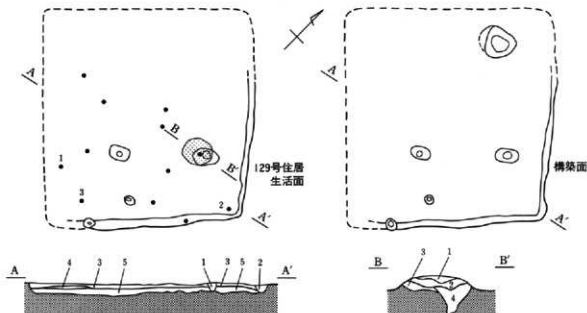


128号住居出土遺物

129号住居 (PL. 124・観察表35頁)

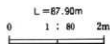
形状 住居の西半部が重複のため全形は確認できないが、土層断面から推定する規模は一辺4.5mのほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とし、この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。

炉 住居中央から南東側に偏した直形60cmほどの範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 不明。
遺物 土師器の台付壺・器台が出土。重複 住居の西側で108号住居と重複。129住が108住を切って構築する土層断面の所見を得た。方位 43° 面積 20.70㎡(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



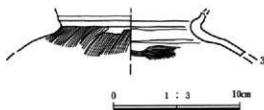
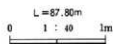
129号住居

- 1 黒褐色土。As-C粒含む。
- 2 暗褐色土。As-C粒、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土。多量のAs-C粒を均一に、少量のローム粒含む。
- 4 暗褐色土。ロームブロック主体で少量のAs-C粒含む。
- 5 暗褐色土。As-C粒は1層よりも少なく、少量のローム小ブロック含む(貼床)。



129号住居炉

- 1 暗褐色土。少量のAs-C粒、焼土粒含む。
- 2 赤褐色土。焼土。
- 3 暗褐色土。少量のローム小ブロック含む。
- 4 暗褐色土。ローム小ブロックと暗褐色土の覆土。



129号住居出土遺物

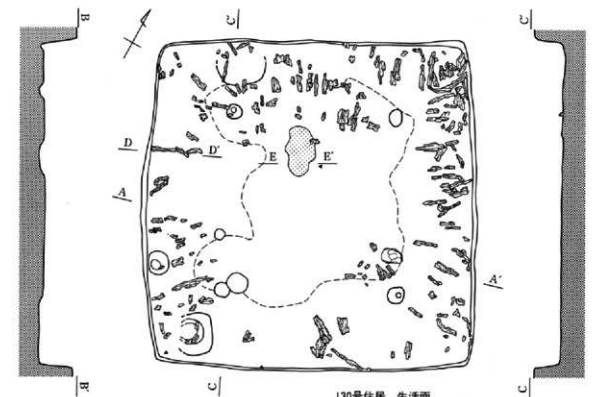
130号住居(PL.124・観察表36頁)

形状 一辺7.0mの整ったほぼ正方形を呈し、超大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を70cm掘り込んで構築面とする。構築面はほぼ4個の柱穴を結ぶ線の外側が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面を造る。生活面は全体に平坦で整っており、4個の柱穴を結ぶ線の内側が踏み固められて硬い。生活面では確認できなかったが、構築面で南壁をほぼ2等分する位置に、壁に直交する幅20cm、深さ10cm、長さ1.3mの浅い溝状の掘り込み1条を確認。同様な溝状掘り込

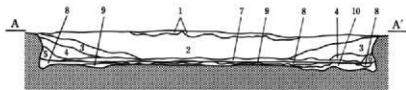
みの類例は45・46号住居に認められる。焼失 この住居は焼失住居で、住居の各壁際に壁に直交する位置で多量の垂木と考えられる炭化材と焼土を検出。これらの出土レベルは、住居中央部のものは床面に密着しているが壁際では床面からの位置が高く、炭化材の下位には自然堆積した住居の一次埋没土が認められる。一方、貯蔵穴の覆土には、上位に炭化材と焼土を含む層が堆積し、これは住居の炭化材と焼土の層に相当する。したがって、火災は住居の使用時ではなく、住居及び貯蔵穴の埋没過程のある時点のものと考えられる。柱穴 住居のほぼ対角線上

に4個を確認し、南東に位置する柱穴内には炭化した柱材が遺存していた他、他の柱穴にも柱痕を検出。貼床が柱痕の際まで及んでいることから、立柱後に貼床を施す。炉 住居中央から北側に偏して長軸1.0m、短軸60cmの楕円形の範囲に焼土を検出。壁

溝 無し。貯蔵穴 住居の南西隅に設置。一辺90cm、深さ70cmの正方形を呈す。遺物 土師器の甕・台付壺・瓶・高坏が出土。重複 単独で占地。方位 62° 面積 47.71㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。

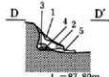


130号住居 生活面



130号住居 A-A'

- 1 灰褐色土。多量のAs-B含む。
- 2 暗褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 3 暗褐色土。As-C粒は2層より少なく、少量のローム粒含む。
- 4 黄褐色土。微量のAs-C粒、ローム小ブロック、多量のローム粒含む。
- 5 暗褐色土。少量のAs-C粒、微量のローム粒含む。
- 6 暗褐色土。多量の焼土粒、炭化物、ローム粒含む。
- 7 暗褐色土。少量のAs-C粒、炭化物含む。
- 8 暗褐色土。少量のAs-C粒、ローム粒含む(貼床)。
- 9 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土小ブロック含む(貼床)。
- 10 黄褐色土。9層に類似するが黒色土小ブロックの量が多い(貼床)。



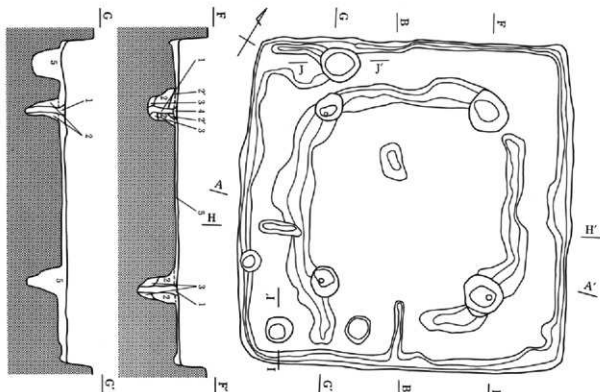
130号住居 D-D'

- 1 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量の炭化物(炭化材)含む。
- 2 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム粒、微量のローム大粒含む。
- 3 黄褐色土。多量のローム粒・大粒含む。
- 4 暗褐色土。微量のAs-C粒、少量のローム粒含む。
- 5 暗褐色土。多量のローム粒、炭化物、少量の焼土粒含む。

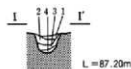


L=87.20m
0 1:40 1m

130号住居

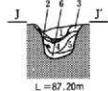


130号住居 構築面



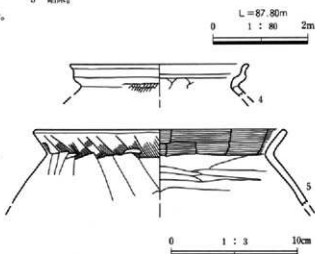
130号住居貯蔵穴 I-I'

- 1 暗褐色土。多量のローム粒。微量の炭化物含む。
- 2 暗褐色土。微量のローム大粒、少量のローム粒、炭化物含む。
- 3 暗褐色土。少量のローム粒、多量の焼土粒、炭化物含む。
- 4 暗褐色土。多量のローム粒、少量の炭化物含む。



130号住居貯蔵穴 J-J'

- 1 明褐色土。塊状のロームを少量含む。
- 2 焼土。
- 3 茶褐色土。
- 4 黒色土。粘性。
- 5 灰褐色土。ロームの含有量多い。
- 6 灰褐色土。



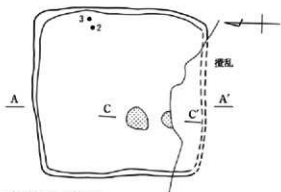
130号住居 F-F', G-G'

- 1 暗褐色土。ローム小ブロックと暗褐色土の混土(柱状)。
- 2 黄褐色土。ロームブロック主体。
- 2' 黄褐色土。ロームブロック主体で微量の暗褐色土ブロック含む。
- 3 暗褐色土。暗褐色土ブロックとロームブロックの混土。
- 4 暗褐色土。微量の焼土粒、炭化物含む。
- 5 粘床。

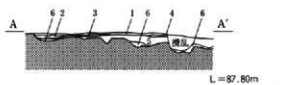
130号住居出土遺物

131号住居(PL.124・観察表36頁)

形状 長軸3.6m(推定)、短軸3.5mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁の壁際が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉

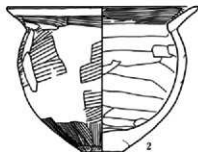
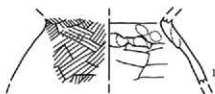


131号住居 生活面

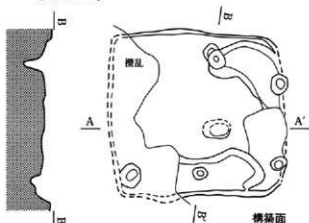


131号住居

- 1 黒褐色土。As-C粒を均一に含む。
- 2 黒褐色土。ローム細粒含む。
- 3 黄褐色土。
- 4 茶褐色土。ローム粒含む。
- 5 暗褐色土。多量のローム小ブロック、ローム粒含む(貼床)。
- 6 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒含む(貼床)。

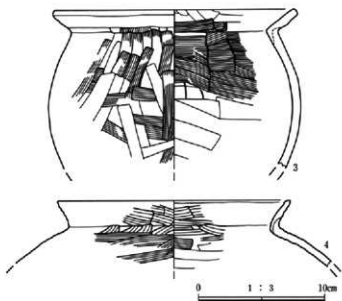


住居中央から南西側に偏して直径50cmほどの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕が出土。重複 住居の南側で106号住居と重複。重複部に攪乱を受けて、新旧関係を判定する資料を欠く。方位 161° 面積 12.48m²(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



131号住居伊

- 1 焼土。
- 2 黄褐色土。僅かに黒褐色土含む。
- 3 黒褐色土。ローム細粒含む。



131号住居出土遺物

133号住居 (PL.125・観察表36頁)

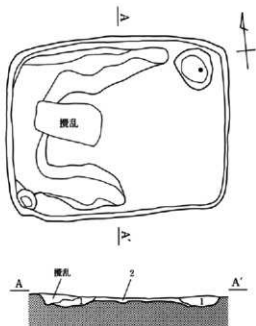
形状 長軸4.7m、短軸3.8mで長軸を東西にもつ整った長方形を呈し、中形長方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の西半部が東半部より深く掘り込まれる。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 生活面が削平されて確認できないため、確認できない。壁溝 不明。貯蔵穴 住居の北東隅に設置。直径80cm、深さ20cmの不整形円形を呈す。遺物 貼床内から土師器の器台が出土。重複 単独で占地。方位 94° 面積 16.97㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



133号住居出土遺物

134号住居 (PL.125・観察表36頁)

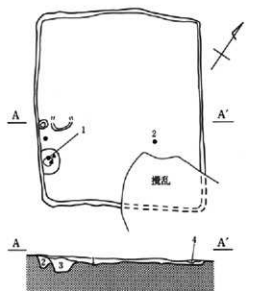
形状 住居の南東部は覆乱のため確認できないが、長軸4.2m、短軸3.6mで長軸を南北にもつ長方形を呈し、小形長方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の西半部が東半部よりやや深く掘り込まれるが、全体的にはほぼ平坦である。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。西壁際の中央部に直径40cm、深さ15cmほどのピットを確認。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 生活面が削平されて確認できないため、確認できない。壁溝 不明。貯蔵穴 住居の南西隅の壁際に設置。長軸50cm、短軸40cm、深さ25cmの円形を呈す。遺物 土師器の甕・小形甕が出土。重複 単独で占地。方位 146° 面積 14.30㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



133号住居

- 1 黒褐色土。多量のローム小ブロック含む(貼床)。
- 2 黄褐色土。ローム主体で少量の黒褐色土粒含む(貼床)。

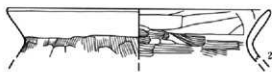
L = 87.90m
0 1 : 80 2m
133号住居 構築面



134号住居

- 1 灰褐色土。多量のAs-C粒含む(貼床)。
- 2 灰褐色土。一部に明褐色土、少量のAs-C粒含む(貼床)。
- 3 茶褐色土。塊状のロームを多量に含む(貼床)。
- 4 黒色土。As-C粒含む(貼床)。

L = 67.50m
0 1 : 80 2m
134号住居 構築面

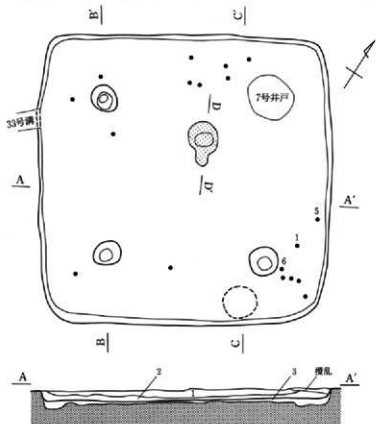


134号住居出土遺物

135号住居 (PL. 125・観察表36頁)

形状 長軸6.2m、短軸6.1mの整ったほぼ正方形を呈し、大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は柱穴を結ぶ線の外側が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。住居北側を東西に走行する溝は後世のもの。柱穴 住居のほぼ対角線上に3個を確認した。直径50cm、深さ70~80cmの単純円形掘り方を呈す。北東に位置する1個は重複する井戸に切られて確認でき

ない。炉 住居中央から北東側に偏した直径60cmの範囲に、焼土化した白色粘土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した直径70cm、深さ80cmの円形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の甕・台付甕・鉢・器台が出土。重複 住居の北東部で7号井戸と重複。7号井戸が住居を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 59° 面積 36.57㎡(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。

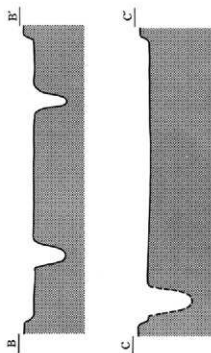


135号住居

- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム粒含む。
- 2 暗褐色土。少量のAs-C粒、ローム小ブロック含む。
- 3 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒含む(粘床)。

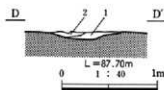
L=88.00m
1 : 80
2m

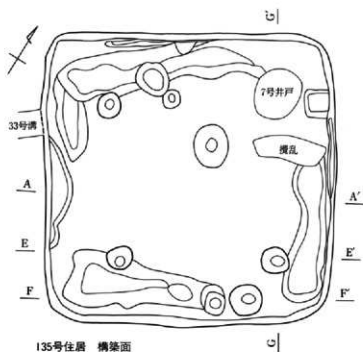
135号住居生活面



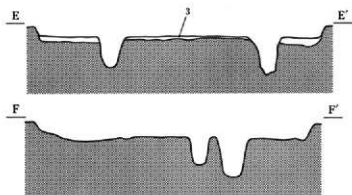
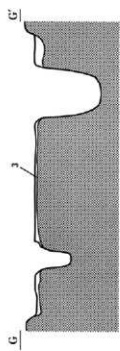
135号住居炉

- 1 白色粒土。多量の焼土粒含む。
- 2 赤色粒土。白色粒土が被熱したもの。

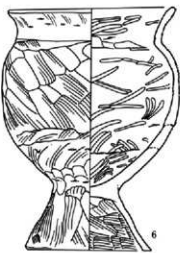
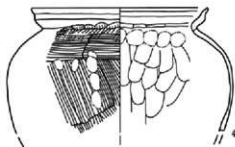
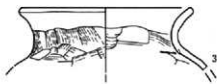
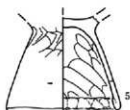




135号住居 構築面



L = 88.00m
1 : 80
0 2m



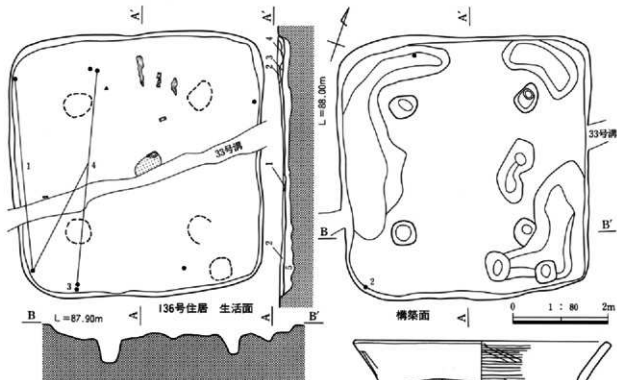
0 1 : 3 10cm

135号住居出土遺物

136号住居 (PL.126・観察表37頁)

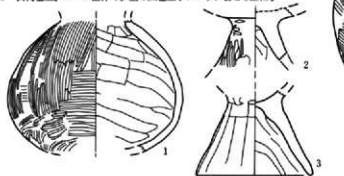
形状 長軸5.5m、短軸5.3mのほぼ正方形を呈し、大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んで構築面とする。構築面はほぼ4個の柱穴を結ぶ線の外側が住居の中央部よりやや深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。住居北側の床面直上に炭化材を検出したが、全体的には焼けた痕跡がない。住居中央側を東西に走行する溝は後世のもの。柱穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居のほぼ対角線上

に確認した4個のピットを柱穴と判断。炉 住居中央からやや南東側に偏して直径60cmほどの範囲に焼土を検出したが、南側の半分は重複する溝に切られる。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した一辺45cm、深さ40cm正方形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の壺・台付壺・壺・高坏が出土。重複単独で占地。方位 161° 面積 28.41㎡。所見出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



136号住居

- 1 暗褐色土。砂質でローム粒少量含む(33号溝覆土)。
- 2 暗褐色土。ややシルト質で少量のローム粒、As-C粒含む。
- 3 暗褐色土。ややシルト質で少量のローム粒、As-C粒、多量の炭化物含む。
- 4 暗褐色土。多量のローム粒、少量のロームブロック含む。
- 5 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土小ブロック含む(貼床)。

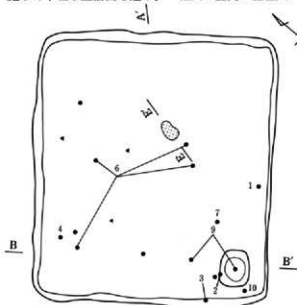


136号住居出土遺物

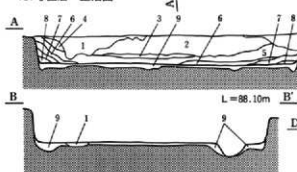
137号住居 (PL.127・観察表37頁)

形状 長軸5.7m、短軸5.1mで長軸を東西にもつ整った長方形を呈し、大形長方形に分類。床面 基盤のローム層を65cm掘り込んで構築面とする。構築面は北壁沿いの幅50cmほどの範囲がやや深く掘り込まれる他は平坦である。この面に厚さ5cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴

はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して長軸40cm、短軸20cmの楕円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南西隅に設置。長軸75cm、短軸60cm、深さ30cmの長方形を呈す。遺物 土師器の甕・台付甕・埴・高坏が出土。重複 単独で占地。方位 51° 面積 28.54m²。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。



137号住居 生活面

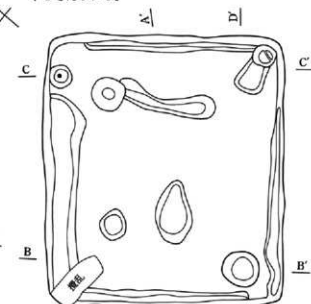


137号住居

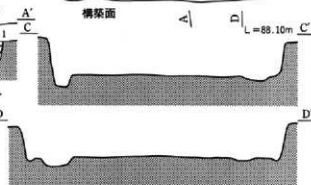
- 1 塵乱
- 2 黒褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 3 黒色土。少量のAs-C粒含む。
- 4 黒褐色土。少量のAs-C粒含む。
- 5 褐色土。少量のAs-C粒含む。
- 6 黒褐色土。少量のAs-C粒含む。
- 7 褐色土。ロームブロック含む。
- 8 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 9 暗褐色土。ローム主体で微量の黒色土粒含む(貼床)。

137号住居炉

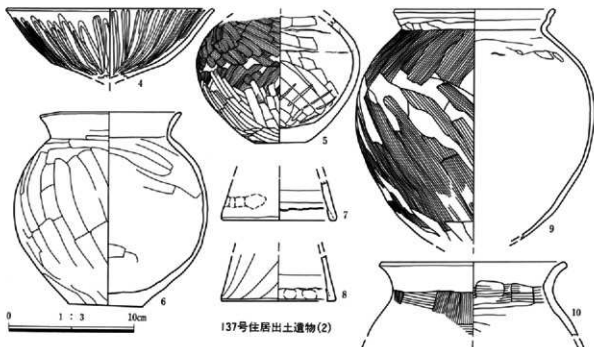
- 1 赤褐色土。焼土層。
- 2 暗褐色土。ローム暗色帯起源の土を主体とし、少量の焼土粒含む。



構築面

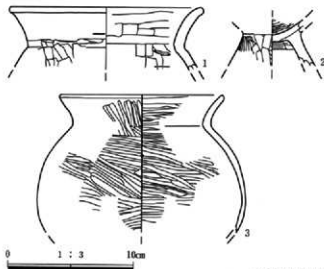
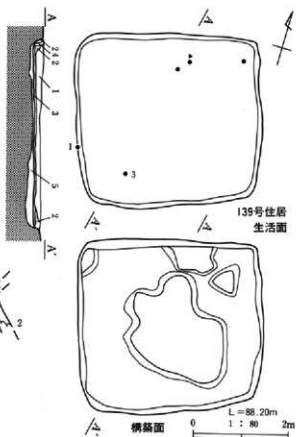


137号住居出土遺物(1)



139号住居 (PL.126・観察表39頁)

形状 長軸3.9m、短軸3.7mのほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を25cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が島状にやや高く掘り残される。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 確認できない。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・台付甕が出土。重複 単独で占地。方位 72° 面積 13.58m²。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



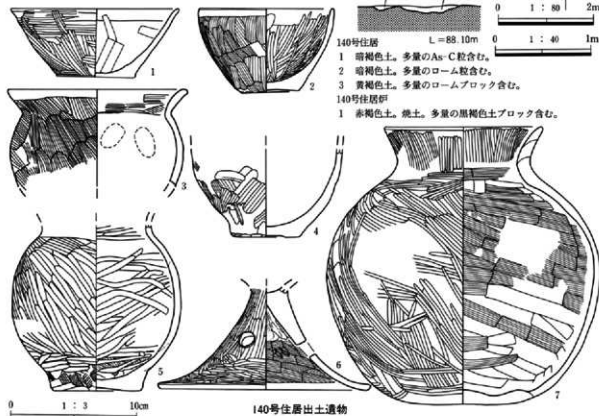
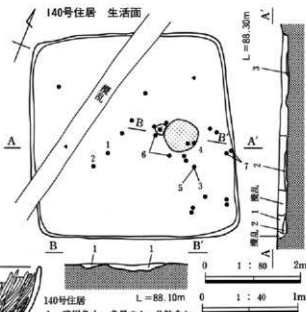
139号住居

- 1 暗褐色土。As-C粒、少量のローム含む。
- 2 暗褐色土。少量のローム、As-C粒含む。
- 3 暗黄褐色土。多量のローム、As-C粒含む。
- 4 暗褐色土。根による擾乱。
- 5 黄褐色土。ローム主体で多量の黒色土ブロック含む(貼床)。

139号住居出土遺物

140号住居(PL.130・観察表39頁)

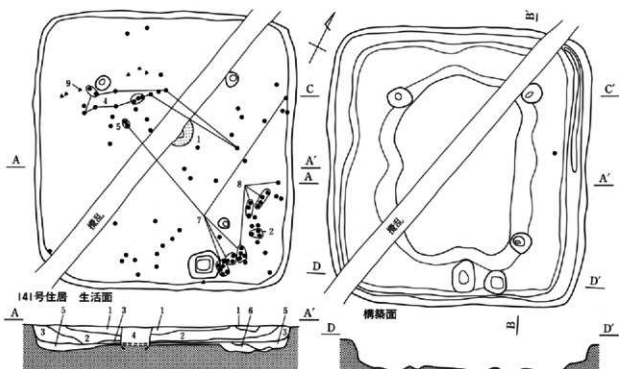
形状 一辺4.3mの整ったほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んでそのまま生活面とする。生活面は全体に平坦で整っている。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から東側に偏して直径70cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の壺・甕・鉢・高坏が出土。重複 単独で占地。方位 155° 面積 18.04㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



141号住居(PL.131・観察表39頁)

形状 長軸5.8m、短軸5.5mの整ったほぼ正方形を呈し、大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を35cm掘り込んで構築面とする。構築面は柱穴を結ぶ線の外側が住居の中央部より深く掘り込まれる。この深く掘り込まれた部分を中心に厚さ15cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。住居の北東隅から南西隅にかけて攪乱を受ける。柱穴 住居のほぼ対角線上に3個を確認した。直径30cm、深さ40~50cm

の単純円形掘り方を呈す。南西に位置する1個は攪乱内。炉 住居中央からやや北東側に偏して直径60cmほどの円形の窪みを確認し、この中央部に焼土を検出するが、西側半分は攪乱を受ける。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸65cm、短軸55cm、深さ60cmの長方形を呈す。遺物 土師器の台付甕・壺・鉢・高坏・器台が出土。重複 単独で占地。方位 155° 面積 31.01㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。



141号住居 生活面

構築面

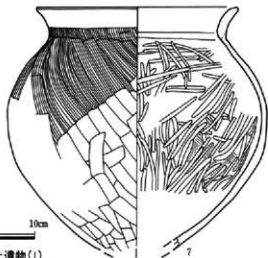
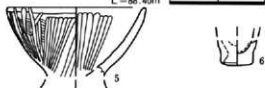
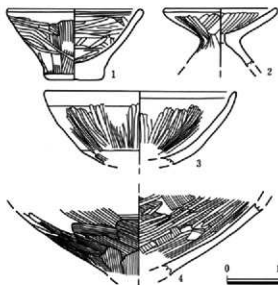
L=86.50m

141号住居

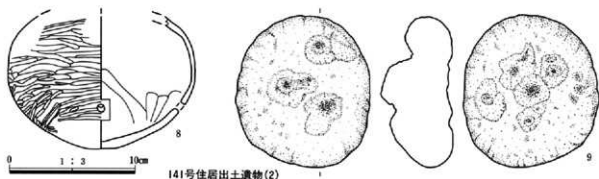
- 1 黄褐色土。少量のAs-C粒、ローム粒含む。
- 2 明黄褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒含む。
- 3 暗黄褐色土。少量のAs-C粒、ローム含む。
- 4 攪乱。
- 5 暗黄褐色土。少量のAs-C粒、ロームブロック含む(貼床)。
- 6 黒色土。多量のAs-C粒、ロームブロック含むロームと黒色土の混土(貼床)。

L=88.40m

0 1 : 80 2m



141号住居出土遺物(1)

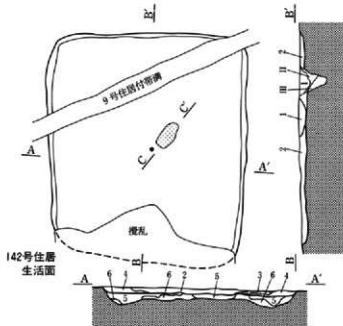


141号住居出土遺物(2)

142号住居(PL.132)

形状 長軸4.4m(推定)、短軸4.2mのほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。覆土 住居一次埋没土の上位に浅間C軽石(As-C)がレンズ状に一次堆積。床面 基盤のローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁の壁際が住居の中央部より深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から東側に偏して長軸60cm、短軸30cmの楕円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 実測可能な遺物はない。重複 9号住居の付

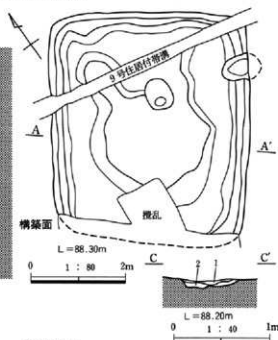
帯溝と重複。付帯溝がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。方位 38° 面積 18.30㎡(推定)。所見 覆土内の土師器片及びAs-Cの堆積状況から古墳時代前期前半と考えられる。この住居にはAs-Cが一次堆積することからAs-C降下以前の構築で、この遺跡の古墳時代の住居では最古段階に属す。一方、この住居は9号住居の付帯溝に切られている。このことから、9号住居のAs-Cとの前後関係を証明する実証的な資料はないが、少なくともこの遺跡での最古段階の住居より新しいものと判断できる。



142号住居
生活面

142号住居

- 1 暗褐色土。多量のローム小ブロック、As-C粒含む。
- 2 黒褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 3 As-C。純層に近い層。
- 4 黒褐色土。少量のローム粒含む。
- 5 暗褐色土。多量のロームブロック、少量のAs-C粒含む(貼床)。
- 6 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒含む(貼床)。



141号住居切

- 1 赤褐色土。焼土層。
- 2 黄褐色土。ローム主体で少量の焼土粒、黒色土粒含む。

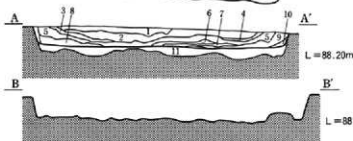
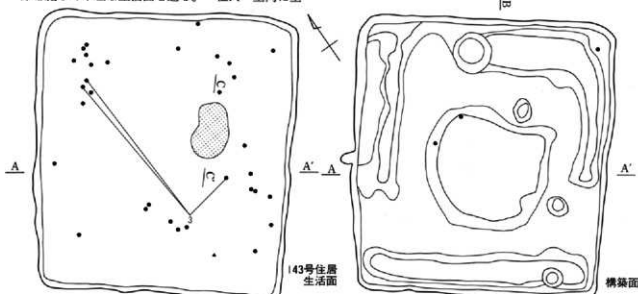
9号住居付帯溝

- I 暗褐色土。少量のローム小ブロック、As-C粒含む。
- II 黒褐色土。少量のローム小ブロック、As-C粒含む。
- III 黒褐色土。少量のローム小ブロック含む。

143号住居 (Pl. 132・観察表40頁)

形状 長軸5.8m、短軸5.4mのほぼ正方形を呈し、大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を55cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁の壁際が幅80cmほどの範囲で住居の中央部より深く掘り込まれる。この面に厚さ15cmの浅間C経石(As-C)粒を含む貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に主

柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から東側に偏して長軸1.2m、短軸70cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・台付甕・器台が出土。重複 単独で占地。方位 36° 面積 31.68㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。

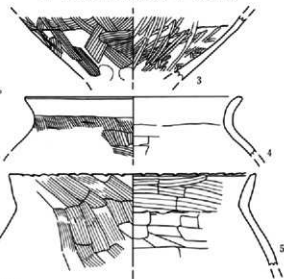


143号住居切

- 1 赤褐色土。焼土層。
- 2 黒褐色土。少量の焼土粒、ローム粒含む。

143号住居

- 1 褐色土。シルト質で少量のAs-C粒、多量のローム小ブロック含む。
- 2 黒褐色土。粘土質のシルト。多量のAs-C粒、少量のローム小ブロック含む。
- 3 褐色土。シルト質。非常に多量のAs-C粒、多量のローム小ブロック含む。
- 4 黒褐色土。粘質の強いシルト。少量のAs-C粒、少量のローム粒子含む。
- 5 黄褐色土。粘土質の強いシルト。微量のAs-C粒、多量のローム小ブロック含む。
- 6 黒褐色土。粘土質のシルト。微量のAs-C粒、少量のローム小ブロック含む。
- 7 暗褐色土。シルト質。微量のAs-C粒、少量のローム小ブロック含む。
- 8 黒色土。多少粘土質のあるシルト。微量のAs-C粒、少量のローム粒子含む。
- 9 黒色土。多少粘土質のシルト。微量のAs-C粒、多量のローム粒子含む。
- 10 黒褐色土。シルト質。微量のAs-C粒、ローム粒子含む。
- 11 黒褐色土。ロームとAs-C粒を少量含む黒色土の羅土(貼床)。



143号住居出土遺物

144号住居 (PL.132・観察表40頁)

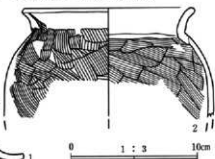
形状 住居の南西隅と北東隅に攪乱を受けるが、長軸3.2m、短軸2.9mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、小形長方形に分類。床面 基盤のローム層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体にほぼ平坦である。この面に厚さ10cmの浅間C軽石(As-C)粒を含む貼床を施して平坦な生活面を造る。



柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北東側に偏して直径50cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・高坏が出土。重複 単独で占地。方位 132° 面積 9.43㎡(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。

144号住居

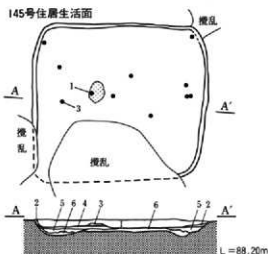
- 1 暗褐色土。少量のAs-C粒含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 3 赤褐色土。非常に多量の焼土粒含む。
- 4 暗褐色土。非常に多量のローム粒含む。
- 5 焼土(炉)。
- 6 黒褐色土。As-C粒、ロームブロック含む(貼床)。
- 7 暗褐色土とロームの混土(貼床)。



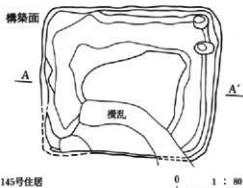
144号住居出土遺物

145号住居 (PL.132・観察表40頁)

形状 住居の南側に攪乱を受けるが、長軸3.8m、短軸3.3m(推定)で長軸を東西にもつ長方形を呈し、小形長方形に分類。床面 基盤のローム層を25cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁の壁際が幅70cmほどの範囲で住居の中央部より深く掘り込まれる。この面に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造

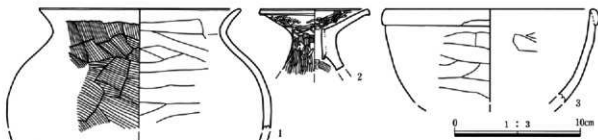


る。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から北西側に偏して長軸50cm、短軸30cmの範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 無し。遺物 土師器の甕・鉢・器台が出土。重複 単独で占地。方位 92° 面積 11.75㎡(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



145号住居

- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 3 黒褐色土。多量の焼土粒含む。
- 4 黄褐色土。ローム主体で多量の黒色土ブロック含む(貼床)。
- 5 黄褐色土。4層に類似するが黒色土ブロックを多く含む(貼床)。
- 6 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色粒含む(貼床)。

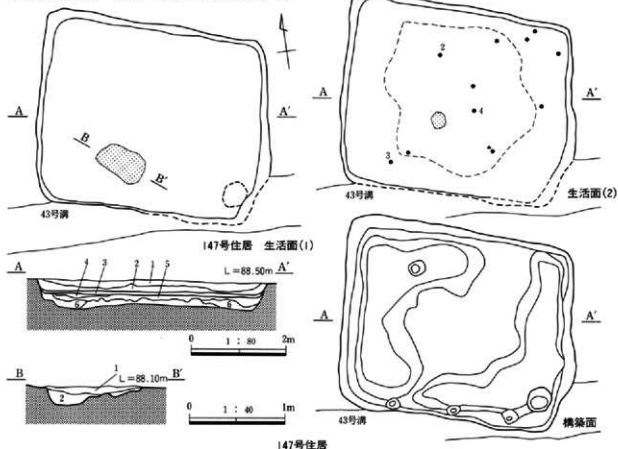


145号住居出土遺物

147号住居 (PL. 133・観察表40頁)

形状 住居の南側を後世の溝に切られるが、長軸5.0m、短軸3.9mで長軸を東西にもつ長方形を呈し、中形長方形に分類。床面 基盤のローム層を40cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が島状に高く掘り残される。この面に貼床を施して平坦な生活面を造るが、貼床は貼り直しが認められ2面の生活面を検出。下位の生活面は構築面の凹凸を埋めるように厚さ10cmの貼床を施し、上位の生活面は厚さ5cmの貼床を均一に施す。いずれの面も平坦で整い、上位の生活面は炉を含む住居の中央部が踏み固められて硬い。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁

外柱穴も確認できない。炉 下位の生活面では住居中央から南西側に偏して長軸1.0m、短軸50cmの楕円形状の範囲に焼土を検出。上位の生活面でも住居中央から南西側に偏して直径30cmの円形の範囲に焼土を検出するが、その量は極めて少ない。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した直径50cm、深さ50cmの円形ピットを下位の生活面に伴う貯蔵穴と判断。遺物 土師器の甕・台付甕・鉢が出土。重複 単独で占地。方位 106° 面積 19.21㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期中葉と考えられる。



147号住居

147号住居

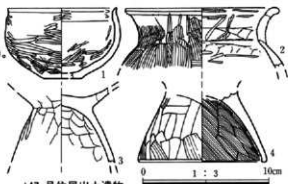
- 1 黄褐色土。多量のAs-C粒、少量のロームブロック含む。
- 2 暗黄褐色土。多量のAs-C粒、少量のロームブロック含む。
- 3 暗褐色土。ロームと黒色土との混土で、多量のAs-C粒含む(貼床)。
- 4 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒、As-C粒含む(貼床)。
- 5 黒褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム粒含む(貼床)。
- 6 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土ブロック含む(貼床)。

147号住居 炉

- 1 赤褐色土。焼土層。
- 2 暗褐色土。As-C粒、ローム粒、少量の焼土粒含む。

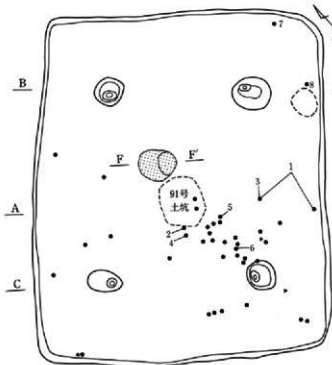
148号住居 (PL.133・観察表40頁)

形状 長軸7.4m、短軸6.2mで長軸を南北にもつ長方形を呈し、超大形長方形に分類。覆土 住居の一次埋没土の上位に浅間C経石(As-C)がブロック状に一次堆積。床面 基盤のローム層を40cm掘り込んで構築面とする。構築面はほぼ4個の柱穴を結ぶ線の外側に住居の中央部より深く掘り込まれる。この面にAs-C粒を含まない厚さ15cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。住居の中央部を古式土師器を伴う土坑が切る。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を確認した。直径50~70cm、深さ50~60cmの円形掘り方を呈す。炉 住居中央から北側に偏して直径70cmの円形の範囲に焼土を検出。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で

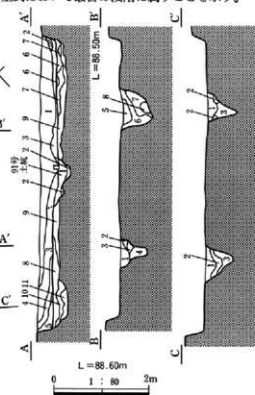


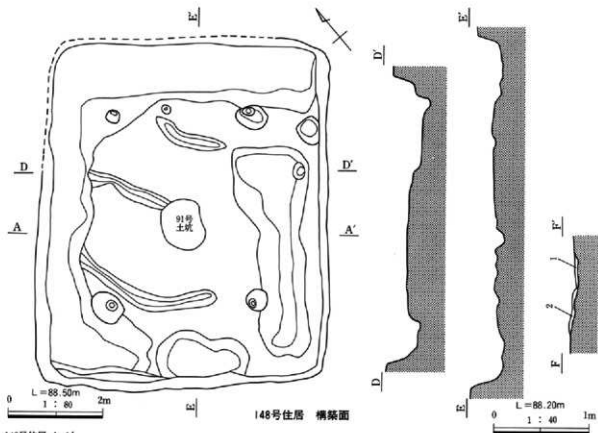
147号住居出土遺物

住居の北東隅に確認した直径50cm、深さ40cmの円形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の小形壺・台付壺・壺・器台・高坏が出土。重複 単独で占地。方位 41° 面積 44.63㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期前半と考えられる。この住居は覆土内にAs-Cが一次堆積していることからAs-C降下以前の構築で、この遺跡で同様な類例は142・150号住居の合計3軒である。一方、この遺跡の低地部からはAs-Cの下位から古式土師器が出土しているが、これらはAs-Cが堆積した住居に伴出する古式土師器の型式に一致し、両者が対応関係にあることを示すとともに、この遺跡の古墳時代では層位及び土器型式において最古の段階に属することを示す。



148号住居 生活面





148号住居 概観図

148号住居 A-A'

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒を含む。
- 2 As-C。純層に近い層。
- 3 暗褐色土。多量のローム小ブロック、As-C粒を含む。
- 4 黒褐色土。ローム粒、少量のAs-C粒を含む。
- 5 暗褐色土。多量のローム小ブロック、ローム粒、少量As-C粒を含む。
- 6 暗褐色土。少量のローム粒を含む(貼床)。
- 7 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土ブロック含む(貼床)。
- 8 暗褐色土。多量のロームブロック含む(貼床)。
- 9 暗褐色土。8層に類似するがロームブロックを多く含む(貼床)。
- 10 暗褐色土。9層よりさらに多くロームブロック含む(貼床)。
- 11 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒を含む(貼床)。

148号住居 C-C'

- 1 暗褐色土。多量のローム小ブロック、As-C粒を含む。
- 2 黒褐色土。少量のローム小ブロック含む。
- 3 黒褐色土。微量のローム粒を含む。

148号住居炉

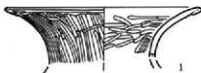
- 1 赤褐色土。焼土層。
- 2 暗褐色土。白色粘土層とロームとの混土。

91号土坑

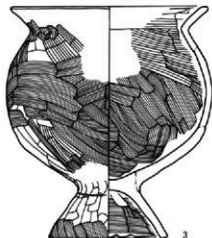
- 1 暗褐色土。多量のロームブロック、As-C粒を含む。
- 2 暗褐色土。1層に類似するがロームブロックを多く含む。

148号住居 B-B'

- 1 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム小ブロック含む。
- 3 暗褐色土。2層に類似するがローム小ブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
- 5 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
- 6 黄褐色土。非常に多量のロームブロック含む。
- 7 暗褐色土。多量のローム小ブロック、As-C粒を含む。
- 8 黄褐色土。ローム主体で少量の黒色土粒を含む。

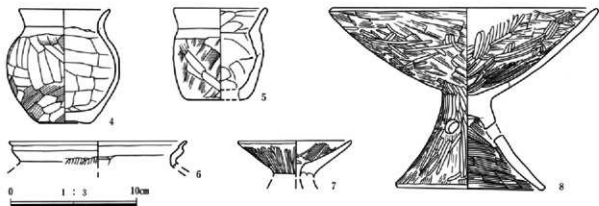


2

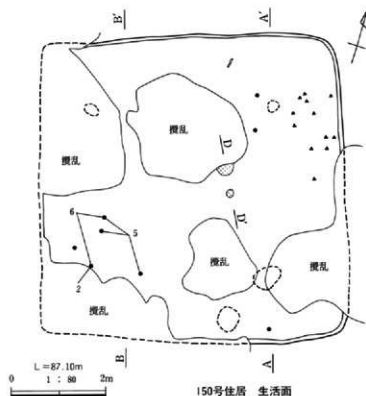


3

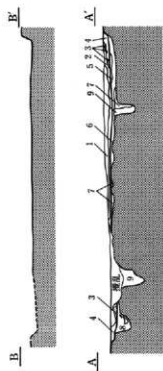
148号住居出土遺物(1)



148号住居出土遺物(2)



150号住居 生活面



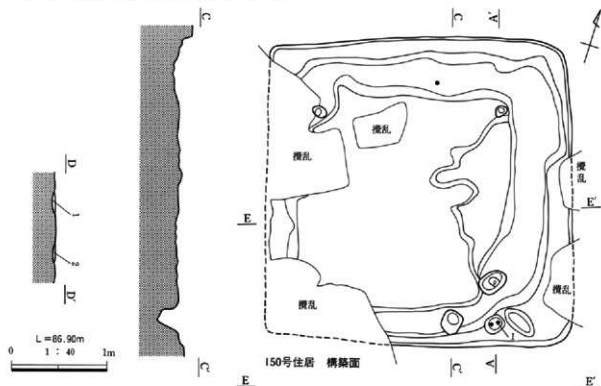
150号住居 (PL.134・観察表41頁)

形状 住居の西側に攪乱を受けるが、一辺6.5mのほぼ正方形を呈し、超大形正方形に分類。覆土 住居の一次埋没土の上位に浅間C軽石(As-C)がブロック状に一次堆積。床面 床面の多くの部分に攪乱を受けるが、基盤のローム層を15cm掘り込んで構築面とする。構築面は柱穴を結ぶ線の外側が住居の中央部より深く掘り込まれる。この深く掘り込まれた部分を中心に厚さ10cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 生活面では確認できなかったが、

構築面で住居のほぼ対角線上に3個を確認。構築面で直径20~50cm、深さ50~60cmの単純円形掘り方を呈す。炉 住居中央から東側に偏して直径30cmほどの範囲に焼土を検出するが、北側の半分は攪乱を受けて確認できない。壁溝 無し。貯蔵穴 生活面では確認できなかったが、構築面で住居の南東隅に確認した直径50cm、深さ45cmの不整円形ピットを貯蔵穴と判断。遺物 土師器の壺・台付壺・壺が出土。重複 単独で占地。方位 162° 面積 41.02㎡(推定)。所見 出土遺物から古墳時代前期

前半と考えられる。この住居は覆土内にAs-Cが一次堆積していることからAs-C降下以前の構築で、この遺跡で同様な類例は142・148号住居の合計3軒である。一方、この遺跡の低地部からはAs-Cの下位から古式土師器が出土しているが、これらはAs-Cが一次堆積した住居に伴出する古式土師器の型式に一致し、両者が対応関係にあることを示すとともに、

この遺跡の古墳時代では層位及び土器型式において最古の段階に属することを示す。したがって、この段階が集落の開始時期であるとともに、低地部開発の開始時期を示す。なお、As-Cが一次堆積したこれらの住居は集落の東縁に位置し、なおかつ集落の東側の低地部に最も近接した位置に立地する。

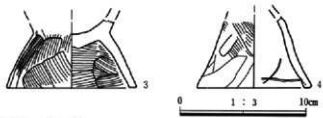
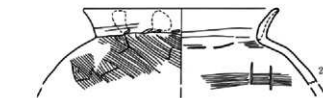
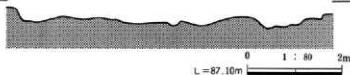


150号住居

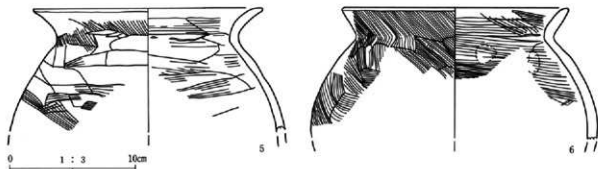
- 1 暗褐色土。少量のローム粒、As-C粒含む。
- 2 黒褐色土。多量のAs-C粒、少量の炭化物粒含む。
- 3 As-C。純層に近い層。
- 4 黒褐色土。少量のローム粒含む。
- 5 暗褐色土。多量のローム小ブロック含む(貼床)。
- 6 暗褐色土。非常に多量のローム小ブロック含む(貼床)。
- 7 暗褐色土。非常に多量のローム小ブロック含む。
- 8 黒褐色土。少量のローム小ブロック含む。
- 9 暗褐色土。多量のローム粒含む。

150号住居印

- 1 赤褐色土。焼土主体。
- 2 暗褐色土。多量の炭土粒含む。



150号住居出土遺物(I)

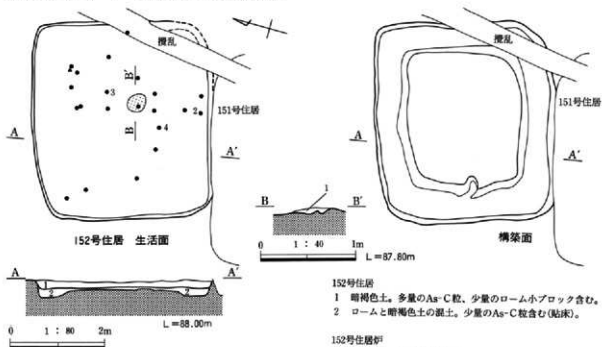


150号住居出土遺物(2)

152号住居 (PL.134・観察表41頁)

形状 住居の南東部に擾乱を受けるが、長軸4.2m、短軸3.9mの整ったほぼ正方形を呈し、小形正方形に分類。床面 基盤のローム層を15cm掘り込んで構築面とする。構築面は各壁の壁際が幅60cmほどの範囲の溝状に住居の中央部より深く掘り込まれる。この深く掘り込まれた部分を中心に厚さ20cmの貼床を施して生活面を造る。生活面は全体に平坦でよく整っている。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 住居中央から南東側に偏し

て直径40cmの円形の範囲に、強く焼けた痕跡を示す焼土を検出。壁溝無し。貯蔵穴無し。遺物 土師器の台付甕・高環が出土。重複 住居の南側で151号住居と重複。151住が152住を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 74° 面積 15.29㎡。所見 出土遺物から古墳時代前期後半と考えられる。この住居は壁内に支柱穴がなく規模も小さい部類に属すが、こうした住居は古墳時代前期でも新しい段階に属す傾向にあるようだ。



152号住居

- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム小ブロック含む。
- 2 ロームと暗褐色土の混土。少量のAs-C粒含む(貼床)。

152号住居炉

- 1 赤褐色土。多量の焼土含む。



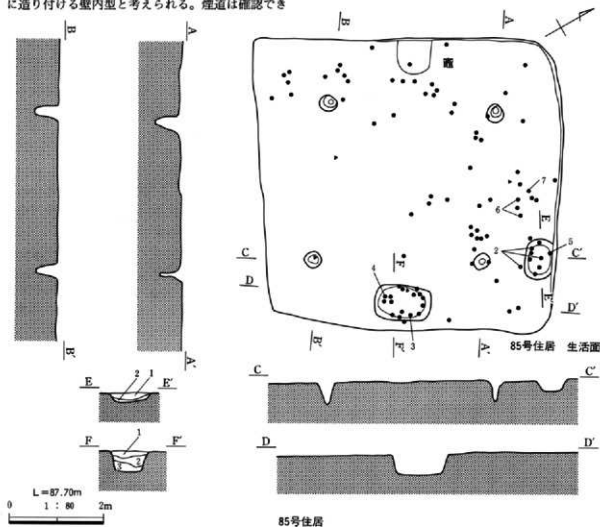
152号住居出土遺物

3 古墳時代後期の竪穴住居

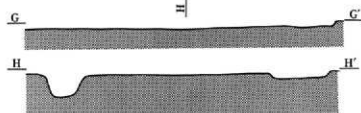
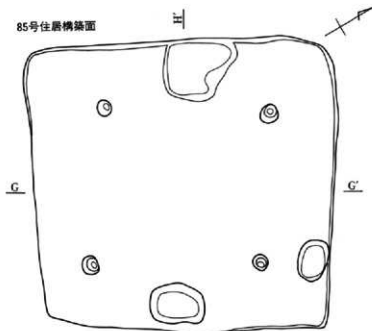
85号住居 (PL. 87・観察表25頁)

形状 長軸6.4m、短軸6.2mのほぼ正方形を呈し、大形正方形に分類。床面 基盤のローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体にほぼ平坦である。この面に貼床を施して生活面を造るが、全体に掘り込みが浅いため生活面は削平されて確認できない。したがって、生活面として図示した平面図は、生活面と構築面の中間、つまり貼床の中位のもの。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を確認した。直径30cm、深さ50cmの単純円形掘り方を呈す。竈 西壁の中央部に設置する。住居の掘り込みが浅いため袖部は確認できないが、火床の部分に焼土と粘土を検出。火床と壁の位置的な関係から、燃焼部を壁内に造り付ける壁内型と考えられる。煙道は確認でき

ない。壁溝 無し。貯蔵穴 住居の東壁中央と北東隅の2箇所に設置。東壁中央のものは長軸115cm、短軸75cm、深さ40cm、北東隅のものは長軸90cm、短軸55cm、深さ20cmでいずれも長方形を呈す。遺物 土師器の甕・坏が出土。重複 単独で占地。方位 27° 面積 38.16㎡。所見 出土遺物から古墳時代後期初頭と考えられる。この遺跡で確認した古墳時代後期の住居は、この住居と104号住居の2軒のみでいずれも後期初頭に属す。一方、この遺跡の低地部からは極名二ツ岳波川テフラ(Hr-FA)の直下から土師器と須恵器が出土しているが、2軒の伴出土器の型式はこの土師器と須恵器に一致し、両者が対応関係にあることを示す。



85号住居構築面



0 1 : 80 2m L=87.70m

85号住居 E-E'

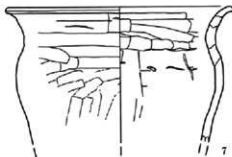
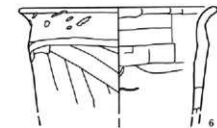
- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒含む。



0 1 : 3 10cm

85号住居 F-F'

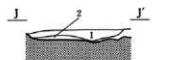
- 1 黒褐色土。少量のローム粒、As-C粒含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム小ブロック含む。
- 3 暗褐色土。2層に類似するがより多くロームブロック含む。



85号住居出土遺物



竈構築面



L=87.70m
0 1 : 40 1m

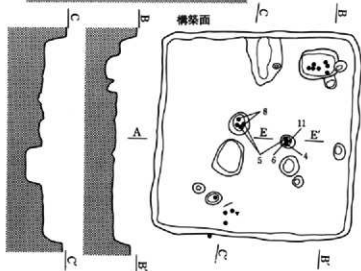
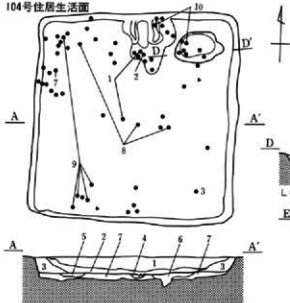
85号住居竈

- 1 暗褐色土。多量の灰白色粘土大粒、ローム粒、焼土大粒含む。
- 2 黄褐色土。ローム主体。

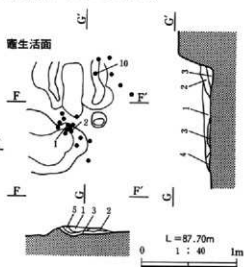
104号住居 (PL. 102・観察表29頁)

形状 長軸4.4m、短軸4.3mのほぼ正方形を呈し、中形正方形に分類。床面 基盤のローム層を50cm掘り込んで構築面とする。構築面は小さな凹凸が多いが全体的にはほぼ平坦で、住居の中央から南西側に長軸80cm、短軸50cm、深さ30cmの床下土坑を確認した。この他に住居中央から西側に直径40cm、深さ10cmの円形土坑、東側に直径25cm、深さ40cmの円形土坑があり、それぞれ内部から土師器が出土し、東側のものの底面には小形の甕が埋め込まれる。この面に厚さ15cmの貼床を施して平坦な生活面を造る。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。竈 北壁の中央部に設置。残存状態が悪いが、

104号住居生活面



燃焼部は幅40cm、奥行き50cmで、袖部を壁内に造り付ける壁内型を呈す。煙道は確認できない。壁溝無し。貯蔵穴 住居の北東隅に設置。長軸80cm、短軸65cm、深さ20cmの長方形を呈す。遺物 土師器の壺・小形壺・甕・環が出土。重複 単独で占地。方位 0° 面積 18.71㎡。所見 出土遺物から古墳時代後期初頭と考えられる。この遺跡で確認した古墳時代後期の住居は、この住居と85号住居の2軒のみでいずれも後期初頭に属す。一方、この遺跡の低地部からは様名二ツ岳波川テフラ(Hr-FA)の直下から土師器と須恵器が出土しているが、2軒の伴出土器の型式はこの土師器と須恵器に一致し、両者が対応関係にあることを示す。



104号住居

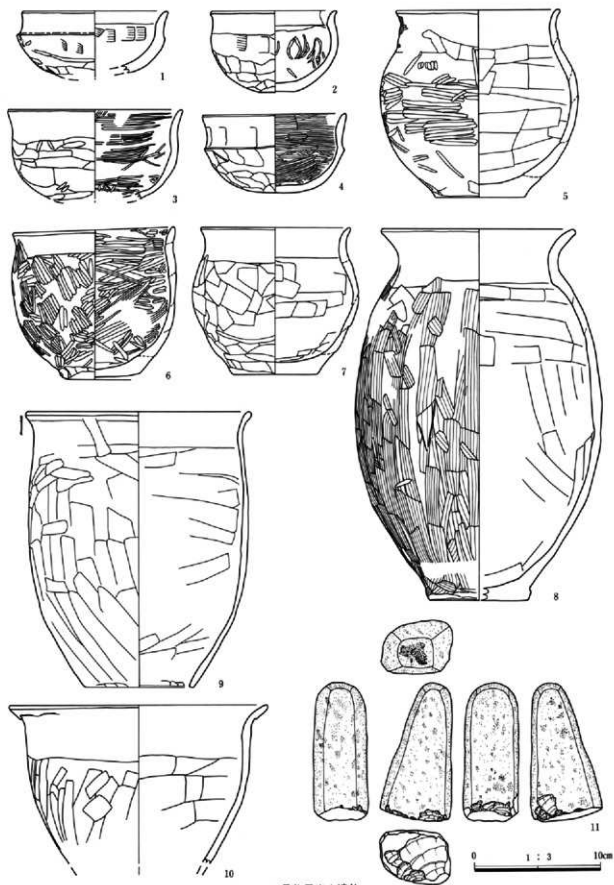
- 1 黒褐色土。As-C粒を均一に含む。
- 2 茶褐色土。As-C粒を僅かに含む。
- 3 茶褐色土。As-C粒が点在。
- 4 黒褐色土(貼床)。
- 5 灰褐色土。ロームブロックが点在(貼床)。
- 6 茶褐色土。貼床。
- 7 黄褐色土。貼床。

104号住居竈

- 1 黒褐色土。焼土を均一に含む。
- 2 灰褐色土。粘土質。
- 3 黒褐色土と黄褐色土の混土。
- 4 黒褐色土。
- 5 焼土。

104号住居貯蔵穴

- 1 黒褐色土。
- 2 茶褐色土。
- 3 茶褐色土。粘土質。

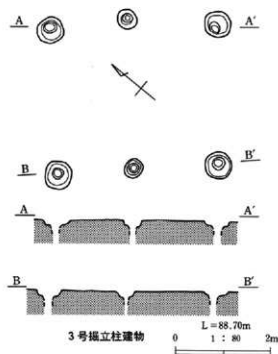


104号住居出土遺物

4 掘立柱建物

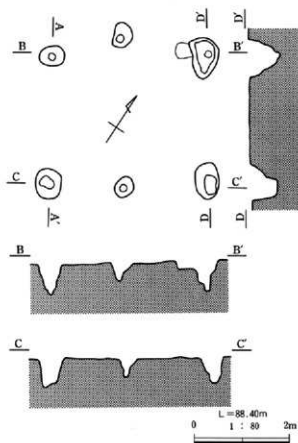
3号掘立柱建物 (PL. 154)

形状 柱間は1間×2間で、芯々を結ぶと長軸3.5m、短軸3.0mの長軸を南北にもつ整った長方形を示す。**柱穴** 直径30~40cmの円形掘り方の中に、直径15cmほどの柱痕を検出(土層図を紛失したため、平面精査で柱痕確認時の平・断面図のみ掲載)。覆土根固め土及び柱痕覆土は黒色土で、いずれも浅間C軽石粒を含む(写真図版参照)。遺物 伴出遺物はない。**重複** 単独で占地。方位 137° 所見 根固め土及び柱痕覆土が黒色土で、浅間C軽石粒を含むことから、浅間C軽石の降下から余り時間の経過しない時期で、古墳時代前期と考えられる。古墳時代前期の掘立柱建物は、軸線を真北から西側あるいは東側に45°前後傾ける傾向にあり、この傾向は竪穴住居、畑にも共通している。



7号掘立柱建物 (PL. 156)

形状 柱間は1間×2間で、四隅に位置する柱穴の芯々を結ぶと長軸3.4m、短軸2.7mの長軸を東西にもつ長方形を示す。北辺中央の柱穴のみは、四隅の柱穴を結ぶ軸線上からやや外側にずれる。**柱穴** いずれの柱穴もやや不整形な掘り方であるが、南辺中央のものを除いて長方形を基調とし、確認面からの深さはいずれも50~60cm。覆土 浅間C軽石粒を含む黒色土。遺物 伴出遺物はない。**重複** 単独で占地。方位 55° 所見 浅間C軽石粒を含む覆土の状況から、浅間C軽石の降下から余り時間の経過しない時期の古墳時代前期と考えられ、覆土の状況から古墳時代前期と想定できる9号溝に接するように立地する。



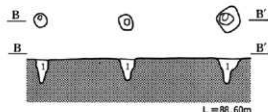
7号掘立柱建物

8号掘立柱建物(PL.156)

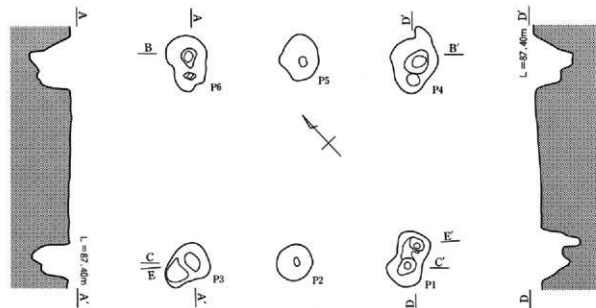
形状 柱間は1間×2間で、芯々を結ぶと長軸3.9m、短軸3.6mのほぼ正方形を示す。柱穴 直径30~50cm、確認面からの深さ50~70cm。覆土 浅間C軽石粒を含む黒色土。遺物 伴出遺物はない。重複 12号住居の周囲を巡る溝と遺構全体として重複。柱穴と溝との直接的な重複がなく、新旧関係を判定する資料を欠く。方位 122° 所見 浅間C軽石粒を含む覆土の状況から古墳時代前期と考えられる。



8号掘立柱建物
1 黒色土。As-C粒含む。



8号掘立柱建物
0 1 : 80 2m



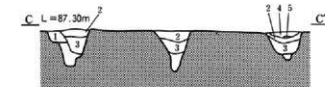
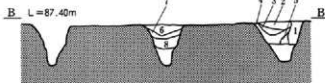
9号掘立柱建物

B-B'

- 1 黒褐色土。上下にロームのブロック、中間に黒色土含む。
- 2 暗褐色土。微量のAs-C粒含み砂質。
- 3 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 4 茶褐色土。ローム粒、下部に赤茶土、As-C純層含む。
- 5 黒褐色土。1~5の中で最も固い。
- 6 黒褐色土。微量のAs-C粒含む。
- 7 茶褐色土。As-Cの純層含む。
- 8 黒褐色土。一部に赤茶(鉄分)のブロック含む。

C-C'

- 1 茶褐色土。ロームと黒色土の混土。
- 2 黒褐色土。少量のAs-C粒含む。
- 3 暗褐色土。多量のローム細粒、少量のAs-C粒含む。
- 4 茶褐色土。黒色土に鉄分の多い赤茶土の混土。
- 5 黄色土。黒色土とロームの混土。

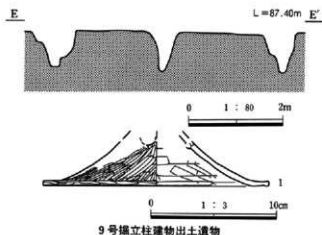


9号掘立柱建物

0 1 : 80 2m

9号掘立柱建物(PL.157・観察表45頁)

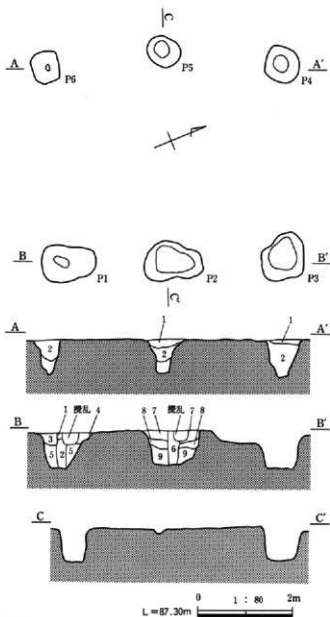
形状 柱間は1間×2間で、芯々を結ぶと長軸4.8m、短軸4.3mの長軸を南北にもつ整った長方形を示す。柱穴 直径70~100cmのやや不整形な掘り方で、確認面からの深さ80~90cm。覆土 黒褐色土を主体とし、浅間C軽石粒を含む。遺物 覆土内から土師器の高塚が出土。重複 単独で占地。方位 136° 所見 浅間C軽石粒を含む覆土の状況から古墳時代前期と考えられ、伴出する土師の年代も一致する。



9号掘立柱建物出土遺物

10号掘立柱建物(PL.158)

形状 柱間は1間×2間で、芯々を結ぶと長軸4.9m、短軸4.1mの長軸を南北にもつ整った長方形を示す。柱穴 直径50~100cmの不整形な掘り方で、確認面からの深さ70~80cm。2個の柱穴から直径20cmほどの柱痕を検出。覆土 根固め土は黒褐色土とロームの混土を主体とし、柱痕の覆土に浅間C軽石粒を含む。遺物 伴出遺物はない。重複 遺構の北東側で66号住居と重複。新旧関係を判定する資料を欠く。方位 21° 所見 浅間C軽石粒を含む覆土の状況から古墳時代前期と考えられ、根固め土に浅間C軽石粒を含まないことから、浅間C軽石の降下以前の可能性がある。



10号掘立柱建物

A-A'

- 1 暗褐色土。少量のAs-C粒、微量のローム粒を含む。
- 2 黒褐色土。多量のローム小ブロック、少量の大粒を均一に含む。

B-B'

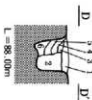
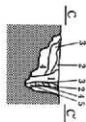
- 1 黒褐色土。少量のローム粒を含む。
- 2 暗褐色土。暗褐色土とローム小ブロックの混土。
- 3 暗褐色土。2層に近いがローム量が少ない。
- 4 黒褐色土。黒褐色土とローム小ブロックの混土。
- 5 黒褐色土。4層に近いがロームブロックの量が多い。
- 6 暗褐色土。多量の黒褐色土ブロック、ローム大粒、微量のAs-C粒を含む。
- 7 暗褐色土。ロームブロック・粒子及び黒褐色土ブロックの混土。
- 8 暗褐色土。黒褐色土主体で、ロームブロック含む。
- 9 黒褐色土。黒褐色土主体でローム粒・ブロック含む。

10号掘立柱建物

11号掘立柱建物(PL.159・観察表45頁)

形状 柱間は1間×2間で、芯々を結ぶと長軸4.8m、短軸3.9mの長軸を東西にもつ整った長方形を示す。柱穴 長軸1.0m、短軸70cmほどの長方形を基本とする不整形な掘り方で、確認面からの深さ60~80cm。2個の柱穴から直径10cmほどの柱痕を検出。覆土 根固め土は暗褐色土とロームの混土を主体と

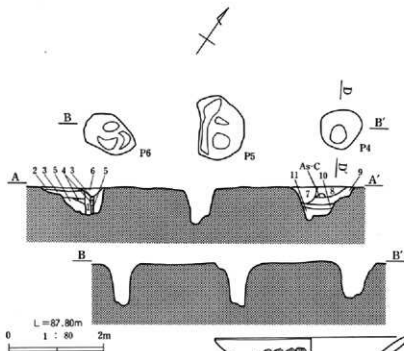
し、根固め土及び柱痕の覆土に浅間C軽石粒を含む。遺物 土師器の壺・壺・器台が出土。重複 畑と重複。新旧関係を判定する資料を欠く。方位 57°所見 根固め土及び柱痕の覆土に浅間C軽石粒を含むことから、浅間C軽石の降下から余り時間の経過しない時期で、古墳時代前期と考えられ、伴出する土器の年代も一致する。



11号掘立柱建物

A-A'

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒を均一に含む。
- 2 暗褐色土。多量のAs-C粒とローム大粒含む。
- 3 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒とブロック含む。
- 4 黒褐色土。少量のローム大粒含む。
- 5 暗褐色土。ロームブロックと黒褐色土の混土。
- 6 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム粒含む。
- 7 暗褐色土。多量のAs-C粒、ローム小ブロック含む。
- 8 黄褐色土。微量のAs-C粒含むロームブロック・粒子主体の層。
- 9 暗褐色土。少量のローム大粒含む。
- 10 黒褐色土。少量のローム粒と小ブロック含む。
- 11 暗褐色土。少量のAs-C粒とローム粒含む。

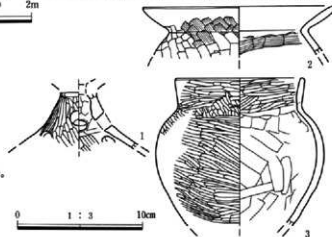


C-C'

- 1 暗褐色土。少量のローム粒含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒、微量のAs-C粒微量含む。
- 3 暗褐色土。多量のローム粒とブロック含む。
- 4 暗褐色土。3層よりもブロックが大きく多い。
- 5 暗褐色土。ロームを含まない。

D-D'

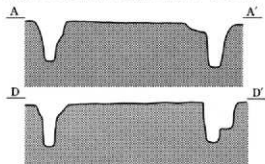
- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、微量のローム粒含む。
- 2 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム大粒含む。
- 3 黒褐色土。少量のAs-C粒、微量のローム粒含む。
- 4 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム小ブロック含む。
- 5 暗褐色土。4層に近いがロームブロック更に多い。
- 6 暗褐色土。少量のローム粒含む。



11号掘立柱建物出土遺物

12号掘立柱建物 (PL.160・観察表45頁)

形状 柱間は1間×2間で、芯々を結ぶと長軸4.6m、短軸3.5mの長軸も南北にもつ整った長方形を示す。柱穴 直径70cmほどの不整形円形を基本とする掘り方で、確認面からの深さ70~90cm。3個の柱穴から直径10~20cmほどの柱痕を検出。覆土 根固め土は暗褐色土を主体とし、根固め土及び柱痕の覆土に浅間C軽石粒を含む。遺物 土師器の甕が出土。重複 畑と重複。新旧関係を判定する資料を欠く。方位 138° 所見 根固め土及び柱痕の覆土に浅間C軽石粒を含むことから、浅間C軽石の降下から余り時間の経過しない時期で、古墳時代前期と考えられ、伴出する土器の年代も一致する。



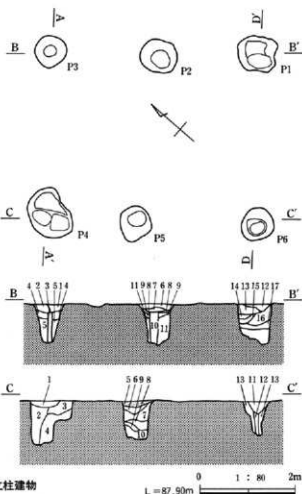
12号掘立柱建物

B-B'

- 1 茶褐色土。多量のAs-C粒含む、ロームが下半分にブロック状に有り。
- 2 暗褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 3 暗褐色土。微量のAs-C粒、ローム粒含む。
- 4 暗褐色土。少量のAs-C粒、ロームブロック大含む。
- 5 暗褐色土。ローム粒小とブロックが散在。
- 6 茶褐色土。多量のAs-C粒含むローム色に近い。
- 7 暗褐色土。多量のAs-C粒含む。
- 8 茶褐色土。多量のローム、極少量のAs-C粒含む。
- 9 暗褐色土。少量のAs-C粒含む。
- 10 暗褐色土。As-C粒を9と同程度含む、上部に少量のローム粒含む。
- 11 黒褐色土。As-C粒を8より更に少量含む。
- 12 黒褐色土。多量のAs-C粒、微量のローム粒含む。
- 13 茶褐色土。微量のAs-C粒、少量のローム粒含む。
- 14 暗褐色土。As-C粒が13より更に少量。
- 15 茶褐色土。ローム色に近く、少量の黒色土含む。
- 16 黒褐色土。少量のローム粒含む。
- 17 暗褐色土。黒色土とロームの混層。

C-C'

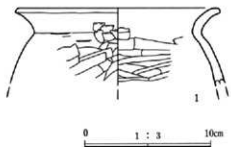
- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒、微量のローム粒含む。
- 2 暗褐色土。微量のAs-C粒、少量のローム大粒含む。
- 3 暗褐色土。多量のAs-C粒、ローム粒含む。
- 4 暗褐色土。ロームブロック主体の層と、黒褐色土が互層。
- 5 黒褐色土。As-Cの純層(ブロック状)含む。
- 6 黒褐色土。少量のローム粒、多量のAs-C粒含む。
- 7 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒・ブロック含む。



12号掘立柱建物

0 1 : 80 2m

- 8 暗褐色土。少量のローム粒含む。
- 9 黄褐色土。ロームブロック主体の層。
- 10 黒褐色土。少量のローム小ブロック含む。
- 11 暗褐色土。As-C粒を多く含む。
- 12 暗褐色土。11層に近いがAs-C粒を含まない。
- 13 暗褐色土。多量のローム粒とブロック含む。

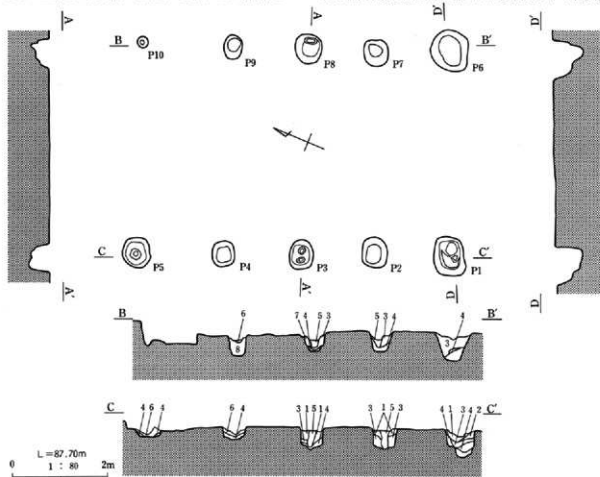


12号掘立柱出土遺物

13号掘立柱建物 (PL.161・観察表45頁)

形状 柱間は1間×4間で、芯々を結ぶと長軸6.7m、短軸4.4mの長軸を南北にもつ整った長方形を示す。柱穴 長軸60cm、短軸50cmほどの整った長方形を基本とする掘り方で、確認面からの深さ30~60cm、4個の柱穴から直径15cmほどの柱痕を検出。覆土 根固め土は黒褐色土とロームの混土を主体とし、根固め土及び柱痕の覆土に浅間C軽石粒を含む。遺物 土師器の破片が出土。重複 127号住居と

重複。13掘立のビットが127住の柱穴覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。方位 155° 所見 根固め土及び柱痕の覆土に浅間C軽石粒を含むことから、浅間C軽石の降下から余り時間の経過しない時期で、古墳時代前期と考えられ、伴出する土器の年代も一致。この遺跡では古墳時代前期に比定できる掘立柱建物が8棟あるが、この掘立柱建物を除く7棟の柱間はいずれも1間×2間で、この掘立柱建物は柱間、規模、竪穴住居との重複状況がやや特異。



13号掘立柱建物

13号掘立柱建物

- 1 黒褐色土。少量のAs-C粒、ローム大粒を均一に含む。
- 2 黒褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム大粒・ローム粒含む。
- 3 黒褐色土。微量のAs-C粒、多量のローム大粒・小ブロック含む。
- 4 黄褐色土。ローム主体で少量の暗褐色土含む。
- 5 暗褐色土。多量のローム粒、少量のAs-C粒含む(柱痕)。
- 6 黒褐色土。少量のAs-C粒、ローム小ブロック、多量のローム粒含む。
- 7 黄褐色土。ローム粒・小ブロックと暗褐色土の混土。
- 8 黒褐色土。少量のAs-C粒、ローム大粒含む(127号住居構築面覆土?)。



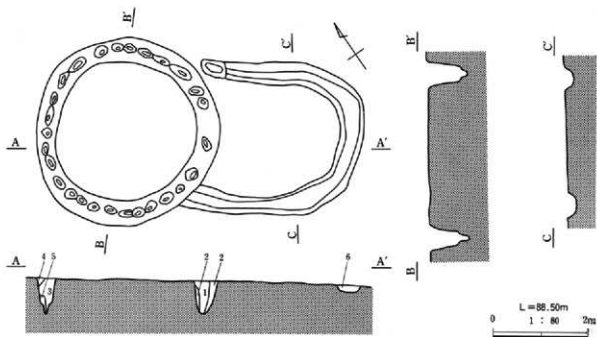
13号掘立柱建物出土遺物

5 平地式建物

1号平地式建物(PL.135)

形状 直径2.0mのほぼ正円形を示す主体部に、軸幅1.6m、軸長1.7mの馬蹄形をした浅い溝状の掘り込みが取り付く。主体部の溝は幅25cm、深さ30cmで、底面には直径10cm、底面からの深さ10cmほどの楕円形状ビット27個が、ほぼ間を空けることなく肩を並べるように全周。馬蹄形の溝が取り付く部分のみは、中央部の1個から両側等間隔に20cmの間をもつ。一部に柱痕と思われる断面を確認したことから、これらのビットは柱穴の可能性がある。馬蹄形の溝は幅25cm、深さ10cmで、北側の取り付け部は底面が主体部の溝に貫通しておらず、手前で止まる。覆土 暗褐色土とロームブロックの混土を主体とし、浅間C軽石粒を含む。一部に柱痕と考えられる断面を確認していることと、ロームブロックを比較的多く含むことから、根固め土の可能性もある。床面 生活

面は削平されて主体部、馬蹄形の部分ともに確認できない。柱穴 主体部のなかに柱穴はなく、壁外柱穴も確認できない。炉 確認できない。貯蔵穴 無し。遺物 伴出遺物はない。重複 単独で占地。方位 128° 所見 浅間C軽石粒を含む覆土の状況から、古墳時代前期の遺構と考えられる。この遺跡における古墳時代前期の竪穴住居・掘立柱建物・畑は、その軸線を真北から西側あるいは東側に45°前後傾けて位置する傾向にあり、この遺構も軸線を北西方向から南東方向にとり、近接する古墳時代前期の竪穴住居である11・12号住居に軸線の傾きが近似している。主体部の溝の底面に確認したビットが柱穴であるとなれば、馬蹄形の溝が取り付く範囲を除いて、遺構をほぼ全周するように柱が立つことになる。



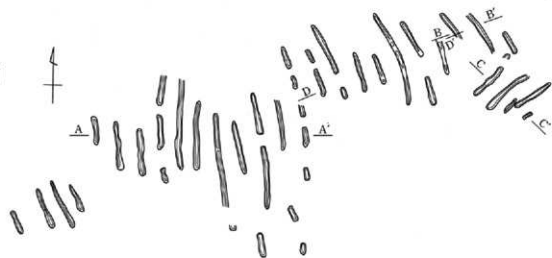
平地式建物

1号平地式建物

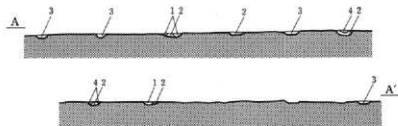
- 1 暗褐色土。As-C粒、少量のローム粒含む。
- 2 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム粒・ブロック含む。
- 3 黒褐色土。多量のAs-C粒、微量のロームブロック含む。
- 4 暗褐色土。微量のAs-C粒、多量のローム粒含む。
- 5 黄褐色土。ロームブロック主体。
- 6 暗褐色土。少量のAs-C粒、多量のロームブロック含む。

1号平地式建物

6 畑



0 1 : 300 10m



1 群畑 A-A'

1 黒褐色土、火山灰を均一に含む。

2 黄褐色土、黒褐色土含む。

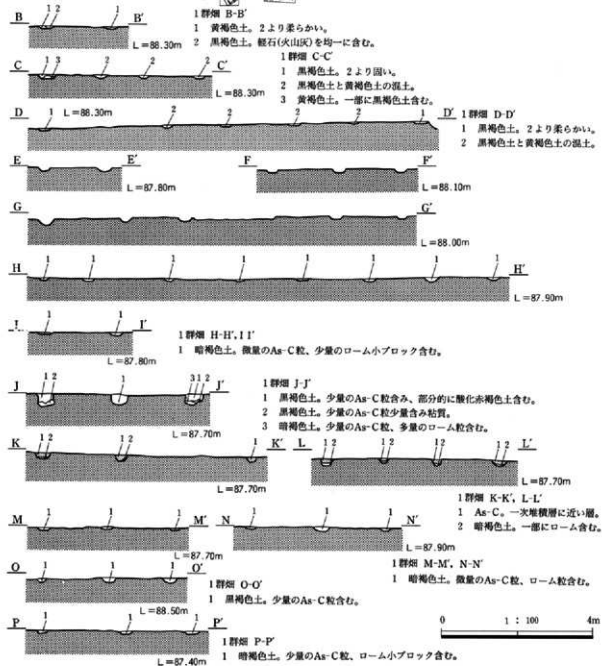
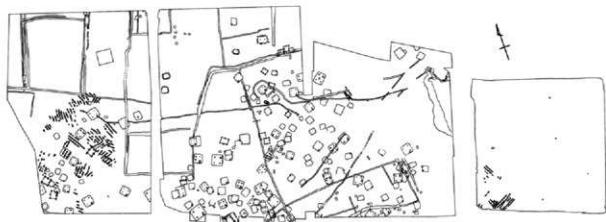
3 黒褐色土と黄褐色土の混土。

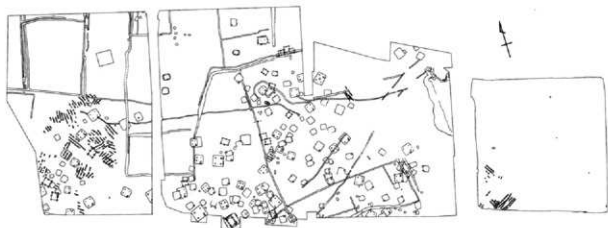
4 黒褐色土。

L=88.10m

0 1 : 100 4m

1 群畑

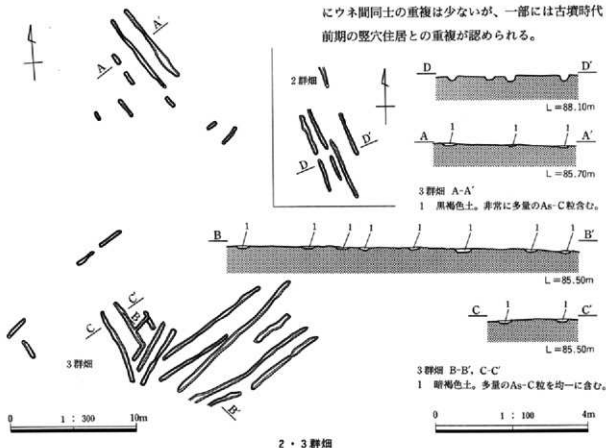




畑の概要

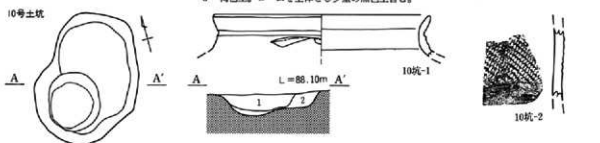
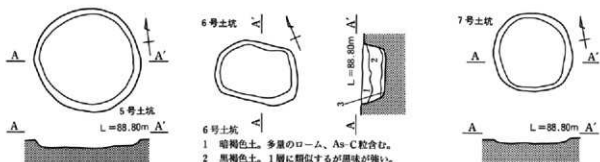
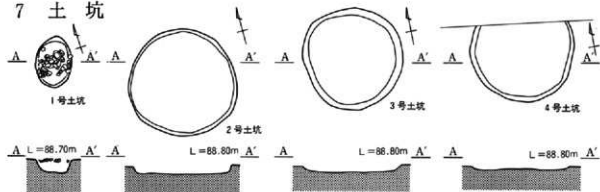
畑は、主として遺跡の南西部と南東部で検出した。地形はいずれも、台地から低地へ移行する僅かな傾斜地の部分である。竪穴住居が広がる台地の中央部にも存在していた可能性が高いが、これらはその後の耕作により削平されたものと考えられる。火山灰等に直接覆われた確実な旧地表面として検出したものではなく、いずれも耕作時のウネ間の痕跡として確認した。平均的なウネ間の幅は確認面で幅10cm、深

さ10cmほどで、ウネ間の間隔は芯々で50cm前後である。この遺跡における古墳時代前期の竪穴住居・掘立柱建物は、その軸線を真北から西側あるいは東側に45°前後傾けて位置する傾向にある。これらのウネ間も軸線を北西方向から南東方向にとるものと、これにはほぼ直交する軸線をもち、平安時代の竪穴住居とは軸線の傾きを異にしている。覆土がAs-C粒を含む黒褐色土であることから、古墳時代前期の竪穴住居に平行する時期のものと考えられる。全体的にウネ間同士の重複は少ないが、一部には古墳時代前期の竪穴住居との重複が認められる。

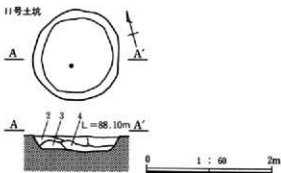


2・3群畑

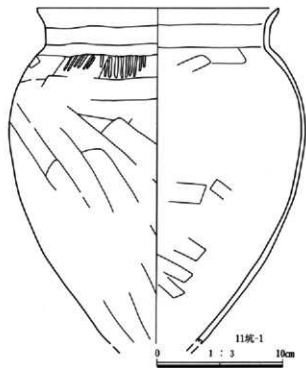
7 土坑



- 10号土坑
- 1 黒褐色土。僅かなローム粒、少量のAs-C粒含む。
 - 2 茶に近い黒褐色土。黒色土とロームの混土で、As-C粒含む。



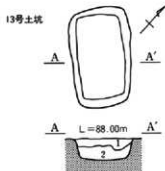
- 11号土坑
- 1 茶褐色土。僅かな礫土、As-C粒含む。
 - 2 黒褐色土。As-C粒を4よりも多く含む。
 - 3 茶褐色土。1よりもロームを多く含み、微量のAs-C粒含む。
 - 4 黒褐色土。2とほぼ同色で少量のAs-C粒含む。





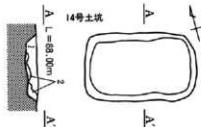
12号土坑

- 1 暗褐色土。少量のローム小ブロック含む。
- 2 黒褐色土。少量のローム粒含む。



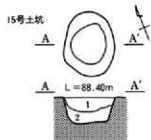
13号土坑

- 1 黒褐色土。少量のAs-C粒、多量のローム小ブロック含む。
- 2 黒褐色土。多量のローム小ブロック含む。



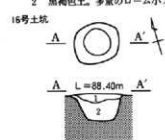
14号土坑

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒、ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒含む。



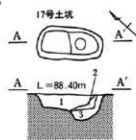
15号土坑

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒、ローム小ブロック含む。



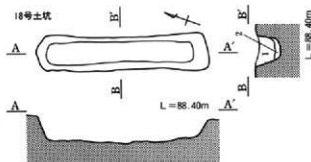
16号土坑

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒、ローム小ブロック含む。



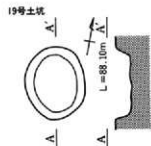
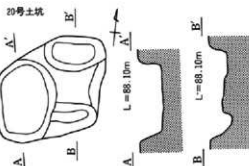
17号土坑

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒、少量のローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 3 暗褐色土。2層より多くローム粒含む。

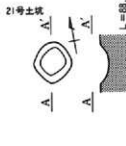


18号土坑

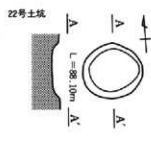
- 1 黒褐色土。少量のAs-C粒、ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土。多量のロームブロック含む。



19号土坑

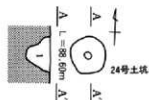


21号土坑



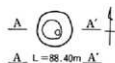
22号土坑

0 1 : 60 2m

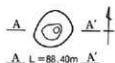


24号土坑

- 1 黒褐色土。まばらにローム粒、少量のAs-C粒を含む。



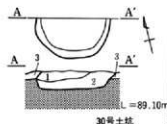
25号土坑



26号土坑



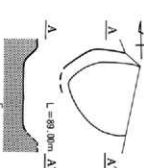
27号土坑



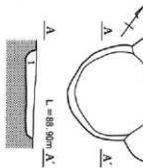
30号土坑

30号土坑

- 1 茶褐色土。少量のAs-C粒、ローム粒を均一に含む。
2 黒褐色土。ローム粒を均一に含む。
3 黄褐色土。2より柔らかい。

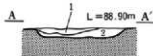


31号土坑



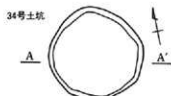
33号土坑

- 1 黒褐色土。ローム粒を均一に含む。



32号土坑

- 1 茶褐色土。少量のローム粒を含む。
2 黒褐色土。まばらにローム粒を含む。



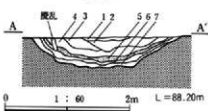
34号土坑

- 1 茶褐色土。少量のローム粒を含む。

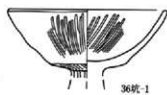


35号土坑

- 1 黒褐色土。酸化のため赤褐色化した部分がある。
2 茶褐色土。粘土質で下部にローム粒を含む。



0 1 : 60 2m L = 88.20m



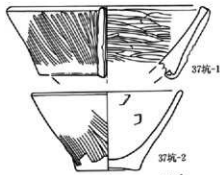
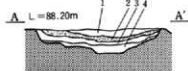
36坑-1



36坑-2

36号土坑

- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒を含む。
2 褐色土。As-C粒主体。
3 褐色土。As-C粒を1層よりも多く含む(2層と一連の堆積の可能性あり)。
4 黒褐色土。As-C粒を均一に多く含む。
5 As-C。一次堆積層。
6 黒褐色土。As-C粒を全く含まず。少量のローム粒を含む。
7 黄褐色土。ローム小ブロックと暗褐色土の混土。



37号土坑

- 1 黒褐色土。As-C粒を均一に多く含む。
- 2 As-C。一次堆積層。
- 3 黒褐色土。As-C粒を全く含まず、少量のローム粒含む。
- 4 黄褐色土。ローム小ブロックと暗褐色土の混土。

39号土坑



- 1 As-C。一次堆積層。
- 2 暗褐色土。

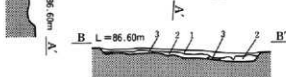
38号土坑



38号土坑

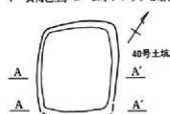
- 1 黒褐色土。多量のAs-C粒を含む。
- 2 褐色土。As-C粒を1層よりも多く含む(2層と一連の堆積の可能性あり)。
- 3 褐色土。As-C粒主体。
- 4 黒褐色土。As-C粒を均一に多く含む。
- 5 As-C。一次堆積層。
- 6 黒褐色土。As-C粒を全く含まず、少量のローム粒を含む。
- 7 黄褐色土。ローム小ブロックと暗褐色土の混土。

42号土坑



42号土坑 B-B'

- 1 灰褐色土。As-C粒を含む、砂質。
- 2 黒褐色土。少量のAs-C粒を含む。
- 3 黄褐色土。ローム。

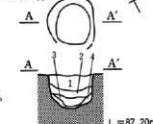


43号土坑

- 1 灰褐色土。多量のAs-B含む暗褐色土とロームの混土。



44号土坑



44号土坑

- 1 暗褐色土。多量のAs-C粒、少量の焼土粒と炭化物を含む。
- 2 暗褐色土。微量のAs-C粒、ローム小ブロックを均一に含む。
- 3 暗褐色土。2層よりもロームが多く、ベースの土も黒い。
- 4 暗褐色土。ロームブロックと暗褐色土の混土。

